

第二十條 基金經濟上ノ便宜ニ由リテハ御資部ヨリ繰替借ヲ爲スコトヲ得、其返戻ハ次年度ニ涉ルコトヲ得ズ、但シ用途ノ性質ニ由リ年期ヲ定メ之ヲ返戻スルコトヲ得。

第二十一條 御料部ノ歳入ノ假納、歳出ノ假出ヲ爲スコトヲ得、其精算ハ次年度ニ涉ルコトヲ得ズ。

第二十二條 毎年度豫算中ニ豫備金ヲ置キ避ク可カラザル豫算ノ不足ヲ補ヒ又ハ豫算外ニ生ジタル支出ニ充ツルコトヲ得。

第二十三條 御料部ハ金圓ヲ借入又ハ貸出スコトヲ得ズ。

第二十四條 御料部ハ大藏省又ハ銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得。

第二十五條 一年度内ニ竣功スベキ工事製造其他ノ事業ニ係ル費途ニシテ其年度内ニ支出ヲ了スル能ハザル事由アルトキハ之ヲ次年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得。

第二十六條 數年ヲ期シ竣功スベキ工事製造其他ノ事業ニ係ル費途ハ繼續費トシ毎年度ノ殘額ヲ竣功年度マデ繰越シ使用スルコトヲ得。

第二十七條 財本ノ會計ハ毎年度内現ニ出納セシモノヲ以テ年度末日ニ完結シ累計額ヲ以テ順次後年度ニ繰越ス。

第三章 御資部會計

第二十八條 御資部ハ現存ノ御貯蓄（即チ動産）ヲ財本トシ爾後歳入出ノ殘餘其他常用部ノ殘餘移入特殊ノ加挿金等ヲ以テ其財本ニ加フ。

第二十九條 御資部ハ財本ノ經濟ヲ主トシ其財本ヨリ生ズル收入ヲ歳入トシ、其財本ニ係ル經費ヲ歳出トス。

第三十條 御資部會計ハ左ノ如ク區分シテ之ヲ經理ス。

一、財本會計

一、歳入出會計

過般經濟會議議定ノ趣意ニ基キ本條ヲ加フ。

第三十一條 御資部ノ財本ハ御料部基金若クハ特別會計ノ事業資本ニ分置スルコトヲ得、其異動ハ更ニ分置スルモノハ直ニ之ヲ訂正シ其他ハ毎年度其會計完結ノ上之ヲ訂正ス。

(分割譲與其他)ノ六字ヲ削ル。

第三十二條 御資部財本ハ御料部常用部ニ移入シ及ビ特旨ニ出ヅルモノノ外支出スルコトヲ得ズ。

第二項ヲ削ル。

第三十三條 御資部財本ヲ編入スベキ動産ノ種類制限ハ豫ジメ之ヲ定ム。

第三十四條 御資部ハ時宜ニ由リ特ニ裁可ヲ經テ金圓ヲ借入ル、コトヲ得。

第三十五條 御資部ハ金圓ヲ貸出スコトヲ得ズ、但シ常用部ノ歳出補足ノ爲メ假貸シ次年度ニ於テ返入スルハ此限ニアラズ。

御料部修正ノ趣意ニ隨ヒ本條但書ヲ加フ。

第三十六條 御資部ハ常用部ヨリ一時繰替借ヲ爲シ御料部常用部ニ一時繰替貸ヲ爲シ又歳入ノ假納、歳出ノ假出ヲ爲スコトヲ得、其返戻ハ次年度ニ涉ルコトヲ得ズ、但シ御料部ニ對スル繰替貸ハ用途ノ性質ニ由リ年期ヲ定メテ之ヲ返戻スルコトヲ得。

第三十七條 御資部ハ大藏省又ハ銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得。

第三十八條 御資部ハ總テ毎年度内現ニ出納セシモノヲ以テ年度末日ニ完結シ其財本ノ累計額ヲ以テ順次後年度ニ繰越ス。

第四章 常用部會計

第三十九條 常用部ハ國庫ヨリ支出ノ皇室費其他常用部ニ編入スベキ性質アル收入ヲ歳入トシ、皇室諸般ノ經費事業資等ヲ以テ歳出トス。

原按第三十八條ヲ削除シテ本條ニ但

第四十條 常用部ノ會計ハ左ノ如ク區分シ、各其主管ヲ定メテ之ヲ經理ス、但シ皇太后宮費、皇

書ヲ加フ、又更ニ
皇后宮費ヲ内經濟
ノ部ニ加ヘ、尙ホ
末ノ各宮内經濟會
計ノ一項ヲ削ル。

后宮費、東宮費、一家ヲ立テザル御直宮費ハ常額ヲ定メテ支出シ別ニ内經濟ヲ立ツ。

一、總括會計

一、分派會計

一、特別會計

第四十一條 常用部歳入歳出ハ經常ト額外ト臨時トヲ區別シテ之ヲ經理ス。

第四十二條 經常歳出ハ各科目ニ就キ豫メ將來ノ固定歳額若クハ概定歳額ヲ定ム。

第四十三條 常用部ハ毎年度豫算中ニ豫備金ヲ置キ歳費豫算外ニ生ズル支出ニ充ツ。

第四十四條 事業資其他ノ事件費ニシテ別途経備ヲ必要トスルモノハ常額ヲ定メテ支出シ特別會計ヲ立ツ。

第四十五條 未渡金回送金及ビ受記管守ニ係ル出入ハ雜部トシ特別會計ヲ立ツ。

第四十六條 分派會計ニ係ル收入金ハ總テ各主管部局長ヨリ内藏寮ニ納付スベシ、直ニ支出ニ充ルコトヲ得ズ。

(内經濟會計)ノ五
字ヲ削ル。 特別會計ニ係ル收入金ハ直ニ支出ニ充ルコトヲ得。

第四十七條 分派會計ニ係ル支出金ハ各主管部局長ヨリ内藏寮ニ對シ支拂切符ヲ發シテ其支出ヲ要求スルモノトス。

(内經濟會計)ノ五
字ヲ削ル。 特別會計ニ係ル支出金ハ内藏寮ニ寄託シ各主管部局長ヨリ引出切符ヲ發シテ其支出ヲ要求スルモノトス。

第四十八條 土木其他ノ事件ニ係ル經費ニシテ支出數年ニ涉ルベキモノハ繼續費トシ數年ニ分割會計ヲ立ルコトヲ得。

第四十九條 各年度ニ於テ決定シタル經費豫算額ノ内其年度ニ於テ支出ヲ了スル能ハザル事由アルモノハ現支出額ヲ以テ決算シ其豫算殘額ヲ次年度所屬ノ歳出ニ移スコトヲ得。

此場合ニ於テハ其豫算殘額相當ノ金額ヲ次年度ノ歳入ニ繰入ル、コトヲ得。

(内經濟會計)ノ五
字ヲ削ル。

第五十條 分派會計ニ係ル各年度ノ豫算殘額ハ次年度ニ繰越スコトヲ得ズ。

特別會計ニ係ル各年度ノ殘餘ハ次年度ニ繰越若クハ豫備資ニ積立ルコトヲ得。

第五十一條 總歲入ヲ以テ總歲出ヲ支辨シ剩ル所ノ金額ハ第四十九條ノ次年度繰入額ヲ除クノ外總テ御資部ニ移入ス。

第五十二條 非常ノ事件ニ係ル經費ヲ要シ歲入歲出相償ハザルコトアル年ハ御資部ヨリ移入ヲ受テ之ヲ補足ス。

第五十三條 常用部ハ金圓ヲ借入ル、コトヲ得ズ、但シ歲入歲出相償ハザルコトアル年ハ御資部ヨリ假借シテ補辨スルコトヲ得、此場合ニ於テハ次年度ニ於テ之ヲ返戻ス。

第五十四條 常用部ハ特旨ニ出ヅルモノノ外金圓ヲ貸出スコトヲ得ズ。

(御料部)ノ三字ヲ
削ル。

第五十五條 常用部ハ御資部ヨリ一時繰替借ヲ爲シ御資部其他ニ一時繰替貸ヲ爲シ又歲入ノ假

納、歲出ノ假出ヲ爲スコトヲ得、但シ其返戻ハ何レモ次年度ニ涉ルコトヲ得ズ。

(内經濟會計)ノ五
字ヲ削ル。

第五十六條 常用部ハ利殖ノ經濟ヲ爲スコトヲ得ズ、但シ特別會計ニ屬スルモノハ此限ニアラズ。

第五十七條 年度ニ先チ出納ヲ要スルモノアルトキハ其年度豫算決定セシ上其出納ヲ開始スルコトヲ得。

皇室會計法

第一章 總 則

- 第一條 皇室會計法ハ皇室財政經理ノ典則ヲ云フ。
- 第二條 皇室ノ會計ヲ大別シテ御料部、御資部、常用部トス。
- 第三條 會計ハ其歲入歲出ノ性質ニ由リ科目ヲ定メテ之ヲ經理ス。
- 第四條 皇室ノ會計年度ハ曆年ニ據ル。
- 各年度所屬出納ニ關スル事務ハ次年六月三十日迄ニ之ヲ完結スベシ。
- 第五條 前年度以前ニ係ル出納ノ脱落若クハ過誤出納訂正ノ爲メ收支ヲ要スルトキハ現ニ發見セシ年度ノ歲入歲出ニ立ツ。
- 第六條 御料部ニ係ル現金ハ御料局長ニ其管守出納ヲ專任ス。

- 御資部常用部ニ係ル現金ハ内藏頭ニ其管守出納ヲ專任ス。
- 御料局長内藏頭ハ宮内大臣ノ認可ヲ請ケテ銀行ニ現金取扱方ヲ命ズルコトヲ得。
- 御料局長内藏頭ハ宮内大臣ノ認可ヲ請ケテ他ノ地方ニ於テ出納スベキ現金ノ管守取扱ヲ其地方ニ在ル官吏ニ分任スルコトヲ得。
- 第七條 工事ノ請負及ビ物件ノ購入拂下ハ競争ニ付スルモノトス。
- 但シ特旨ニ出ヅルモノ及ビ競争ニ付スル能ハザルモノハ此限ニ非ラズ。
- 第八條 皇室ノ會計ハ皇室會計審査局ヲシテ審査セシム、其審査條規ハ別ニ之ヲ定ム、但シ御内儀用ノ會計ハ皇后宮大夫ニ專任シ、内經濟ノ會計ハ主管長ヲシテ經理セシメ、内藏頭之ヲ監査シ會計審査局ノ審査ヲ要セザルモノトス。
- 第九條 皇室ノ會計執行ノ條規ハ宮内大臣之ヲ定ム。

第二章 御料部會計

- 第十條 御料部ノ財本ハ之ヲ二種ニ區分シ、第一種御料、第二種御料トス。
- 第一種御料ハ皇室典範ニ據リ世傳御料ニ編入シタル不動産トス。

第二種御料ハ世傳御料ニ編入セザル不動産トス、但シ經濟ノ便宜ニ由リ動産ヲ以テ財本トスルコトヲ得。

第十一條 御料部ハ財本ノ經濟ヲ主トシ、其財本及ビ作業ヨリ生ズル諸收入ヲ歲入トシ、御料全體ニ係ル諸經費作業費等ヲ歲出トス。

第十二條 御料部會計ハ左ノ如ク區分シテ之ヲ經理ス。

- 一、財本會計
- 一、作業會計
- 一、常用會計
- 一、雜部會計

第十三條 御料ニ屬スル土地ハ其地質ニ應ジテ適當ノ事業ヲ施スモノトス、但シ經濟ノ便宜ニ由リ之ヲ貸付シテ料金ヲ收ムルコトヲ得。

諸事業及ビ一般貸付ニ關スル條規ハ宮内大臣之ヲ定ム。

第十四條 第二種御料ハ經濟上ノ得失ニ由リ其種類ヲ變換スルコトヲ得。

第十五條 第二種御料ニ屬スル土地ハ正當ノ理由アルトキニ限リ御料中ヨリ除外スルコトヲ得

第十六條 御資部ヨリ移入スルモノハ第二種御料ノ財本ニ加フ。

第十七條 第一種、第二種兩御料ノ諸收入ハ總テ第二種御料ノ歲入ニ立之ヲ以テ御料全體ニ係ル歲出ヲ支辨シ其殘餘ハ第二種御料ノ財本ニ加フ、但シ經濟ノ實況ニ依テハ其殘餘ヲ次年度ノ歲入ニ繰入ル、コトヲ得。

歲入歲出相償ハザル年度ニ在テハ御資部ヨリ移入スル金圓ヲ以テ其不足ヲ補辨スルコトヲ得。

第十八條 御料部ハ毎年度豫算中ニ豫備金ヲ置キ歲費豫算外ニ生ズル支出ニ充ルコトヲ得。

第十九條 御料部ハ金圓ヲ借入又ハ貸出スコトヲ得ズ。

第二十條 御料部ハ御資部又ハ常用部ヨリ繰替借ヲ爲シ又歲入ノ假納、歲出ノ假出ヲ爲スコトヲ得、但シ其返戻ハ次年度ニ涉ルコトヲ得ズ。

第二十一條 御料部ハ大藏省又ハ銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得。

第二十二條 第二種御料ノ財本ハ毎年度内現ニ出納セシモノヲ以テ年度末日ニ完結シ、累計額ヲ以テ順次後年度ニ繰越ス、歲入歲出ノ會計ハ第四條ノ完結期迄ニ整理ヲ了スルモノトス。

第三章 御資部會計

第二十三條 御資部ハ現存ノ御貯蓄（即チ動産）ヲ財本トシ、爾後歳入出ノ殘餘其他常用部ノ殘餘移入、特殊ノ加挿金等ヲ以テ其財本ニ加フ。

第二十四條 御資部ハ財本ノ經濟ヲ主トシ、其財本ヨリ生ズル諸收入ヲ歳入トシ、其財本ニ係ル經費ヲ歳出トス。

第二十五條 御資部會計ハ左ノ如ク區分シテ之ヲ經理ス。

一、財本會計

一、歳入出會計

第二十六條 御資部財本ハ御料部常用部ニ移入シ及ビ分割讓與其他特旨ニ出ヅルモノノ外支出スルコトヲ得ズ。

第二十七條 御資部財本ニ編入スベキ動産ノ種類制限ハ豫ジメ之ヲ定ム。

制限中ノ種類ハ經濟ノ得失ニ由リ彼此變換スルコトヲ得。

第二十八條 御資部ハ時宜ニ由リ特ニ裁可ヲ經テ金圓ヲ借入ル、コトヲ得。

第二十九條 御資部ハ金圓ヲ貸出スコトヲ得ズ、但シ常用部歳出補足ノ爲メ假貸シ次年度ニ於テ返入スルハ此限ニ非ラズ。

第三十條 御資部ハ常用部ヨリ繰替借ヲ爲シ御料部常用部ニ繰替貸ヲ爲シ又歳入ノ假納、歳出

ノ假出ヲ爲スコトヲ得、但シ何レモ其返戻ハ次年度ニ涉ルコトヲ得ズ。

第三十一條 御資部ハ總テ毎年度内現ニ出納セシモノヲ以テ年度末日ニ完結シ、其財本ノ累計額ヲ以テ順次後年度ニ繰越ス。

第四章 常用部會計

第三十三條 常用部ハ國庫ヨリ支出ノ皇室費其他常用部ニ編入スベキ性質アル收入ヲ歳入ト

シ、皇室諸般ノ經費事業資等ヲ以テ歳出トス。

第三十四條 常用部ノ會計ハ左ノ如ク區分シ各其主管ヲ定メテ之ヲ經理ス。

一、總括會計

一、分派會計

一、特別會計

一、各宮内經濟會計

第三十五條 常用部歳入歳出ハ經常ト額外ト臨時トヲ區別シテ之ヲ經理ス。

第三十六條 經常歳出ハ各科目ニ就キ豫メ將來ノ固定歳額若クハ概定歳額制限ヲ定ム。

第三十七條 常用部ハ毎年度豫算中ニ豫備金ヲ置キ歳費豫算外ニ生ズル支出ニ充ツ。
第三十八條 皇太后宮費、東宮費、御直宮費ハ常額ヲ定メテ支出シ、別ニ内經濟ヲ立ツ。
第三十九條 事業資其他ノ事件費ニシテ別途經濟ヲ必要トスルモノハ常額ヲ定メテ支出シ特別會計ヲ立ツ。

第四十條 未渡金回送金及ビ受記管守ニ係ル出入ハ雜部ト稱シ特別會計ヲ立ツ。

第四十一條 分派會計ニ係ル收入金ハ總テ各主管部局長ヨリ内藏寮ニ納付スベシ、直ニ支出ニ充ルコトヲ得ズ。

特別會計内經濟會計ニ係ル收入金ハ直ニ支出ニ充ルコトヲ得。

第四十二條 分派會計ニ係ル支出金ハ各主管部局長ヨリ内藏寮ニ對シ支拂切符ヲ發シテ其支出ヲ要求スルモノトス。

特別會計内經濟會計ニ係ル支出金ハ内藏寮ニ寄託シ各主管部局長ヨリ引出切符ヲ發シテ其支出ヲ要求スルモノトス。

第四十三條 各年度ニ於テ決定シタル經費豫算額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スベキ經費ニ充ルコトヲ得ズ。

第四十四條 土木其他ノ事件ニ係ル經費ニシテ支出數年ニ涉ルベキモノハ繼續費トシ數年ニ分

割會計ヲ立ルコトヲ得。

第四十五條 各年度ニ於テ決定シタル經費豫算額ノ内其年度ニ於テ支出ヲ了スル能ハザル事由アルモノハ現支出額ヲ以テ決算シ、其豫算殘額ヲ次年度所屬ノ歳出ニ移スコトヲ得、此場合ニ於テ其豫算殘相當ノ金額ヲ次年ノ歳入ニ繰入ル、コトヲ得。

第四十六條 總歳入ヲ以テ總歳出ヲ支辨シ剩ル所ノ金額ハ前條ノ次年度繰入額ヲ除クノ外總テ御資部ニ移入ス。

第四十七條 非常ノ事件ニ係ル經費ヲ要シ歳入歳出相償ハザルコトアル年ハ御資部ヨリ移入ヲ受テ之ヲ補足ス。

第四十八條 分派會計ニ係ル各年度ノ豫算殘額ハ次年度ニ繰越スコトヲ得ズ。

特別會計内經濟會計ニ係ル各年度ノ殘餘ハ次年度ニ繰越若クハ豫備資ニ積立ルコトヲ得。

第四十九條 常用部ハ金圓ヲ借入ル、コトヲ得ズ、但シ歳入出相償ハザルコトアル年ハ御資部ヨリ假借シテ補辨スルコトヲ得、此場合ニ於テハ必ラズ次年度ニ於テ之ヲ返戻ス。

第五十條 常用部ハ特旨ニ出ヅルモノノ外金圓ヲ貸出スコトヲ得ズ。

第五十一條 常用部ハ御資部ヨリ一時繰替拂ヲ爲シ、御料部御資部其他ニ繰替貸ヲ爲シ又歳入ノ假納、歳出ノ假出ヲ爲スコトヲ得、但シ其返戻ハ何レモ次年度ニ涉ルコトヲ得ズ。

第五十二條 常用部ハ利殖ノ經濟ヲ爲スコトヲ得ズ。

但シ内經濟會計、特別會計ニ屬スルモノハ此限ニ非ラズ。

第五十三條 年度ニ先チ出納ヲ要スルモノアルトキハ其年度豫算決定セシ上其出納ヲ開始スルコトヲ得。

皇室制規

皇位繼承

第一 皇位ハ男系ヲ以テ繼承スルモノトス、若シ皇族中男系絶ユルトキハ皇族中女系ヲ以テ繼承ス、男女系各嫡ヲ先キニシ、庶ヲ後ニシ、嫡庶各長幼ノ序ニ從フベシ。

第二 皇位ハ皇子ニ傳フベシ。

第三 皇位ヲ繼承スベキ皇子若シ薨去ノトキハ皇孫ニ傳フベシ。

第四 皇位ヲ繼承スベキ皇子孫ナキトキハ皇兄弟及ビ其孫ニ傳フベシ。

第五 皇兄弟及び其子孫ナキトキハ皇伯叔父其子孫ニ傳ヘ、皇伯叔及び其子孫ナキトキハ皇太伯叔父以上及び其子孫ニ傳フベシ。

第六 皇族中男系盡ク絶ユルトキハ皇女ニ傳ヘ、皇女ナキトキハ皇族中他ノ女系ニ傳フルコト第三、第四、第五條ノ例ニ據ルベシ。

第七 皇女若クハ皇統ノ女系ニシテ皇位繼承ノトキハ其皇子ニ傳ヘ、若シ皇子ナキトキハ其皇女ニ傳フ。皇女ナキトキハ皇族中他ノ女系ニ傳フルコト第三、第四、第五條ノ例ニ據ルベシ。

第八 遺服ノ皇子皇女ハ皇位ヲ繼承スルコト天皇在世中ノ皇子皇女ニ異ルコトナシ。

第九 天皇在世中ハ讓位セズ、登遐ノ時儲君直ニ天皇ト稱スベシ。

第十 立太子ノ式ヲ行フトキハ此制規ニヨルベシ。

丁年及結婚ノ事

第十一 天皇ノ丁年ハ滿十八歳トス。

第十二 皇后ハ皇族及び公爵ノ中ヨリ迎フルモノトス。

第十三 女帝ノ夫ハ皇胤ニシテ臣籍ニ入りタル者ノ内皇統ニ近キ者ヲ迎フベシ。
十三條難解。

攝政ノ事

第十四 天皇未丁年又ハ政務ニ堪ヘザル間ハ攝政ヲ置クベシ。

第十五 攝政ハ丁年以上皇統最近ノ皇族ヲ以テ之ニ充ツベシ。
攝政ハ皇太子ヲ以テ首トシテ未ダ定マラザル時ニ於テハ皇統最近ノ皇族ヲ以テ之ニ充ツ

皇族ノ事

第十六 皇胤ニシテ臣籍ニ列セザルモノヲ總テ皇族ト稱ス。
但シ親王、諸王ノ妃ハ皇族ノ待遇ヲ享ルモノトス。

第十七 皇子ハ親王、皇女ハ内親王ト稱ス。

第十八 親王ノ第二代目ヨリ諸王トナシ世襲タルベシ。

第十九 親王及ビ諸王ノ二男以下ハ華族ノ養子トナルコトヲ得。

第二十 親王、諸王ノ二男以下丁年以上ニ至レバ華族ニ列スルコトアルベシ。

第二十一 内親王嫁スル時ハ皇族及ビ公侯爵ノ家ニ限ルベシ。

第二十二 親王ノ妃ハ皇族及ビ公爵ノ家ヨリ娶ルベシ。

第二十三 諸王ノ妃ハ皇族及ビ華族ヨリ娶ルベシ。

第二十四 皇族ノ女子嫁スル時ハ皇族及ビ華族ニ限ルベシ。

第二十五 皇族ノ繼嗣ハ實子孫實弟ニ限ルベシ。

第二十六 皇孫ノ嫁娶及ビ皇族ニシテ他家ノ養子トナルトキハ天皇ノ允裁ヲ受クベキモノトス。

第二十七 皇族庶出ノ子ハ私生トナシ、皇族ノ待遇ヲ與ヘザルモノトス。

帝室法則綱要修正案

第一章 皇位繼承

第一條 皇位ハ皇太子ニ傳フ。

第二條 皇太子在ラザル時ハ皇太孫ニ傳フ、其子孫皆在ラザル時ハ皇次子以下及ビ其子孫ニ傳フ。

第三條 皇子孫皆在ラザル時ハ皇兄弟及ビ其子孫ニ傳フ。

第四條 皇兄弟及ビ其子孫ナキ時ハ皇伯叔父及ビ其子孫ニ傳ヘ、皇伯叔父及ビ其子孫ナキ時ハ其以上ニ於テ最近ノ皇族及ビ其子孫ニ傳ヘ都テ實系ニ依リ順序ヲ定ム、從前皇養子、皇猶子ナリシ故ヲ以テ論ズルコトナシ。

第五條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス、皇庶子孫ノ位ヲ嗣グハ皇嫡子孫ノ在ラザル

時ニ限ル。

第六條 皇兄弟皇伯叔父以上モ皆同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニス。

第七條 前數條ニ記載シタル嫡出庶出皆長ヲ先ニシ少ヲ後ニス。

第八條 皇位ヲ繼承スルハ男統ノ男子ニ限ル。

第九條 皇太子、皇太孫ト號スルハ詔命ニ依ル。

第二章 丁年及后妃

第十條 天皇及ビ皇子孫ハ滿十八歳ヲ以テ丁年トス。

第十一條 皇后及ビ皇太子、皇太孫ノ妃ハ皇族又ハ公侯ノ家ヨリ之ヲ撰立ス。

第三章 攝政及太傅

第十二條 天皇未丁年又ハ疾病ノ故ニ依リ政務ニ堪ヘザル間ハ攝政一員ヲ置ク。

第十三條 攝政ハ皇統最近丁年以上ノ皇族男子ヲ以テ之ニ充テ大政ヲ攝行ス。

第十四條 特勅アル時ニ於テハ攝政參議ヲ置ク。

第十五條 天皇未丁年ナルヲ以テ攝政ヲ設クルトキハ太傅ヲ置ク。

第十六條 太傅ハ幼帝保育ヲ管掌ス。

第十七條 太傅ハ攝政及ビ其子孫之ニ任ズルコトヲ得ズ。

第四章 皇族

第十八條 皇胤ニシテ臣籍ニ列セザル者都テ皇族ト號ス。

第十九條 皇子ハ親王、皇女ハ内親王ト號ス。

第二十條 親王ノ子ヨリ三世間ハ王及ビ女王ト號ス、其以下ト雖モ臣籍ニ列セザル間ハ其號ヲ有ス。

第二十一條 天子ヨリ年少ニシテ入テ皇位ヲ踐ムベキ者ノ外今後天皇ノ養子、猶子タルコトヲ得ズ。

第二十二條 皇族ノ繼嗣ハ皇位繼承ノ順序ニ限ル。

第二十三條 第十條ニ記載以外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ丁年トス。

第二十四條 皇族ノ嫁娶ハ皇族及華族ニ限ル。

第二十五條 親王、諸王ノ妃ハ其夫ニ齊シキ禮遇ヲ享ク。

第二十六條 皇家家務ノ重事ハ勅裁ニ依ル。

第二十七條 皇族ノ歳俸ハ親疎長幼ニ從ヒ等級ヲ定ム。

第二十八條 近屬ノ皇胤男子繁昌スル時ハ遠屬中ヨリ庶少ヲ先ニシ嫡長ヲ後ニシ漸次氏ヲ賜ヒ華族ニ列スベシ。

但シ特別ノ理由アル時ハ此限ニ在ラズ。

附 則

第一、現在皇族ノ系統親疎ハ實系ニ係リ別表ヲ以テ之ヲ定ム。

第二、現在親王ニ宣下セラレタル者ハ舊ニ依テ其號ヲ有ス、其子ヲ王トス。

第三、近屬ノ皇胤繁昌ニ到ル迄ノ間ハ現在親王、諸王及ビ其後裔ニ於テ少ナクトモ十員ヲ存立シ王號ヲ有セシム。

第四、第廿八條ニ從ヒ皇族ヨリ華族ニ列スル時ハ嫡出一員ハ公爵、其他ハ侯爵ヲ授ク。

第五、朝彦親王ノ末男多嘉王ハ氏ヲ賜ヒ侯爵ヲ授ケ妹ハ皆其籍ニ編ス。

崇光帝以降皇胤直系世表略

。嫡出

一、二ハ兄弟ノ行數ナリ。

崇光帝—榮仁親王贈太上天皇稱後崇光院—貞成親王—後花園帝

後土御門帝—後柏原帝—後奈良帝—正親町帝

誠仁親王贈太上天皇稱陽光院—後陽成帝—後水尾帝—靈元帝

東山帝—直仁親王贈太上天皇稱慶光天皇—典仁親王—光格帝

仁孝帝—孝明帝第二—今上帝—嘉仁親王第三

有栖川職仁親王—音仁親王—韶仁親王—熈仁親王

熈仁親王第一

威仁親王第二

貞常親王伏見

邦高親王—貞敦親王—邦輔親王

邦房親王—貞清親王—貞致親王—邦永親王

貞建親王—邦頼親王—貞敬親王

彰仁親王小松第五

能久親王北白川第六

恒久王第一

邦家親王—貞愛親王

貞愛親王第十一

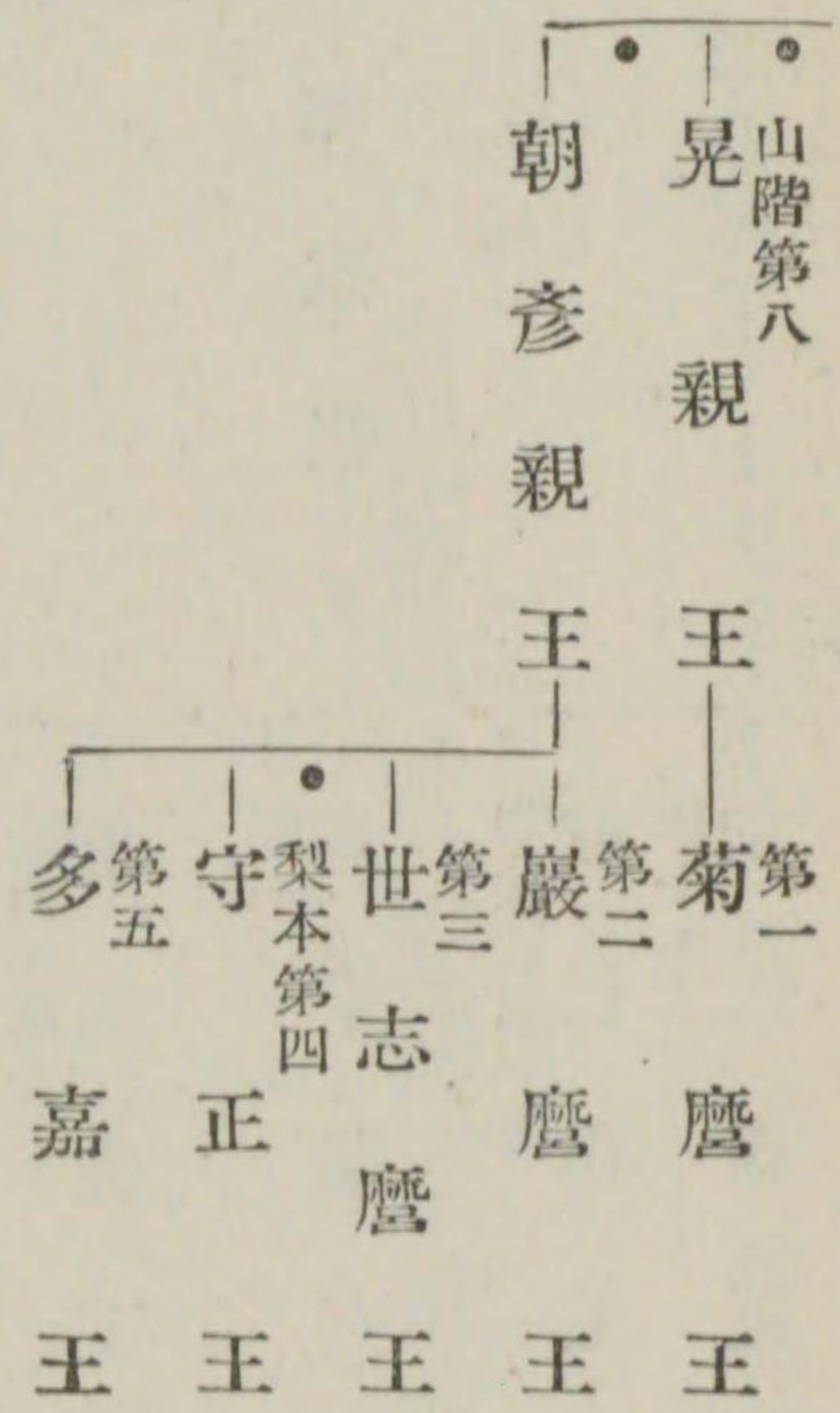
華頂第一

載仁親王閑院宮第十三

邦恭王第二

依仁親王第十四

彰仁親王嗣



帝室典則備考

西班牙憲法 五十三條

繼承權利
奪

政ヲ親ラスルノ任ニ適セザル者若クハ王位繼承ノ權ヲ失フベキ狀アル者ハ法律ニ依リ其權ヲ剝ガルベシ。

法律トハ兩議院議定シ君主批准發行ノモノタル勿論ナリ。

露西亞法律全書 十五條

繼承順序
辭謝

實祚繼承順序ニ就テ以上ニ制定セシ規律ヲ施行スルトキ繼位ノ權利ヲ有スル者實祚將來ノ繼續ニ如何ナル障礙ヲモ生ゼザル場合ニ於テハ此權利ヲ辭謝スルノ自由ヲ與ヘラル。

和蘭憲法 二十三條

帝室典則備考

繼承順序
變易

特殊ノ時機ニ遇ヒ王位繼承ノ順序ヲ變易スルコトヲ必須トスル時國王ハ其法案ヲ國會ニ示スコトヲ得。國王ハ建國法ノ修正ニ管スル第九十六、七、九條ノ三條ニ定メタル方法ニ準ジ該法案ヲ論議スベシ。

百九十六、七、九條ハ特ニ會議ヲ丁重ニスル方法ヲ以テスルナリ、國會ハ兩院ヲ指ス。

和蘭憲法 二十四條

繼承者斷
絶

憲法ニ從ヒ入嗣スル者ナキ時ハ前條ノ例規ヲ施行スベシ、國王歿シテ未ダ世嗣ヲ命ゼズ、又ハ其在ラザル時ハ平例ノ員數ヲ陪シテ召集シタル國會ノ兩院合議シテ世嗣ヲ冊立ス。兩院合議トハ一院一所ニ會スルヲ云フ。

白耳義憲法 六十一條

同上

レオボル、ジヨルジー、キレアチン、フレテリク、ドサクコブールグ陛下ノ男子無キ時ハ陛下ヨリ兩院ノ承認ヲ得テ其世嗣ヲ冊立スルコトヲ得、兩院ノ承認ハ次條ニ掲ゲタル方式ニ依テ議決シタルモノナリ、(三分ノ二以上多數決ヲ指ス)、若シ上ノ式ニ從テ爲シタル冊立ナキ時ハ空位タルベシ。

同 八十五條

空位

空位ノ時ニ當テハ兩院合議シテ全ク新徵シタル兩院ノ會合ニ至ル迄假ニ攝政ヲ定ム、○新徵ノ議員ハ兩院合議シテ定メテ空位ノ處分ヲナス。

瑞典憲法 九十四條

繼承者斷
絶
新朝推立

若シ天運窮リテ國位ヲ繼グベキ本末ノ宗室ニ男裔ナク王朝斷絶ニ及ブトキハ內閣大臣ニ於テ國王殂落ノ後前條ノ日限内(君主殂落十五日内)ニ議院ヲ召集スベシ、○議院集會ノ上ニテ新朝ヲ推立シ而シテ政體ハ現今ノモノヲ存用スベシ。

李漏西憲法 五十三條

繼承法

王位ハ王族ニ循テ大宗ノ序ニ依リ次ニ最近支親入嗣ノ例ニ從ヒ男統世襲トス。同 五十四條

丁年誓

國王ハ全周十八歳ヲ以テ成年トス、○國王ハ兩院合會ノ前ニ於テ普漏西國ノ憲法ヲ確守シテ侵サズ、而シテ憲法並ニ其他ノ法章ニ循由シテ政ヲ行フコトノ誓ヲ宣ス。同 五十六條

攝政

國王未成年ニ屬シ若クハ曠時故障アリテ政ヲ親ラスルコト能ハザレバ最近ナル支親ノ成年ナル者攝政ヲ行フ、此時ハ其人必ラズ急速兩院ヲ徵聚シ兩院ヲ合會シテ攝政ヲ設クルノ必要ナルコトヲ宣告セシムベシ。

同 五十七條

攝政無其人

若シ成年ノ支親アルコト無ク及ビ法章ヲ以テ豫定シタル者ナキ時ハ國相（八省執政ヲ合稱ス）必ラズ兩院ヲ徵聚シ兩院合會シテ一ノ攝政ヲ撰バシムベシ、攝政職ニ即クニ至ル迄ハ國相大政ニ任ズ。

同 百七條

憲法ハ議院ノ通法ニ循ヒ修正スルコトヲ得。

王位繼承法ハ憲法中ノ要目ナリ、故ニ之ヲ變換セントスル時ハ必ラズ議院ニ謀ルコト當然ナリ、攝政ノ事亦同ジ。

西班牙憲法 三十九條

國會有關王室權

國會ハ國王ト共ニ受用スル立法權ノ外左ニ掲グル職掌ヲ有ス。

第一 國王、太子、王國攝政官（一員ニ限ラズ）若クハ攝政（一員ニ限ル）ヲシテ國憲及

ビ法律ヲ遵守スルノ誓詞ヲ宣ベシムルコト。

第二 國憲ニ掲ゲタル時機ニ於テ王國ノ攝政若クハ攝政官ヲ撰舉シ及ビ未成年ナル國王ノ太傅ヲ命ズルコト。

伊太利憲法 三十八條

王様牒籍

王族ノ身上證書（婚姻、出產、死去ノ證書）ハ元老院ニ送り、元老院ハ其證書ヲ書房中ニ藏スベシ。

佛蘭西元老院決定書 千八百五十二年十二月 第八條

同

皇族ノ身上證書ハ首相之ヲ受取り皇帝ノ命ヲ以テ元老院ニ送り、元老院ニ於テ之ヲ簿冊ニ登記シ且ツ其書房中ニ藏スベシ。
本邦古制宮内省置正親司掌皇親名籍。

佛蘭西元老院決定書 千八百五十六年 十八條

攝政參議

攝政ノ參議ハ皇帝ノ幼年ナル時間之ヲ任ズベシ、其參議ノ員ハ左ノ者ヨリ之ヲ集成ス。

第一 皇帝ノ撰任シタル佛國皇族。

皇帝ノ特ニ撰任シタル者ナキ時ハ帝位ヲ嗣グベキ順序ノ最近ナル皇族二員。

第二 皇帝ヨリ公ケノ書及ビ秘密ノ書ヲ以テ任ジタル者。

若シ皇帝ノ此參議ヲ撰任セザルトキハ元老院ハ參議ノ一部ヲ爲スベキ爲メ特ニ五名ヲ撰任ス。

佛國皇族ヲ除クノ外攝政參議ノ一員又ハ數員ノ死去シ又ハ退任シタル時ハ元老院其者ニ代ヘ更ニ他人ヲ撰任スベシ。

同 十九條

攝政參議ハ攝政皇后又ハ攝政ヨリ之ヲ退職セシムベシ。

魯國法律全書 二十五條

攝政參議

國家ノ攝政ノ爲メ必ラズ攝政參議ヲ設ク、實ニ參議ナキノ攝政及ビ攝政ナキノ參議アルベカラズ。

同 二十六條

參議ハ攝政選舉ニ由リテ一二等官ノ六名ヨリ成立ス、但シ臨時ノ變更ニ當リテハ又他員ヲ

命ズルモノトス。

同 二十七條

皇族男子攝政ノ選舉ニ由リテ此參議ニ列スルコトヲ得、但シ其成年前ニ於テセズ、又議院ヲ成立スル六名中ニ入ラズ。

立憲制度施行ニ付文學、藝術、道德 三原素ヲ皇室ニ親近セシムルノ議

立憲制度御施行ノ後ハ、國務ト皇室事務トノ分界ヲ生ズベキガ故ニ、此時ニ當リ皇室ヲ孤弱ノ地位ニ陥ラシメザルハ最モ大切ノ注意トス。何トナレバ皇室ノ孤弱ナルハ第一皇室ノ御不利ナルハ勿論、間接ニ國務ノ亂動ノ勢ヲ助クルノ大患アレバナリ。故ニ立憲制度施行ノ期既ニ近キノ今日ニ於テハ、豫ジメ此ノ患ヒヲ防グノ道ヲ求メザルベカラズ。之ヲ防グノ道ハ國務ノ外ニ於テ廣ク人民ノ親愛ヲ皇室ニ歸セシメ、以テ皇室ノ御基礎ヲ固クスルニアリ。蓋シ國務ニ於テ人民ガ皇室ヲ戴クハ之ヲ畏敬ノ關係トス。國務ノ外ニ於テ人民ガ皇室ニ對スルノ關係ハ之ヲ親愛ノ性質タラシメザル可ラズ。

政治ノ外、社會ヲ組成スルノ重モナル原素ハ文學、藝術、德行ノ三者ナリ。皇室ノ基礎ヲ固クスルノ一法ハ則チ是等ノ諸原素ヲシテ皇室ヲ親愛セシメ、皇室ハ實ニ己等ノ爲ニ最モ手厚キ保護者タルヲ覺ラシムルニ外ナラズ。是等ノ諸原素ニシテ隱然ト皇室ノ藩籬タルニ至ラバ皇室ノ孤弱ヲ防グニ於テ其功實ニ言フ可ラズ。是レ立憲國ノ皇室ガ大ニ其力ヲ致サル可ラザルモノナリ。

諸國ノ例ヲ推スニ、文學、藝術、道德ノ三原素ヲシテ皇室ニ親近セシムルノ道ハ簡易ニシテ且ツ行ヒ易キモノナリ。即チ御手許ノ御用ヲ辨ズル爲メ宮内省中ニ一局ヲ設ケ、左ノ件々ヲ施行スルヲ以テ足レリトス。

- 第一 御手許御用ノ爲メ和漢ノ文學、詩歌、雜書ノ編纂ヲ時々其道堪能ノ學者等ニ仰付ケラル、コト。
- 第二 御手許御用ノ爲メ西洋ノ文學、理學、詩歌、雜書等ノ著譯ヲ時々其道堪能ノ學者等ニ仰付ケラル、コト。
- 第三 工藝ニ關スル御用品、下賜品、御贈與品等ノ御用ヲ時々堪能ノ技術家ニ仰付ケラルコト。
- 第四 世間ニ公益アルベキ學藝其他ノ組合ニ時々獎勵金ヲ賜ハルコト。
- 第五 御巡幸等ノ節ニ慈善家、奇特者、藝能家等ニ臨時ノ賞賜アルベキコト（國務ヲ以テ行ヒ難キモノ、或ハ國務ヲ以テ行フモノト重複スルモ妨ゲナシ）。

右ノ如ク文學、藝術、道德ノ三原素ニ對シテ時々保護獎勵ノ聖德ヲ示サバ、是等ノ諸原素ハ政治世界ノ外ニ於テ隱然タル皇室ノ御藩籬ヲ形ヅクリ、皇室ノ御基礎一層堅固ヲ増スベキコト明白ナリ。

又タ右ハ内、皇室ノ基礎ヲ固クシ、外、國務ニ間接ノ大利ヲ與フルノミナラズ、一國人民全體ノ爲ニモ亦言フ可ラザル直接ノ大福利アリ。凡ソ世間ノ需要供給ノミニ任セ置カバ、文學藝術ハ充分ナル發達ヲ爲シ難キ場合アリ。何トナレバ世間普通ノ需用ハ其ノ品格、程度甚ダ高キモノニアラズ。(例セバ有益ナル譯書モ、其ノ事柄高尚ニシテ書價貴ケレバ購讀者少ナキガ故ニ之ニ着手スル者ナクシテ止ムノ類ナリ、工藝品ノ如キモ亦皆然リ)故ニ古ヨリ文學藝術ガ充分ナル發達ヲ爲セシ迹ヲ案ズルニ、常ニ需用供給ノ外ニ於テ一種ノ保護者ヲ得ルニ由ラザルハナシ。勿論今日ト雖モ是等ノ諸原素ニ對シテ時々保護獎勵ナキニアラズト雖モ、其ノ仕組未ダ整備セザルト深ク心ノ此邊ニ留ムルニ至ラザルト以テ充分ノ成果ヲ得ザルハ實ニ遺憾ト云フベシ。

凡ソ是等ノ事ハ國務ヲ以テ行ヒ難キノミナラズ、縦令ヒ之ヲ行ヒ得ルトスルモ亦其作用ノ滑カニシテ實功ヲ擧グルノ大ナルハ、皇室御手許ノ働ラキニ及ブベキニアラズ。抑モ國務ハ畫一ニシテ變ナキヲ尊ムガ故ニ、前記スルガ如キ微妙ナル作用ヲ望ムコト能ハズ。殊ニ其ノ性質專ラ人民ノ親愛ヲ致サシムベキ事柄ニ於テハ、尙ホ更ラ國務ヲ以テ之ヲ行ヒ難キ場合多キナリ。又右ノ御用ヲ仰付ケラル、モ之ヲ折々ノ事トナシ、頻濫ニ失スルコト無カラシメバ、其費ス所モ亦甚ダ多キヲ要セザルナリ。

以上述タル所ヲ概記スレバ、御手許ノ御用ヲ兼テ一國ノ文學、技術、德行ノ三原素ヲ皇室ニ親近セシムルニ在リ。而シテ其ノ利益ハ第一ニ國務外ニ於テ人民ニ皇室ヲ親愛セシメ、以テ皇室ノ藩屏ヲ増加スルナリ。第二ニ一國ノ文學、藝術ヲ發達セシムルナリ。第三ニ國人一般ノ利便ヲ廣ムルナリ。第四ニ國務ノ及バザル所ヲ補ヒ微妙ノ働ラキヲナスナリ。第五ニ皇室ヲ強メテ以テ間接ニ國務動亂ノ禍ヲ防グノ力ヲ増スナリ。凡ソ是等ノ利益ヲ收ムルハ今日急務ノ一ニシテ是レヲ其儘ニ差置カル、ハ缺典ノ大ナルモノトス。尙ホ該寮ノ事務順序職制等ヲ下ニ附記シテ參酌ニ供ス。

職制概要

- 一、局名ハ「學藝寮」然ルベキ歟。
- 一、該寮ニハ長官、次長ノ外ニ評議員ヲ設ケ、各學藝ノ一部門毎ニ二名以上ヲ置キ、其ノ學藝

部門ニ於テ世上ニ最モ名譽アル學士、技術家ヲ以テ之ニ充テ、長官、次長、評議員ト協議ノ上ニテ事ヲ決スルヲ要ス、斯ノ如クセバ偏頗ノ過チナキヲ得ベシ。

一、但シ學藝ノ種類ニ依テ品格ノ高下アリ、然ルニ其ノ地位ヲ同一ニセバ不快ヲ生ゼシムルノ恐レアリ、故ニ「評議員助役」ナル者ヲ置キ、品格低キ部門ニ屬スル藝能家ハ之ニ充テ、然ルベキ歟。

一、評議員、助役與ニ在職期限ヲ一ケ年トシ、時々人物ヲ入レ替ヘル方可然歟、斯クスル時ハ評議員タルノ榮譽ヲ多數ノ學藝家ニ代ハルヽ與ルヲ得ルノ便アリ、偏頗ノ弊ヲ防グノ利アリ。

一、評議員ニシテ本官兼務ノ者ハ其ノ身分ニ從テ之ヲ取扱フベシ、專務ノ者ハ奏任取扱トシテ可然歟。

一、評議員助役ハ判任取扱可然歟。

一、評議員助役與ニ專務ノ者ヘハ聊カナル手當ヲ給セラレベシ、併シ十ノ八九ハ概ネ兼務ノ者ナルベシ。

寮事務順序

一、文學、工藝ニ關スル御用品アル節ハ必ラズ該寮ニ下問ス。(下問品ノ經費ハ調度局ヨリ支出ス)。

一、又御用品ニ適當ナル者アリト認ムル節ハ該寮ヨリ之ヲ上申ス。(上申品ノ經費ハ該寮定額ヨリ支出ス)。

一、奇特者アル節ハ其ノ主務官ト協議ノ上之ヲ上申ス。(該寮ノ經費トス)。

一、前諸條ノ場合ニハ該寮ノ長官、次長ト其ノ部門ノ評議員等ト協議ノ上之ヲ決定ス。

一、評議員ハ少ナクトモ一部門ニ二名以上ヲ置クベシ。

事務章程

一、本寮ハ文學、技術、德行ニ關スル御手許ノ御用ヲ掌リ、獎勵保護ノ御趣意ニ遵ヒ左ノ件々ヲ管理ス。

一、御用ノ爲メ和漢ノ文學、詩歌、雜書等ノ編著ヲ其道堪能ノ學者等ニ仰付ケラル、ヲ管理ス。

一、御用ノ爲メ西洋ノ文學、理學、詩歌、雜書等ノ著譯ヲ其道堪能ノ學者等ニ仰付ケラル、ヲ管理ス。

- 一、工藝ニ關スル御用品、下賜品、御贈與品ノ御用ヲ堪能ノ技術家ニ仰付ケラル、ヲ管理ス。
- 一、世間ニ公益アル學藝其他ノ組合ニ獎勵金ヲ賜ハル事ヲ管理ス。
- 一、慈善者、奇特者、藝能家ニ臨時賞賜ノ事ヲ管理ス。

御料地選定ニ關スル議

拜呈 伊藤伯爵

宮内省ハ目下御料ノ地トシテ官有地ノ幾分ヲ皇室ニ屬セシメラル、ノ議アリト傳聞ス。依テ竊ニ考フルニ、北海道ノ沃土、木曾ノ良材、固ト官有ニ屬シテ且ツ帝國ノ富源ト稱ス。宜シク入レテ皇室御料ニ加ヘラルベシト雖モ、抑モ亦是ヨリ先キニ最モ急務ナルモノノ在テ存スルナリ。何ゾヤ、曰ク古聖帝王ノ往時、苟クモ龍躅ノ地タリ、若クハ殊ニ蒙塵ノ場所タルモノニシテ、其官有ニ屬スル部分ハ勿論、民有ニ屬スルモノト雖モ亦將ニ歷史上憑跡判然タルモノハ速ニ之ヲ皇室御料ニ加ヘラレントスト是レナリ。乞フ其理由ヲ開陳セン。

凡ソ君主國ノ國民ヲシテ忠君愛國ノ念ヲ起サシムルモノ其國ノ歴史ニ如クモノハナシ。何トナレバ一國ノ歴史ハ國民ヲシテ嘗ニ古今變遷ノ情態ヲ知ラシムルノミナラズ、依テ以テ治亂興

敗ノ由來スル所ヲ審ニ察スルトキハ、國體ノ在ル所、國是ノ存スル所、勢ヒ忠君愛國ノ念ヲ起サシムルハ自然ノ道理ナレバナリ。而シテ此ノ精神ヲシテ益々熾ナラシメント欲セバ、載籍ノ歴史ノミヲ以テ足レリトセズ、又宜シク地理ノ歴史ニ依テ精神ノ發揚ヲ促サルベカラズ。彼ノ忠臣義士ノ事跡ヲ吊ヒ、英雄豪傑ノ墳墓ヲ過ギ、其往時ニ於テ王家ノ爲メ國家ノ爲メ盡シタルコトヲ追想スルトキニ、覺エズ人ヲシテ忠君愛國ノ精神ヲ起サシメ、沛然防グベカラズ勃然禁ズベカラザルモノ是レ地理的歴史ノ效ニ依ラザルハナシ。是ノ故ニ載籍歴史ノ保存スベキハ謂フマデモナシト雖モ、地理的歴史ニシテ其殊ニ顯著ナルモノ亦永ク保存スル必要アルナリ。況ンヤ古聖帝王ノ龍躅ノ地、若クハ蒙塵ノ場所タルニ於テ抑モ亦王家ノ歴史ト共ニ保存スルノ必要アルヤ。

是レヲ外國ノ例ニ問ハンニ、歐洲諸國殊ニ君主國ニ在テ到ル所ニ是等舊跡故地ノ保存セラレザルハナシ。而シテ之ヲ保存スルノ方法多クハ王家ノ所有ニ屬セリ。是レ豈徒ラニ舊跡故地ヲ存シテ遊觀ノ場所ニ供スルモノナランヤ。或ハ皇子王孫ノ此ノ場ヲ經過シ、國體ノ忘ルベカラザルヲ起念シ、又國民ヲシテ忠君愛國ノ精神ニ富マシムルニ外ナラザルナリ。顧フニ我國ノ如キ舊國ニ在テ此等ノ靈場舊跡ヲ求ムルハ決シテ少ナカラズ、假令バ制度欽定ノ開始トモ稱スベキ天智帝ノ都ヲ定メラレタル滋賀ノ舊趾ニ於ケルガ如キ、國運式微ニ際シテ順德帝ノ遷座セラ

レシ隱岐ノ故跡ニ於ケルガ如キ、後醍醐帝ノ笠置ニ於ケル、護良親王ノ鎌倉ニ於ケル、一々之ヲ舉グレバ其例枚擧ニ暇アラザルベシ。若シ帝室ノ御料ニシテ増加セラル、ナラバ、宜シク先ヅ此等龍躅ノ地タリ蒙塵ノ場所ヲ擇デ帝室ニ屬セシメラレ、永ク王家ノ歴史ト共ニ保存シテ湮滅ニ歸セシメザルハ豈今日ノ急務ニアラズヤ。幸ニ我國民ノ淳朴ナル、假令之ヲ帝室ニ屬セシメザルモ、尙ホ能ク保存ニ怠ラザルベシト雖モ、歲月ノ久シキ世態ノ變遷ニ逢フテ終ニ狐兔ノ巢窟タラシムル恐レナシトセズ。殊ニハ他日外人ノ雜居トモナリ、萬一此等靈場舊跡ヲ一旦彼等ノ所有ニ歸セシムレバ亦如何トモスベカラザルニ至ラントス。豈又遺憾ノコトナラズヤ。

右ノ理由ナルヲ以テ宮内省ニシテ若シ御料地選定ノ議アラバ、北海ノ沃土、木曾ノ良材宜シク入レテ帝室ニ屬セシメラルベシト雖モ、今日ノ急務ヨリ之ヲ論ズレバ以上述べタル如ク先ヅ古聖帝王ノ靈場舊跡ニ屬スル部分ヲ御料ニ加ヘラレ、内ハ以テ上皇子王孫ノ時ニ此場ヲ經過セラレタルトキ、古聖帝王ノ往昔ヲ回顧セラレ、又下國民ノ拜觀ヲ許サレテ忠君愛國ノ念ヲ起サシメ、外ハ以テ外人ノ巡覽ヲ望ム者ハ王家ノ歴史ト共ニ舊跡保存ノ主意ヲ示サレンコトヲ希望ニ堪ヘザルナリ。

皇室ノ禮典朝廷ノ威嚴上下ノ 恩義教育ノ改良ニ關スル建議

中 井 弘

伏テ惟フニ、我 皇室ハ海外諸邦ノ皇室ト全ク其ノ基ヲ異ニシ、彼ニ在テハ或ハ攻伐ヲ以テ興リ、或ハ推撰ニ因テ立チ、其興亡殆シド常ナク、我一系萬世天壤ト共ニ窮極ナク、加フルニ建國ノ初メヨリ君臣ノ大義上下ノ名分一定シテ動カザルガ如キモノアラザルナリ。左レバ我 皇國ニ在テハ新ニ皇基ヲ立ツルヲ要セズ、二千五百有餘年既有ノ皇基ヲ保持シテ之ヲ億萬年ニ傳フルノミ。

然ルニ數年以來廟堂貴官ノ職ヲ退キタル者ノ動作ヲ見ルニ、一朝冠ヲ掛クレバ唯ダ行路ノ人ノミナラズ、甚シキハ爲ニ言フニ忍ビザルノ舉動アルニ至ル。是レ果シテ何ノ故ゾ。蓋シ朝ニ

在ル者只ダ利祿ノ爲ニシテ忠誠ノ情ナク、以テ此極ニ至ルニアラズヤ。否唯ダ一身ヲ潔フスルノ心ニ述フノミ。

夫レ立法、行政、司法ノ如キ以テ國家ヲ經緯スルノ具ハ之ヲ立ツルコト敢テ難キニアラズ、況ンヤ目下既ニ其緒ニ就クヲヤ。弘等復タ何ゾ之ヲ議スルヲ要セン。獨リ彼ノ皇室ニ關スルノ件ハ深ク以テ意ニ介セザルヲ得ズ。於是乎敢テ卑見ヲ條陳シテ當路諸公ノ參考ニ供ス。

第一 皇室ノ禮典

第二 朝廷ノ威嚴

第三 上下ノ恩義

第四 教育ノ改良

一、按ズルニ、我 皇室ノ禮典ハ神武創世以降夙ニ存スルモノナキニ非ラズト雖モ、推古天皇御宇ノ冠位十二階ヲ定メラレ、孝德天皇大化五年八省百官ヲ創置セラレ、文武天皇大寶元年藤原不比等律令ヲ撰定セシヨリ、皇室ノ禮典漸ク備ハリ、加フルニ遣唐使、遣唐留學生及ビ入唐ノ僧徒等頻リニ唐制ノ美ヲ賞賛セシヨリ 皇室ノ禮典專ラ唐制ニ模シ、遂ニ完備ヲ致シ、歷朝之ヲ遵守スルニ至リタルガ如シ。

禮典ハ國家ノ因テ維持スル所、民人ノ因テ勸懲スル所ナリ。左レバ古ヨリ一階ノ位、一個ノ

爵、以テ冥々ノ間ニ天下ノ非望ヲ遏絶シタルモノ蓋シ尠ナラザルベシ。夫レ禮典ヲ盛ニシ、儀容壯儼ニシテ階勳爵自ラ尊卑ノ別ヲ明カニシ、人望ンデ儼然其壯ヲ感ゼバ、之ヲ受クル者以テ無上ノ榮ト爲シ、名分因テ以テ立タン。若シ然ラズンバ名位高爵之ヲ與フルモ以テ榮トナサズ、之ヲ失フモ以テ辱トナサズ、滔々タル天下復タ名分ノ貴ブベキコトヲ知ラザルニ至ラン。是レ豈 皇室ノ尊榮ヲ無窮ニ保全スルノ道ナランヤ。

我 皇室ノ禮典ハ皇基ト共ニ數千年ノ昔日ヨリ既ニ存立ス。故ニ今新タニ之ヲ制定スルヲ要セザルガ如シ。然レドモ外交一タビ開ケシ以後、古來ノ禮典或ハ今日ニ適セザルモノアリ、此ノ如キハ宜シク汎ク海外ノ良制ヲ斟酌シ之ヲ我ニ移スベシ。

然リト雖モ 皇室ノ禮典ハ現今既ニ之ヲ制定スルノ命アルベキヲ信ズ。故ニ弘等敢テ茲ニ縷陳セズ、唯ダ數事以テ當路者ノ注意ヲ促スベキモノアリ。昔者藤原良房外戚ヲ以テ清和ノ朝ニ攝政タリシヨリ、天下ノ大勢九變シテ武門ノ世トナリ、武門五變シテ徳川氏ニ及ビ、能ク三百年ノ治安ヲ維持シタルモ、一朝維新ノ變ニ遭フテ王政其舊ニ復シタルハ即チ大勢又茲ニ一變セリト云フベシ。然リ而シテ維新ノ變ハ是レ數百年來武門擅權ノ弊ヲ除キ、蒼生始メテ至仁ノ德澤ニ浴スルニ至リタルモノナレバ、宜シク此日ヲ以テ永ク大祭ニ列セラレ、天下後世ヲシテ此偉業ヲ忘レザラシムベシ。又祖宗ノ神靈ハ 聖天子親ラ祭禮セラル、コトハ勿論、

之ヲ管理スルノ局ニ至リテモ宜シク之ヲ宮中ニ設置セラレ、以テ道實公、鎌足公ノ如キ臣下ノ功勞アリ祭禮ヲ享クル者ト之ヲ區別セザルヲ得ズ。斯ノ如ク祭典ノ別ヲ明カニシテ上下ノ分ヲ正ウシ、且ツ新タニ勅奏ニ依テ仕途ニ就ク者ハ神殿ヲ拜シ 皇室及ビ政府ニ對シ誠忠ヲ盡スノ誓ヒヲナサシムルノ制ヲ立ツベシ。(大祭ノ日ニ神殿ヲ參拜スルコト及ビ朝賀ノ日ニ嚴ニ禮典ヲ正スコト、其他官吏參集ノ瑣事モ亦改正セザル可ラズト雖モ今茲ニ縷陳セズ)。

往古ハ吉備眞備等唐ニ留學シ、其制度典禮ヲ講究シ、歸朝ノ後大ニ我 皇政ヲ擴張セリ。朝廷ノ典禮儼然今日ニ存シ、中古以來 皇室式微ニ屬スト雖モ、其禮典尙ホ連綿今日ニ存スルモノ全ク是等ノ人ノ能ク之ヲ確定セシニ因レリ。然ルニ輓近泰西諸國ト交際ヲ開クニ至リ、歐米ニ派遣セラレタル留學生ハ其講究スル所概ネ法律、經濟、理化學ニ止マリ、皇室ノ典禮ヲ講究セシ者ニ至テハ殆ンド稀ナリ。蓋シ維新以來封建ノ宿弊ヲ一掃セント欲スルニ急ニシテ、却テ其極端ニ走り、終ニ米國共和ノ制ヲ模倣シテ我 皇政ノ缺ヲ補フニ至リ、從テ往々理論ニ熱狂シ、平均同等ノ說盛ニ行ハレ、幾ンド 皇室ノ本體ヲ失ヒ、禮典漸ク廢レテ其威儼ヲ損シ、以テ今日ニ及ベリ、是レ當路諸公ノ最モ注意シテ今日ニ矯正セザル可カラザル所也。

一、朝廷ノ威儼ハ 皇室ノ禮典ト共ニ保持セザルヲ得ズ。而シテ之ヲ保持スルノ道一ナラズト

建議皇室ノ禮典朝廷ノ威儼上下ノ恩義教育ノ改良ニ關スル建議

雖モ、弘等ノ見ル所ヲ以テスレバ、目下創業功臣輒チ内閣諸公ニ交際費及ビ官舎、官舎料ヲ給與スルヨリ要ナルハナシ。抑モ威儼ハ威儼アルモノ相集ツテ成ル、維新以來門閥ヲ廢シ俊英ノ士ヲ以テ顯職ニ充ツルヲ以テ、其身固有ノ財産ナシ。故ニ只ダ僅々ノ俸給ヲ以テ其體面ヲ裝ヒ、又一身一家ノ生計ヲ營ム、加フルニ自己ト共ニ艱難辛苦ヲ與ニシタル朋友緣故ヲ扶助セザルヲ得ズ。是ヲ以テ常ニ貧窮ニ苦ミ、往々之ヲ扶助スルノ道ナキヨリ、遂ニハ之ヲ仕途ニ進メザルヲ得ズ。故ニ官祿ノ利益ヲ與ヘ、私恩ヲ賣ルノ誹ナシトセズ、是レ俸給ノ薄キト財産ナキノ致ス所ナリ。而シテ官祿ヲ以テ扶助センガ爲ニハ多クハ之ヲ都會ニ誘致スルヲ以テ、若シ其才能ノ職ニ適セザル者アルニ當リ、其ノ職ヲ免ゼラル、ニ於テハ再ビ田野ニ歸耕スルノ便ヲ失フノミナラズ、一旦都會奢美ノ風ニ化シ、懶惰習トナリ進退此ニ窮シ、終ニ諸公ヲ怨ミ、政府ヲ敵視スルノ弊ヲ生ゼントス。且ツ諸公ノ資給薄キガ爲ニ常ニ之ヲ以テ其地位體面ヲ保チ、相當ノ交際ヲ全クスルニ足ラズ、甚シキハ家邸ヲ典賣シ、以テ其ノ窮乏ヲ補ヒ、自己ノ威望ヲ失ヒ、併テ朝廷ノ威儼ヲ失フニ至ルナキヲ保セズ。若シ否ラズンバ鄙吝ニ流レ、其極交際ヲ絶チ、朋友ヲ失ヒ、遂ニ孤立ノ姿ニ陥リ、昨日ノ英雄モ乍今日ノ凡庸ト化セントス。是レ朝廷其羽翼ヲ殺ギ、功臣ヲ捨ツルノ情形ヲ呈出スルニ至ランカ、夫レ政事家ニシテ孤立スレバ名望地ヲ拂ヒ、威儼頓ニ失ス、偶々歴史ヲ考フルニ、此ノ如クナレバ

大海ノ鯨鱷モ終ニ螻蟻ニ制セラレ、俊傑ノ士モ手足ヲ置クニ處ナク、功臣モ其職ヲ保ツヲ得ズ、故ニ陰絞深酷ノ士出デザレバ、小廉曲謹徒ニ名利ヲ竊ムノ徒出ヅ、於是乎政府一塊ノ死物トナリ、活潑生發ノ氣ヲ抑制シ、政府ノ威權益々輕ヲ加ヘ、人心愈々離散シ、遂ニ不測ノ憂ヒヲ生ズ、是レ古今ノ大患ナリ。

且ツ各國ノ例ヲ通觀スルニ、未ダ嘗テ我内閣諸公ノ薄給ナルガ如キモノアラズ。今一二ノ例ヲ舉ゲンニ、英國ノ首相ハ五千磅ノ年俸ヲ受ケ、佛國ノ往時帝國タリシトキハ、内閣諸相十萬法^{フランク}ノ年俸ヲ受ク。而シテ近來共和國ニ變ジテヨリ大ニ俸額ヲ減ジタリト稱スルモ、猶ホ六萬法^{フランク}ノ年俸ヲ受クルノミナラズ、官舎及ビ交際料、其他悉ク列舉スルニ違アラズト雖モ、蓋シ二三萬弗以上ニ在ルモノ多シトナス。故ニ弘等ノ見ル所ヲ以テスレバ、我國大臣參議モ亦之ニ準ジテ其俸給ヲ下賜セラル、モ適當ニアラザルガ如シ。然レドモ今俄カニ内閣諸公ノ俸給ヲ増加セラレンコトハ頗ル難事ニシテ、且ツ強ヒテ之ヲ斷行スルハ或ハ得策ニ非ラザルベシ。故ニ目下ニ處スルノ得策ハ、俸給ノ外ニ政府ヨリ相當ノ交際費及ビ官舎、官舎料ヲ給シ、以テ其體面ヲ全フシ且ツ一身一家ノ生計ニ窮乏ヲ告グルコトナカシムベシ。其他護衛巡查ノ如キハ政府ヨリ之ヲ附セラルルハ其計ノ得タルモノニ非ラズ、宜シク之ヲ廢シテ其費ヲ給シ、各自譜代ノ恩顧ノ徒又ハ信任セル者ヲ撰バシメ、以テ其内外ノ護衛ニ充ツベシ。但シ資

給ノ多寡ハ歳入ノ多寡ニ關スルガ如シト雖モ、政略上ヨリシテ敢テ歳入ヲ以テ遽ニ各國ノ例ニ倣フヲ得ザルハ勿論ナレドモ、夫ノ各國ノ諸相ハ概ネ創業ノ功臣ニアラズ、況ンヤ彼ニ在テハ多年固有ノ資産アリ、加フルニ朋友故舊ノ扶助ヲ乞フ者モ亦タ我内閣諸公ニ比較スベキモノナシ。是ヲ以テ未ダ單ニ歳入ヲ以テ資給ノ多寡ヲ議ス可ラザルモノアリ。故ニ曰ク、内閣諸公ノ資給ヲ増加シ、且ツ官舎ヲ給スベシト、然ラズンバ則チ 朝廷ノ威儼恐クハ保持スルヲ得ザルナリ。

一、理ヲ以テ争フ可ラズ、一ニ情ニ忍ビザルモノアリテ始終アラシムルハ恩義ヨリ善キハナシ。君臣ト云ヒ主従ト云フモ、要スルニ亦唯ダ一恩義ノ以テ之ヲ繋維スルノミ。故ニ天下一日恩義ナクンバ君臣ノ名、上下ノ別アリト雖モ是レ虛文ノミ。虛禮ノミ。夫ノ虛文虛禮ハ恃ンデ以テ皇基ヲ保持スルニ足ラズ、於是乎恩義ヲ厚フスルコト亦今日ノ急務ト爲サルヲ得ズ。按ズルニ古來我國君臣ノ大義、上下ノ名分一定シテ動カザリシハ是レ豈虛文虛禮ノ能ク然ラシメシ所ナランヤ。蓋シ歷朝 聖主ノ臣民ヲ恩遇セラル、コトノ厚キ、益々人ヲシテ誠意ヲ感發セシメ、致仕シテ去ルニ忍ビザルノ情ヲ興シ 皇室ヲ奉戴スルノ心ヲ深ウシ、天下ヲ擧ゲテ 皇室ノ干城タラシメシナリ。今ヤ 皇室ノ干城タル者ハ獨リ華族アリト雖モ、今華族ハ固ヨリ舊諸侯ノ變ジタル者多キニ居ル、其舊諸侯タルヤ、其初メ概ネ攻伐ヲ以テ起リ、或

ハ霸權ニ倚ツテ成リ、其ノ古ヘ未ダ必ラズ 皇室ニ直接ノ勤勞アリタルガ爲ニ華族ニ列セラレタル者蓋シ少ナカラン。然レドモ三百年來土地ヲ有シ、多クノ士族ヲ養ヒ、能ク昇平ノ基ヲ開キタルノ功モ亦甚ダ多シトス。方今多少ノ賜祿アリト雖モ、一旦維新ノ變ニ遭フテ只ダ是レ一ノ公債主タルニ過ギザルニ於テオヤ。是レ時勢已ムヲ得ザルノ事情ト謂ハザルヲ得ズ。且ツ現時ノ勢ヲ觀ルニ、夫ノ英國ノ貴族ガ大ニ土地ヲ有シテ貴族タルノ體面ヲ維持シ、邦家ト休戚ヲ共ニシ、能ク 皇室ノ干城タルガ如キハ之ヲ我邦ノ華族ニ望ムヲ得ベカラズ。故ニ今ノ華族ヲシテ終ニ 皇室ノ干城タルニ至ラシムルコトハ最モ緊要ノ問題ニ屬スルヲ以テ、弘等特ニ之ヲ條陳セズ。然レドモ今日ニ希望スルノ要點ハ斷然華族ノ別ヲ問ハズ、唯ダ夫ノ維新開創ノ功臣ヲシテ永ク 皇恩ニ浴セシメ以テ 皇室ノ干城タラシムルコト豈敢テ之ヲ今日ニ能ハズト云ハンヤ。士族平民モ亦功勞アル者ハ宜シク之ヲ貴族ニ列シ、賜フニ相當ノ資祿ヲ以テシ、其朝ニ在ルト否トヲ問ハズ、功臣ヲシテ家計ヲ維持シ、以テ永ク 皇室ノ干城タラシムベシ。

試ニ歐洲諸邦ノ制ヲ見ルニ、一タビ大臣宰相タルノ職ニ任ゼラレタルモノハ、致仕ノ後ト雖モ概ネ優渥ナル恩賜ニ浴スルガ如シ。故ニ王室功臣ニ負クモ功臣王室ニ負ク能ハズ、子孫ニ至ルマデ永ク忠誠ヲ王室ニ盡スナリ。況ンヤ我國ハ古來大義名分ノ動カザルモノアリ、若シ

相當ノ恩賜アリ、功臣ヲシテ朝ノ内外ヲ以テ其心ヲ二三ニスルコトナカラシメバ、誰カ皇室ノ干城タルヲ願ハザル者アラシヤ。故ニ曰ク、上下ノ恩義ヲ厚フスベシト。

一、近來初等教育ノ情況ヲ通觀スルニ、其科目高尚ニ過ギテ空理ニ走ルモノ多ク、而シテ皇室ヲ尊ビ道德ヲ脩メ、廉恥ヲ養フノ教ニ乏シ。是ヲ以テ貧家ノ子弟ハ其高尚ノ學課ニ堪ヘズ、獨リ富家ノ子弟ハ稍ヤ之ニ堪ユルモ、其業ヲ卒リタルノ日ハ却テ其業ヲ受ケザルノ日ニ若カザルモノアリ。何トナレバ之ガ爲ニ祖先ノ舊業ニ安ンゼズ、往々奇利ヲ射ント欲シテ却テ其鵠ヲ誤ルカ、否ラズンバ徒ニ空理ヲ談ジテ以テ家産ヲ蕩盡スル者多ケレバナリ。是レ豈教育ノ罪ナランヤ。其學課高尚ニ過グルノ致ス所ト云フベシ。

是ノ故ニ弘等ノ希望スル所ハ、宜シク簡易ノ教課ヲ布キ日用ニ適セシメ、之ニ申スルニ皇室ヲ尊ビ、道德ヲ脩ムルノ教ヲ以テスベシ。方今既ニ大中學ヲ設ケアリ、苟クモ高尚ノ學課ヲ修メント欲スル俊秀ノ子弟ハ必ラズ進ンデ之ニ入ラン。高尚ノ學課ハ小學校ノ教課ニ要スル所ニ非ラザルナリ。(教育ノコト既ニ改良ヲ謀ルモノアリト聞ク、故ニ茲ニ其大要ヲ記スルノミ)。

以上條陳スル所ハ特ニ弘等所見ノ梗概ヲ述ブルニ過ギズト雖モ 皇室ノ爲ニ既往ヲ考ヘ將來

ヲ察シ、熱心希望スル所ノ大要此ノ如シ。諸公若シ卑見採ルベシトセバ請フ速ニ決行アランコトヲ。頓首

明治十六年

中井弘敬白

內閣諸公閣下

帝國官吏宣誓法

(リヨンネ氏帝國政法論中抄譯)

凡ソ官吏ハ職務遵奉ノ誓約及ビ憲法遵奉ノ誓約(憲法第百八條)ヲ爲スベキノ特別義務アリ。
 (原註) 帝國普通法典第二部第十編第三條ニ曰ク、「國家ノ官吏ハ凡テ國家ニ對シテ特別ノ職務ニ服スルノ義務アルコトヲ誓約セザル可ラズ」ト、而シテ其職務遵奉ノ誓約ニ關スル規律方法ハ、千八百三十三年十一月五日ノ內閣令ニ詳カナリ。又憲法第百八條ノ定ムル所ハ「凡ソ官吏タル者ハ國王ヲ奉戴シ之ニ忠ヲ盡スベキ誓言ヲ宣ベ、且ツ誠實ヲ以テ憲法ヲ遵奉スルコトヲ誓フ可シ」ト云フニアリ。千八百三十五年二月十日ノ內閣令ハ更ニ定メテ曰ク、「官吏ニシテ若シ其職權ノ更革ニ遭ヒ、又ハ他職ニ轉任スル時ハ唯ダ遵奉ノ書面ヲ出サシメ、又ハ其口書ヲ取ルノミニシテ足レリ。凡テ初メ任官ノ際ニ行ヒタル

誓約ハ後來新官ヲ拜スルニ當テ其效力ヲ保ツモノト見做ス」ト。千八百五十年一月三十一日ノ憲法頒布後、官吏宣誓ノ方法ハ千八百五十年二月十二日ノ太政官指令(司法省日誌千八百五十年第四十二葉ニ載ス)ニ詳カナリ。又千八百六十六年帝國ノ版圖ニ入リタル州郡ノ官吏宣誓式ハ千八百六十七年十月三十一日ノ太政官指令(司法省日誌千八百六十七年第三百九十七葉ニ載ス)ニ明カナリ。其他職務遵奉ノ誓約式ハ千八百六十七年二月二十二日及ビ同年五月六日ノ法令並ニ同年十月三十一日ノ太政官指令第四條ニ詳カナリ。爾後千八百六十七年十一月九日ノ內務、大藏兩省ノ達ニ據レバ、千八百六十七年五月六日ノ法令ニ準ジテ宣誓式ヲ行ヒタル官吏ハ、千八百三十五年二月十日ノ內閣令ヲ以テ定メラレタル轉任ノ際ニ遵奉書ヲ出スベキ規律ハ自今之ヲ履踐スルニ及バズト云フ。未ダ本官ニ就カズシテ見習助手又ハ試補ノ名義ヲ以テ奉職スル者モ亦職務遵奉ノ誓ヒヲ爲スベキモノトス(司法省日誌千八百四十三年第四百三十三葉ヲ見ルベシ)書記生ノ服務誓約ニ就テハ千八百六十一年十月十二日ノ太政官指令(諸省日誌千八百六十一年第二百六十七葉ニ載ス)ニ詳カナリ。

然レドモ此誓約ハ唯ダ其委任セラレタル職務ニ盡力スベキ事ヲ鞏固ニスルノ方便ナリ。故ニ苟クモ官衙ニ於テ公職ニ任ゼラレタル者ハ其假任又ハ本任タルヲ問ハズ、誓約ニ因テ其職ニ連

帶、セル、一切ノ責任ヲ負擔スルモノトス。而シテ若シ職務上ノ重輕罪ヲ犯シ罰ニ處セラル、時ハ誓約ノ有無ニ拘ラズ本罪相當ノ罰ヲ受クベキ事トス。

學國官吏職務遵奉ノ誓約式ニ關スル布令

千八百六十七年五月六日發行

第一條 直任官吏又ハ間任官吏奉職ノ際ニ取り行フベキ職務遵奉ノ誓約ハ自今左ノ書式ニ準ズベシ。

臣何某謹デ我が至仁至慈ナル君王李滯生國王陛下ニ奉仕シ忠誠ヲ盡シ順從ヲ旨トシ、而シテ凡ソ臣ニ任ゼラレタル官職上ノ責務ハ臣ノ誠意誠心ヲ以テ之ニ黽勉從事シ、且ツ臣ハ誠實ヲ以テ憲法ヲ遵奉セント欲ス。茲ニ之ヲ至大至聖ノ神明ニ誓ヒ以テ神明ノ加護ヲ仰グ。云々

右ノ誓文ニ宣誓人平時信奉スル宗教上ノ誓詞ヲ附記シ以テ宣誓ノ實ヲ強ムルコトハ本人ノ隨意タルベシ。

間任官吏ニ在テハ右誓文ニ附記スルニ該官吏ノ現行規律及ビ特定ノ秩序ニ從ヒ直任長官ニ義

務ヲ盡スベキ誓詞ヲ以テスベシ。

第二條 (以下略)

意見書

侍從 藤波言忠

帝室憲法ノ件

帝室憲法ハ帝室ノ秩序ヲ萬世ニ保維シ以テ帝室ノ尊嚴ヲ無窮ニ傳フルノ基礎ナルガ故ニ、今日ニ於テ之ヲ制定セラル、ハ最モ重大ノ要件タリ、抑モ陛下中興ノ業ヲ創メ玉ヒ、我國舊來ノ國體ニ遵據シ、海外萬國ノ形勢ヲ照覽アラセ玉フテ茲ニ立憲ノ美制ヲ建設セラレントス、立憲ノ制度ヲ建設セラル、ニ於テ先ヅ第一トスベキハ國憲制定ニ在ルハ言ヲ俟タズ、而シテ其ノ國憲ヲ制定セラル、ニ於テ先ヅ確定シ置カザルベカラザルモノハ帝室憲法ヲ以テ最トスベシ、蓋シ、今日帝室憲法ヲ創制セラル、ハ空前絶後ノ偉業ニシテ帝室萬世ノ基礎ヲ確定スルモノナル

ガ故ニ、一時ノ權宜ヲ主トシテ之ヲ制定セラル、ガ如キコトアルベカラズ。宜シク内ニシテハ天下後世ニ對シテ慙ヅル所ナク、外ニシテハ實際親密ナル締盟各國ニ向テ表示スルニ足ル萬古不窮ノ明法ヲ御制定アランコトヲ望ム。今ヤ國會開設シテ國憲ヲ要スルノ期モ近キニ在レバ、今ニ當テ早ク帝室憲法制定ノ功ヲ終へ、期ニ臨ミ咄嗟其事ニ從フテ間々缺點アルガ如キコトアルベカラズ。夫レ帝室ノ憲法タル 陛下親カラ宸筆ヲ染メサセ玉フベキモノナレドモ、萬機御親裁御多端ノ恐レアレバ、宜シク 陛下ノ信任シ玉フ大臣ニ勅シテ起草ノ責ヲ負ハシメ、其大臣ハ 聖慮ヲ承ケ奉リテ謹デ起草上奏ノ任ヲ盡サシムベシ。

竊カニ惟ミルニ、帝室憲法ニ於テハ凡ソ帝位相續法帝族婚姻法及ビ攝政等ニ關スル事項ヲ規定セラルベキモノナレバ、彼ノ帝室財産、財産讓與及ビ各皇族ニ分與スル財産法等ヲ規定スベキ内廷規則ト相關スルコト甚ダ深キヲ以テ、一方ノ起草ヲ命ゼラル、ト共ニ、他モ亦 陛下ノ信任シ玉フ大臣ニ命ジテ起草セシメンコトヲ冀フナリ。斯ク今日ニ於テ起草ノ事ヲ大臣ニ命ゼラレタリトテ、其ノ成功ニ至ルマデ 陛下ハ全ク之ヲ放任アラセラル、ニ於テハ、後日ニ至リテ萬一 聖慮ニ協ハセラレザル所アルガ如キコト無キニシモ非ザルベシ。故ニ憚リ多キコトナガラ 陛下ニ於カセラレテモ、宜シク 宸襟ヲ煩ハシ玉ヒ 御熟慮アラセラレテ、速ニ此ノ重大ナル要件ノ功ヲ奏セシメ玉フベシ。例ヘバ一週間ニ一日其ノ大臣ハ 陛下ニ拜謁シテ逐條

聖慮ヲ伺ヒ奉ルガ如キハ最モ其ノ宜シキヲ得タルモノナラン。斯クノ如クシテ制定セラルルトキハ、其ノ精神ノ在ル所ハ即チ 聖慮ノ在ル所ニシテ、徒ニ 聖慮ヲ迎ヘテ私ニ制定スルノ恐レナク、制定ノ業モ亦遲滯スルノ憂ヒナク、法意緻密ニシテ缺點ナキ良法ヲ見ルヲ得ベシ。

陛下親カラ主ト爲リテ事ニ任ジ玉フニ於テハ、誰カ奮フテ心力ヲ盡サル者アラシヤ。今日帝室憲法ヲ制定セラル、ハ重大ノ要件ナルヲ以テ、冀クハ深ク 聖意ヲ茲ニ注ギ玉ヒ、速ニ陛下ノ信任シ玉フ大臣ニ勅シテ之レガ起草ノ責ヲ盡サシメラレシコトヲ懇願ノ至リニ堪ヘズ。

帝室御財産ノ件

帝室ノ御財産ハ帝室ノ尊嚴ヲ萬世ニ保持シ、確固不拔ノ基礎ヲ建ツルモノニシテ、國民億兆ノ仰グ所、且ツ慈惠榮譽ノ源泉タル帝室ニシテ御財産薄乏ナルニ於テハ、大ニ帝威ヲ赫耀タラシムルノ御活動御意ノ如クナラズ。從テ國民ノ尊敬愛戴ノ感情モ亦幾分カ厚カラシムル能ハザルノ憾ナキニ非ラズ。故ニ御財産ヲ定ムルハ一大要件タリ。熟々我國土地ノ成立ヲ歴史上ヨリ考フルニ、初メ神武天皇一統ノ功ヲ奏シ玉ヒシヨリ、以來普天ノ下、率土ノ濱ニ至ルマデ、國土悉ク 天皇ノ有ニ非ザルハナシ。中世ヨリ武家ヲシテ之ヲ領セシメタリト雖モ、其ノ性質上ヨ

リ考フルニ、一時之ヲ托シタルニ止マリ、決シテ永世ニ之ヲ賜フテ動かカス可カラザルモノニ非ラズ。何トナレバ 天皇ヨリ政權ヲ委任シタル幕府ニ於テ之レガ與奪分合ヲ爲スノ權ヲ握リタルニ非ラズヤ。降テ明治維新ノ世ニ及ビ、地券ヲ發行シテ一個ノ人民ニ土地ノ所有權ヲ與ヘラレタリト雖モ、其ノ餘ノ土地ニシテ官有ノ地ト稱スルモノニ至リテハ、悉ク是レ 天皇ノ直有財産ニシテ、決シテ之ヲ他ニ與ヘタルモノニ非ラズ。然レドモ斯ノ如キモノハ多ク各省廳ニ於テ之ヲ管理シ、全ク帝室ノ國有財産タルベキモノノ名分確立セズ。緩慢ニ流レテ殆ンド帝室ノ御有タル形迹ナキニ至リタルガ如キハ甚ダ遺憾ノ至リナリ。今日帝室ノ財産ト爲スベキモノヲ確立スルノ時ニ當リテハ、各省ニ照會シテ協議ノ上之ヲ定ムルノ有様ナルモ、是レ素ヨリ 皇帝陛下ノ御有タルノ土地ガ自然ニ各省廳ノ管理ニ歸シタルモノヲ引上ゲルノミニシテ、決シテ省廳ノ眞ニ所有スルモノヲ帝室ニ貫ヒ受クルト云フガ如キ道理ニ非ラズ。サレバ之ヲ帝室ニ屬スルノ日ニ於テ、宮内ノ官吏ト各省ノ官吏トノ間ニ於テ決シテ面倒ナル掛合ノ起ルベキ筈ニ非ラズ。斯ノ如キ思想ヲ人民ノ腦裡ニ能ク浸漸セシムルニ非ザレバ、國會開設ノ日ニ當リテハ彼レ是レ帝室ノ財産上ニ就キ論難スル議ヲ出スヤモ計リ難シ。故ニ今ノ時ニ當テ宜シク判然ト之レガ區別ヲ立テ、永ク省廳ニ於テ管理スベキモノト、帝室ノ御財産タルベキモノト分タザルベカラズ。顧ミルニ國會ノ開設アルニ至リテハ、國庫ヨリ帝室費トシテ納ムベキ金額ハ毎歲宮内

大臣ニ於テハ之レガ豫算表ヲ作りテ國會ニ呈出スル時ニ當リ、假令ヒ帝室費ハ幾何ト云ヘル豫算アルニモセヨ、實際帝室ニ於テ要スルダケノ費用ヲ國庫ヨリ納メシムルモ決シテ道理上不可ナルコトナカルベシ。然レドモ臨時ニ多額ノ金員ヲ請求スルハ策ノ得タルモノニ非ラズ。斯ノ如ク年々國庫ヨリ納メシムル金額略ボ一定スルトキハ、帝室費ヲ國會ニ呈出スルニ當リ、國會ハ帝室費ニ彼レ是レ議論ヲ容ル、ハ帝室ノ尊嚴ヲ損スルノ恐レアリトシテ之ヲ議セザルノ習慣ヲ作ルコトヲ得ベキナリ。凡ソ海外各國ニ於テハ、帝王即位ノ初メニ於テ、其在位中年々要スル所ノ帝室費ヲ定メテ之ヲ國會ニ請求シ、其後ハ唯ダ之ヲ呈出スルニ止マリテ之ヲ議セザルヲ通常トス。サレバ我國ニ於テモ國會開設ノ初メニ於テ一度之ヲ定メ、後來屢々之ヲ議セシメザルヲ宜シトス。而シテ國會ニ於テ彼レ是レ帝室費ニ議ヲ容レザルガ如キ習慣ヲ作ラントスルニハ、帝室費ヲ定ムル初發ニ於テ精密ニ之ヲ調査シ、成ルベク毎歲増減ナキヲ要ス。寧ロ少額ナルモ過多ニシテ國會ノ議論ヲ生ゼシムルコト無キ様ニ爲サルベカラズ。一度國會ヲシテ帝室費ノ多寡ヲ議スルコト有ラシメバ、是レ亦後年ノ惡習慣ヲ作ルノ憂ヒナキニ非ラズ。故ニ國會ハ帝室費ノ豫算ヲ少ナキニ過グルトシ、更ニ増額アランコトヲ希望スルコトアルモ、決シテ豫算ヲ多シトシテ不遜不敬ノ議ヲ建ツル者ナキ計畫ヲ爲シ置カザルベカラズ。果シテ然ラバ國庫ヨリ納ムル帝室費ヲ以テ支辨スルコト能ハザル諸種ノ費用ハ何ヲ以テ支辨センカ、是レ御財産制定ノ

必要ナル所以ナリ。素ヨリ帝室ノ事タル巨多ノ蓄財ヲ旨トシ、殷富ヲ致サンコトヲ主トスベキニ非ラズ。寧ロ國民ノ爲ニ之ヲ薄クスルニ至ルハ美德ト稱スルニ足ルト雖モ、今日ヨリ從來ノ事ヲ慮ルニ、帝室ニシテ固有ノ財産ナキトキハ國家ノ元君タルベキ 皇帝タルノ御活動ヲ自在ニ遊バサル、コト難カルベシ。蓋シ帝室ハ國民ニ對シテ慈惠愛撫ヲ施スノ必要起ルノミナラズ、國家ノ爲ニ率先シテ黎庶ヲ誘導スルニモ亦其費途ナカルベカラズ。加之軍人ノ功績アル者ニハ賞賜ヲ與フル等、種々ノ御活動アルガ故ニ、必ラズ之ニ備フル源泉ナカラザルベカラズ。是ヲ以テ今茲ニ帝室ノ御財産ヲ豊カニシテ之レニ備へ、一方ニ於テハ帝室費トシテ國庫ヨリ納メシムベキモノ、例ヘバ三百萬圓トスルトキハ之レヲ二百萬圓ニ減ズル等ノ事トシテ、御財産ノ收益ヨリ得ル所ヲ以テ苟クモ帝室タル御義務ヲバ御意ノ儘ニ存分ニ行ハセラル、ガ如キ計畫ヲ爲サバ、大ニ其ノ宜シキヲ得ンカ。抑モ帝室御財産ノ種類ヲ舉グレバ左ノ如クナルベシ。

第一 帝位ニ屬スル財産

第二 帝室ノ世襲財産

第三 皇帝ノ私産

此三種ノ中第一種帝位ニ屬スル御財産ハ皇城、離宮及ビ宮殿、禁園、御歷代ノ御物、儀式ニ關スル御物、並ニ二條、大阪、仙臺、名古屋、廣島、熊本ノ城等ノ類ナレバ、之レニ依リテ收

利アルモノニ非ラズ。第二種世襲ノ御財産ハ即チ不動産ニシテ、一度確定シタル上ハ如何ナル事變アルモ變動スベキモノニ非ラズ。萬世ニ傳ヘテ皇室ノ御財産トシテ、毫モ減少スベカラザルモノナリ。第三種ノ御財産ニ至テハ第一種、第二種ト全ク其ノ性質ヲ異ニスルモノニシテ、即チ第二種ノ不動産ヨリ生ジ來ル收益及ビ其他諸種ノ收利ニシテ 聖慮ノ自由ニ任セテ使用セラルベキモノナリ。然ルトキハ第三種ノ財産ニシテ充分ナラザレバ 皇帝ニ於カセラレテ御不自由ヲ感ジ玉フノミナラズ、國民愛撫ノ上ニ關スル慈惠榮譽等ノ事ニ至ツテモ、御意ノ如ク之ヲ行ヒ玉フ事ヲ得ザルベシ。然ラバ萬世不易ノ皇室ニ屬スル不動産ノ制定セラル、ト共ニ、第二種ノ御財産ヲ増殖スルノ計畫ナカラザルベカラズ。

今日宮内省ニ於テ御料地ヲ増加スルノ御計畫アリテ、現ニ各府縣下ニ其ノ區分ヲ立テラル、ニ至リタルハ甚ダ喜バシキ限リナリ。然ルニ皇室ノ御財産ハ前ニモ記シタルガ如ク、三種ニ分ツモノニシテ、且ツ御財産ニ係ル諸件ヲ規定スベキ法規ナカラザルベカラザルヲ以テ、先ヅ内廷規則ヲ制定セラレテ其ノ基礎ヲ立テ、二十三年マデニ皇室憲法ト共ニ其ノ成功アランコトヲ希望ス。假令ヒ充分ニ皇室ノ御財産ヲ定メラレタリトテ、之レガ法規ヲ立テザルニ於テハ、再ビ緩慢ニ流レテ其地ヲ失フガ如キノ弊害ヲ生ズルコトナシトモ言ヒ難カルベシ。又今日御料地ヲ制定セラル、ニ當リ、各府縣下ニ於テ充分收利ノ有スベキ官林等ヲ以テセラル、事ナルベキ

ガ、之ヲ爲スニ當リテハ當今大ニ目立たズシテ將來ニ收利多カルベキ見込アルモノヲ編入スルコト得策ナルベシト思考ス。餘リ目立ちタルモノヲ引上ゲテ人民ノ失望ヲ來タスニ於テハ、皇室ノ御爲ニ宜シカラザルベシ。又當今ハ荒蕪ノ地ナルモ、將來ニ見込アルノ山野等ハ年々皇室ノ費用ヲ計リテ漸々之ヲ開墾スルコトモアルベシ。或ハ國庫ヨリ一時開墾費ヲ支出セシメテ後年收利ヲ見ルノ用ニ至リテ漸次之レガ償却ヲ爲スノ方法ヲ制定セラル、コトモ有ルベシ。斯クスルトキハ大藏省ニ於テモ當今不毛ノ地ヨリ後年多クノ租稅ヲ收ムルコトヲモ得ベキ双方適宜ノ良法タルベシ。元來皇室ノ御料地タル官ノ仕法組ヲ以テ之ヲ管理スルガ故ニ、年々ノ收利甚ダ輕少ナリトス。故ニ今ヨリ皇室ノ領地ハ人民一己ノ所有地ト等シキ性質ヲ有スルモノトシ、開墾シタル地ト云ヒ在來ノ山林ト云フモ、少シタリトモ收利ノ許多アル様ニ計畫セザルベカラズ。斯ノ如クナレバ充分其ノ經濟ノ才ニ富ミテ處理ニ熟シタル者ヲ撰ンデ之レガ計畫ヲ爲サシメザルベカラズ。抑モ歐洲各國皇室ノ如キハ其ノ領地ヲ直接ニ支配シテ小作人ヲ入レ、之ヲ耕耘セシムルモノナキガ如シ。多クハ土地アレバ之ヲ人民ニ貸附シテ之ヲ耕作セシムルナリ。是レ他ナシ、官吏ノ農事ヲ支配スルハ到底收利ヲ見ルコト少ナキヲ以テナリ。又山林及ビ農事ノ如キモ一切之ヲ大藏省ニ依托シテ其ノ收益ノミヲ皇室ニ納ル、ガ如キ所モ無キニ非ラズト雖モ、是レ其ノ皇室ノ御料ノ局ニ之ヲ管理スル人物ノ乏シキニ因ルナルベシ。我が皇室ノ如キハ

當今益々御擴張ノ節ナレバ、御料地ハ悉ク之ヲ帝室ニ於テ管理スルモ、農事ヲ自カラ支配スルガ如キハ其ノ收支到底相償ハザルベシ。宜シク後來ノ計畫ヲ立テ、前ニ記シタルガ如ク開墾ヲ行ヒ全ク耕作スベキヲ得ルニ至ツテ、之ヲ人民ニ貸附シテ其ノ利益ヲ納ムルヲ可トス。斯クスルトキハ人民ニ於テモ大ニ利ヲ得テ生活ヲ安ラカニセシムルコトヲ得ベシ。若シ又農事ノ如キモ御料局ニ於テ直接ニ之ニ從事スルトセバ、元來帝室ハ人民ノ先導者タルベキモノナルヲ以テ、宜シク收利ノ多キガ如キ方法ヲ執リ行ハザルベカラズ。決シテ人民ニ對シテ主義ノ立タザルガ如キコトヲ爲スベカラズ。苟クモ之ヲ御料局ニ於テ爲ストスルトキハ、充分人民ノ規範ト爲リ經濟ノ手本ト爲ルベキ様ニ爲サシメタキコトヲ希望スル所ナリ。

陸海軍ニ關スルノ件

陸海軍ノ擴張ノ 聖勅出テヨリ既ニ數年ニ及ビタル今日ニ至リテハ、各軍部ニ關スル狀況ハ頗ル其ノ體面ヲ更メタルガ如シ。即チ徵兵ノ事ヨリ防海ノ事ニ至ルマデ、皆其ノ擴張ヲ計ルモノナリ。然ルニ其ノ事タル固ヨリ國庫ノ都合ニ依テ伸縮セラル、コトハ茲ニ喋々スルヲ要セザレドモ、其ノ擴張タルヤ唯ダ之レノミニ止マラズシテ他ニ大ニ望ムベキモノアルナリ。夫レ事ヲ

行ハシムルニハ之レガ志氣ヲ鼓舞スルヲ以テ肝要ノ事トス。陸軍ノ事ニ至ツテハ最モ軍人ノ志氣ヲ鼓舞シテ之ヲ奮起セシメザルベカラズ。彼ノ獨逸皇帝ノ如キハ常ニ練兵ノ場ニ臨幸シ、或ハ兵學校又ハ兵營ニ卒然臨幸シ、不意ニ其ノ狀況ヲ窺覽シ、時トシテハ勅語ノ兵卒ニ迄及ブ等ノ事アリテ、其ノ勵精セラル、處實ニ多ク、爲ニ兵卒等ハ感泣シテ各々其ノ義務ヲ果サンコトヲ願ヘリト云フ。概シテ言ハバ陸海軍ヲシテ強盛ナラシムルハ、主トシテ此點ニ在ルト言フテ可ナランカ。抑モ我が 陛下ノ軍人ヲ親愛シ玉フコトハ常ニ陸海軍ノ兵學校ニ臨幸シテ其ノ盛式ニ賁臨シ、或ハ武官ヲ召シテ御陪食ヲ仰付ケラレ、或ハ軍事アルニ際シテ病院ニ慰問ヲ賜フ等、固ヨリ 御親撫ノ 聖慮厚キニ因ルモノナリト雖モ、其ノ御臨幸ハ多ク卒業證書授與式又ハ進水式等ニシテ、方ニ其ノ盛飾ヲ張リタル時ノ狀況ヲ窺覽アルニ止マリテ、平素ノ實狀ハ窺覽セラル、ノ便ナキガ如シ。故ニ今ヨリ各鎮臺ニ於テ演習ヲ執行スルニ當リテハ、臨幸アラセラレテ 天覽シ玉フコトトスベシ。例ヘバ今年名古屋鎮臺ノ演習ニ臨幸セラル、トキハ、來年ハ廣島鎮臺ノ演習ヲ 天覽アラセラルルガ如クスベシ。斯クスルトキ各鎮臺ノ軍人ニ於テ六年ニ一度ハ必ラズ 天顏ヲ拜スルコトヲ得テ、大ニ其ノ志氣ヲ鼓舞スルヲ得ベシ。而シテ其ノ御臨幸ノ時ニ當リテハ、一日ハ武官ヲ召シテ御陪食ヲ仰付ケラレ、次ハ縣官、次ハ其ノ地方ノ豪民ニシテ國家ノ爲ニ力ヲ盡スガ如キ者ヲ召シテ拜謁ヲ賜ヒ、或ハ御陪食ヲモ仰付ケラル、ガ如

キアラバ、其ノ結果タル大ニ宜シキヲ得ベシ。又海軍ノ如キハ往々兵學校ニ臨幸セラレテ學術
 進歩ノ如何ヲ 天覽アラセ玉ヒ、又水雷火ノ演習及ビ海岸防禦ノ演習等ニ臨幸アラセラレ、若
 クハ各鎮守府等ヲ御巡覽遊バサレ、又毎年一度艦隊練等ヲ 天覽アラセラル、如キコトヲ爲
 スベシ。從來武官ヲ帝室ニ召スコトハ更ニ無キニ非ザレドモ、偶々御陪食又ハ鴨狩等ニ之ヲ召
 スニ止マリ、唯ダ其ノ士官ヲ待遇スルニ過ギズシテ一般軍人ノ志氣ヲ奮起セシムルニ足ラザル
 ナリ。蓋シ兩三年前ニ在リテ武官ニ御陪食仰付ケラル、ハ順次隊中ノ者ヲ殘ラズ召サル、ノ有
 様ニシテ、即チ彼ヲ召スニ此ヲ加フルノ類ニシテ、其狀タル唯ダ規則ヲノミ守ルガ如キ接待ノ
 有様ニシテ、眞ニ 陛下ノ御親愛アラセラル、ノ情ヨリ酒饌ヲ賜フノ趣意ニ出ヅルヲ表スルコ
 ト能ハズ。果シテ斯ノ如クナレバ何ヲ以テカ武官等ノ志氣ヲ奮起鼓舞セシムルヲ得ン。而シテ
 又將來大ニ望ム所ハ兵營又ハ兵學校等ニ臨幸アラセラル、ニ、從來ノ如ク豫ジメ其ノ日時ヲ示
 サル、ガ如キコトナク、又其ノ請願ノ有無ニ拘ラズシテ不意ニ之ニ臨幸シ、卒然其ノ事業ヲ
 叡覽シ玉ヒ、又武官等ニハ常ニ親昵ヲ賜ヒテ勅語ヲモ及バセラレ、又時トシテ交々之ヲ召シテ
 之ニ酒饌ヲモ賜フニ至ラバ、事簡ニシテ行ハレ易ク、其ノ效ヲ見ルユト多カルベシ。且ツ斯ノ
 如ク 陛下ノ懇切ナルニ至ラバ、一度召サレタル武官ハ其ノ榮ニシテ且ツ恩遇ノ厚キヲ感佩シ
 テ益々 陛下ノ爲ニ力ヲ盡サンコトヲ思フニ至ルベシ。果シテ斯ノ如クナレバ軍人ノ志氣ヲ鼓

舞スルコト益々大ニシテ、其ノ影響スル所ハ各地方ノ兵營ニ及ビ、其ノ兵營ニ在ル者之ヲ聞イ
 テ 陛下ノ恩顧ノ深キコトヲ感佩シ、其ノ志氣ヲ奮起スルニ至ルベシ。亦以テ軍人ヲ獎勵スル
 ノ好手段ト謂フベシ。而シテ陸海軍及ビ宮内ノ大臣等ニ於テ専ラ 叡慮ノ在ル所ニ基イテ之ニ
 關スル諸事ヲ掌リ、御陪食等ニ召スベキ武官ヲ選拔スルトキハ、之ヲ悉ク盡サハルモ不満足ナカ
 ラシムベキナリ。故ニ陸海軍ノ擴張ハ素ヨリ國庫ノ都合ニ由ルト雖モ、單ニ學校ヲ起シ、防海
 ノ事業ヲ爲スニ止マラズシテ、現在ノ陸海軍々人ノ志氣奮起シテ活潑ニ赴ク如ク之ヲ誘導スル
 モ亦大ニ其ノ效アルベキヲ信ズ。故ニ仰ギ願クハ 陛下ノ陸海軍ヲ處シ玉フニハ、常ニ親切ニ
 軍人ヲ待遇シ且ツ之ヲ親昵シ玉ヒ、又不意ニ之ニ臨幸シテ卒然其ノ事業ヲ 叡覽アラセラル、
 等極メテ活潑ナル御處置アランコトヲ、又主務者ハ 陛下ノ 叡慮ヲ服膺シテ事ヲ執ランコト
 ヲ偏ニ希望スル所ナリ。

授爵叙勳ニ關スルノ件

凡ソ大政ノ權ハ君主ノ掌握スル所ニシテ、彼ノ歐洲ノ如キ、苟クモ立君國タル上ハ皆然ラザ
 ルハナシ、故ニ我國遂ニ立憲政體ヲ立テラル、ニ至ルトモ、大政ノ權ハ常ニ 陛下ノ掌握セラ

ル、所タルハ論ヲ俟タズ。然ルニ又一種 陛下ノ之ヲ專有シ玉フベキモノアルベシ。請フ試ニ之ヲ述ベシ。即チ陸海ノ兵權、宣戰、講話、締盟、特赦、官吏任免、叙勳位等ノ事ニシテ、是レ 陛下ノ親ヲ專有シ玉フベキ權ナルベシ。然ラバ叙勳ノ事及ビ授爵ノ事等ハ 陛下ノ親ヲ之ヲ行ヒ玉ヒ、苟クモ他人ヲシテ之ニ喙ヲ容ル、コト能ハザラシムル様ニ爲サルベカラズ。特ニ近年維新前後ノ功臣ニ爵ヲ下賜セラレタルガ如キハ實ニ盛世ノ美事ナリ。而シテ之ヲ下賜セラレタルハ全ク 陛下ノ聖衷ヨリ出デサセラレタルコト勿論ナルベシ。然ルニ斯ノ如キ際ニ當リテハ、其ノ人物ヲ精擇スルコトニ最モ注意ヲ專ラトスルモ、情實ニ陥ルコト少ナカラズ。此ニ賜ハラバ彼ニモ賜ハラザルベカラズト云ヘルガ如キ事ト爲リ、之レガ爲ニ終ニ輕々シク爵位ヲ授クルノ習慣ヲ惹起スルノ弊害アルヲ以テ、能ク茲ニ 聖慮ヲ注ガレザルベカラズ。往時埃太利ノ如キハ爵位輕授ノ弊害起リテ、全ク爵位ノ價值ヲ失ヒタルニ至レルモ、今日ニ於テハ容易ニ之ヲ下賜スルコトナキヲ以テ、漸ク其ノ弊風ヲ洗除スルニ至リタリ。故ニ我國ノ如キモ務メテ其ノ覆轍ヲ蹈マザル様ニ注意遊バサレザルベカラズ。又勳章ハ主トシテ軍人及ビ官吏ニ之ヲ下賜セラル、ノ有様ナルガ、之ヲ下賜セラル、ニモ注意ヲ加ヘラレザルトキハ、以テ其ノ價值ヲ貴カラシムルコト能ハザルベシ。獨リ軍人ニ與フルニハ其法ヲ正シクシテ、文官ニ與フルコト漫リナルガ如キアラバ、軍人ノ士氣ヲ奮起セシムルニ害ヲ醸スコトナシト謂フベカラズ。

茲ニ又一言スベキハ彼ノ農工商ノ輩ニシテ多ク國家ノ爲ニ有益ノ事業ヲ爲シタル者ニモ勳章ヲ與フルコト是レナリ。近來海防費ヲ獻金シタル者ニハ勳章ヲ賜ヒ、中ニハ位階ヲ授ケラル、ノ事アリト雖モ、未ダ其他ノ者ニ著シク之ヲ賜ヘルコトナキガ如シ。夫レ農工商ハ國家ノ大本ニシテ國家ノ強富ニ赴クハ此三者ヲ措テ他ニ在ルコトナシ。サレバ農工商ノ輩ニシテ著シク國家ノ爲ニ眞ニ有益ノ事業ヲ起シタル者ニハ勳章ヲ與ヘ、以テ之ヲ獎勵シ、益々之ヲ擴張スルノ念ヲ抱カシムルガ如ク爲サルベカラズ。以上述べタルガ如クナレバ、授爵叙勳ノ事ニハ主トシテ 陛下ガ專ラ 聖慮ヲ傾ケサセラレ、極メテ之ヲ鄭重ニ遊バサレンコトヲ仰望ノ至リニ堪ヘズ。

宮内省官吏ハ他省官吏ト其性質ヲ異ニスルノ件

宮内省ハ帝室ノ御家事ヲ處辨スル衙門ナレバ、素ヨリ他ノ各省ト其性質ヲ異ニスベキモノニシテ、現ニ内閣ト關係ヲ有セル今日ト雖モ、尙ホ一種特別ナル所アリ。況ンヤ漸次内閣ト關係ヲ絶チ、獨立スベキモノナルニ於テオヤ。而シテ他ノ各省官吏ハ該省大臣ノ交迭アル毎ニ省務處辨ノ目的ヲ異ニスル等ノ事アルヨリ、官吏ノ變動ヲ來タスベキ類往々之レアリト雖モ 陛下

ノ御家事ハ終始變ラザルモノナレバ、茲ニ奉仕スルノ官吏ハ終身之ニ從事スベキ者タラシメザルベカラズ。故ニ採用スルノ際ニ當リテハ其人ノ才能ハ勿論、心術ノ如何ヲ撰査スルコト精到周密ナルヲ要ス。一度就職セシメタル者ハ大故アルニ非ザレバ、長官ノ交迭等アルモ之レガ爲ニ任免スルコトナキモノトシ、又斯ク帝室ニ奉仕スル官吏ハ他ノ各省ニ轉任シテ榮達ヲ求メントスルノ念ナク、終身帝室ノ御用ニ精勤セントスルノ感情ヲ有セシムベキナリ。此ノ感情ヲ惹起セシメントスルニハ宮内省ノ官吏ニハ特別ノ恩惠ヲ與へ、以テ他ヲ希望スルノ念ナカラシメ、他省ノ官吏ハ之ヲ羨望シテ帝室ニ奉仕スル者ヲ榮譽トスルニ至ル様アルベキナリ。

侍從地方視察ノ件

夫レ地方ノ民情ヲ視察スルノ事タルヤ、素ヨリ之レガ行政ヲ掌ル者ニ於テハ甚ダ重要ナル事ナルハ論ヲ俟タズ。昔時ニ在テハ一國ノ君主タル者若クハ宰相タル如キ者ハ微行シテ民情ヲ視察シ、百姓ノ疾苦ヲ知ル等ノ事ヲ以テ大ニ美德ト爲シタリト雖モ、今日ノ如キ有様ニ於テハ行政萬般ノ事務ハ各々其ノ擔任スル所アリ、特ニ 陛下ニ於テ其ノ信任シ玉フ大臣ヲ以テ地方ノ政務ヲ總管セシメ玉ヒ、又適當ナル人物ヲ撰擇シテ地方官ト爲シ、以テ其事務ヲ執行セシメラ

ル、事ナレバ、能ク之ヲ信用セラル、コト當然ノ事ニ之レ有ルベク 陛下ノ聖慮ヲ民間ノ事ニ注ガセ玉フコトハ誠ニ一大美德ナレバ、時々内務大臣ヲ召シ玉ヒ、民情ヲ具申セシメラル、如キ事トシテ、其ノ言フ所ニ從ヒ之ヲ信ジ玉フコト然ルベキナリ。警察ナリ、衛生ナリ、教育ナリ、精シク之ヲ知ロシ召サントナラバ、各々之ヲ專務トスル官吏アルヲ以テ、充分ニ 聖意ヲ達セラル、コトヲ得ベシ。從來侍從ヲ各府縣ニ派遣シテ民情ヲ視察セシメラル、ノ事アリタルガ、其ノ之ヲ命ズルヤ微行セシメテ民情ヲ視察セシムルノ類ニ非ラズ。素ヨリ公然タルモノニシテ之ニ屬官ヲ從ハシメ、之ヲ官報ニ記載シ、之ヲ府縣ニ通知ス。故ニ府縣ノ官吏ハ帝室ノ官吏ヲ厚ク待遇スルノ意ヲ以テ盛ニ之ヲ饗應シ、又其ノ吏員及ビ郡區長等ヲシテ之ヲ誘導セシメテ僅ニ二三ノ目立チタル場所ヲ巡見セシムルノ有様ナリ。斯ノ如クナレバ其ノ民情視察タルノ效ヲ見ルコト能ハザルベシ。況ンヤ帝室ニ於テ是非斯ク民情ヲ視察セザルベカラザルノ必要ナキニ於テオヤ。然レドモ茲ニ各府縣下ニ於テ大旱、出水、或ハ流行病等ニテ地方ニ慘狀ヲ呈シタル時ニ、之レガ實際ヲ視察セシメテ恩惠金ヲ賑恤シ玉フトカ、或ハ各府縣下ニ於テ大事業、例ヘバ築港、道路改築、或ハ人民ノ起業ニ因リ、製造所ヲ設置シタル時等ニ之ヲ實視セシメテ叡聞ニ達シ、或ハ鐵道落成ノ下見分ヲ爲サシメ、或ハ北海道屯田兵ノ形勢ヲ視セシメ、之ヲ奏セシムルト云フガ如キハ勿論望ムベキ所ナリトス。以上述べタルガ如クナレバ、從來ノ如ク侍

從ヲシテ地方ノ民情ヲ視察セシムルガ如キ方法ヲバ全ク之ヲ改正シ、之ヲ爲サシムルハ上ニ説キタルガ如キ場合トシ、其ノ所爲タル活動的ノモノト爲スベシ。元來是レ迄ノ如キ民情視察タル、徒ニ舊來ノ套習ヲ襲用シテ 聖徳ヲ培養スルノ外形ヲ粧ハントスル風アルヲ免カレザルハ余ノ欲セザル所ナリ。

侍從ヲ改正シ及ビ帝僕ヲ置クノ件

從來侍從ノ職トスル所ハ平素君側ノ雜務ニ從事スルモノニシテ、即チ御膳ノ試饌、賢所御代拜ヲ奉仕シ、又ハ御服、御書籍、御道具、御劔、御馬、御銃器等ノ事ヲ掌リ、又大禮、即チ三大節ノ供御、配膳又ハ平時出御ノ時ノ配膳、御巡幸ノ時ニ當リテハ主トシテ之ヲ擔任シテ配膳シ、又時トシテハ勅使ト爲リテ儀式ニ臨ミ、御使トシテ吉凶禮ニ參向シ、其他陸海軍演習等ノ節ニモ其ノ軍人ニ混リテ旅行スルコトモアル等是レナリ。之ヲ要スルニ高等官タルノ職ヲ行フコトアリ、或ハ帝僕ノ奉仕スベキ事務ニ從事スルコトアリテ、其ノ煩雜モ極マレリト謂フベシ。然ラバ宜シク侍從ノ職トスベキ所ハ何ゾヤ、内閣諸大臣ノ事務奏上、下達、謁見ノ斡旋、御巡幸ノ供奉及ビ大禮ニ侍スル等總テ重要ノ諸件ヲ掌ルコト是レナリ。然ルニ當今ノ如ク煩雜ナル事

務ニ從ハシムルハ蓋シ其ノ當ラ得ザルガ如シ。抑モ當今ノ侍從ト雖モ 陛下ノ御陪食ヲモ仰付ケラルベキ資格ヲ有スル者ナリト雖モ、實際ヲ顧ミルニ評説ヲ下スニ甚ダ困難ナル職務ナリトス。故ニ別ニ帝僕ヲ設ケテ君側ノ雜事ヲ執ラシムル事トシ、總テ配膳及ビ其他ノ雜務ヲ掌ラシメ、侍從ニハ其ノ職ニ適フノ地位ヲ保タシムベキナリ。是レ今日ニ當テ侍從ノ職務ヲ改正シ、且ツ帝僕ヲ置カンコトヲ望ム所以ナリ。夫レ 陛下ハ國家ノ 大元帥ニシテ、陸海ノ兵權ハ陛下ノ掌握セラレ玉フ所ナリ。然レバ常ニ君側ニ近侍スル者モ亦武官ヲ以テセラル、コト至當ノ事ナルベシ。又武官ヲ君側ニ御任用アルトキハ、國家ノ武事ヲ振起セシムルコトヲ得ベシ。是レ歐洲諸國ノ侍中ハ多ク武官ヲ以テシ、常ニ君側ニ近侍セシメ、文官ノミヲ以テセザル所以ナルベシ。今日我が侍從ノ職ニ在ル者ヲ見ルニ、多ク文官ニシテ武官タル者ハ實ニ少ナシ。適適之レアルモ其名ノミニシテ其實アルコトナシト謂フモ不可ナキガ如シ。苟クモ君側ニ任用アル武官ニシテ斯ノ如キ有様ナルトキハ、國家ノ武事ヲ振起スルニ於テ足ラザル所アルニ似タリ。然ルニ武官ヲシテ君側ニ侍セシムルトキハ、陸海軍ニ關スル諸事ニ就テ御質問アルニ際シ、直ニ奉答スルノ便アリ。且ツ陸海軍演習ノ時ニハ之ヲ遣ハシテ其ノ實狀ヲ視セシメ、具ニ之ヲ奏問セシムルコトヲ得ベシ。夫レ地方ニ行幸シ、練兵ニ臨幸セラル、ノ時ニ際シ、供奉ヲ命ズル侍從ニテモ、文官ヲバ之ニ入レザルノ武則ナリ。然ルニ 陛下練兵場ニ文官ノミヲ隨行セシメ

玉フガ如キコトアリテハ、何ヲ以テカ能ク武則ヲ守ルコトヲ得ンヤ。然レドモ今日ニ在リテハ尙ホ其不可ヲ言フ者ナキガ如シト雖モ、此儘ニシテ改正スルコトナクンバ遂ニ其ノ煩雜ナル言ヲ聞イテ然ル後之ヲ改ムルノ拙策トナランノミ。是レ宜シク侍從ハ歐洲各國ノ侍中武官ノ如キ性質ニ改メ、且ツ其ノ職掌ヲモ改正アランコトヲ望ム所以ナリ。而シテ其ノ侍從ヲ任命スルニ就テ一ノ考案アリ。抑モ侍從ハ其ノ性質ヨリ觀ルトキハ、各武官ヨリ之ヲ撰拔シテ不可ナキガ如シト雖モ、今日ニ於テハ少シク行ハレ難キ所アルベシ。蓋シ今日ノ侍從ハ武技ナシト雖モ、從來君側ニ近侍シテ既ニ之ニ要スル百般ノ事務ニ熟セリ。然ルニ今舉ゲントスル武官ハ各々其ノ武技ニハ充分熟シタリト雖モ、侍從タルノ職務ニ至テハ極メテ拙ナルベシ。然ラバ之ヲ採用スルニ彼此長短ノ感ナキ能ハズ。故ニ其ノ任命法ハ後日ハ論セズ、今日ニ在リテハ先ヅ折半シテ彼此ヨリ相用キ、其ノ定員十人ナレバ其中五人ハ之ヲ武官中ヨリ舉ゲ、五人ハ今日ノ侍從中ヨリ之ヲ撰ブガ如キコトトナサバ、一ハ改正ノ緒ヲ爲シ、一ハ事務ニ差閫ユルコトナカルベシ。且ツ後來其ノ必要アルニ至ルベケレバ、歐洲各帝國ノ如ク通常ノ侍從ノ外ニ名譽侍從ヲ置カルルコト至當ナルベキカ。又帝僕ヲ任用スルニ至ツテハ、元來其ノ職トスル所雜務ニ從事スルモノナレバ、其ノ職權モ自カラ高カラザルガ故ニ、有爵者又ハ有爵者トナルベキ資格ヲ有スル者ヲ除キ、之ヲ西京華族ノ子弟及ビ無爵者ヨリ之ヲ採ルベシ。如何トナレバ西京華族ハ從來帝室

ニ對シ御縁故モ淺カラザルガ故ニ、之ヲ御使用アラセラル、ニ於テ幾分カ使用シ易カルベシ。又斯ノ如キ者等ハ君側ニ近侍スルノ名譽ヲ思ヒ、極メテ陛下ノ爲ニ御用ヲ務メント欲スルヲ知ルナリ。而シテ今一ノ改正ヲ望ム點ハ、配膳ノ事はレナリ。其レ禮節及ビ廉立チタル時、或ハ御巡幸ノ際ノ配膳ハ從來侍從ノ任ニシテ、平時日々ノ配膳ハ女官ノ任ナリ。然ルニ又洋食ノ時ノ配膳ハ内膳職官吏ノ任ナリ。斯ノ如ク時ニ由リ、品ニ因リテ其任ヲ異ニセリ。若シ侍從ヲシテ配膳セシムルハ其儀ヲ重ズルニ由ルトセバ、時トシテ内膳職雇吏ノ配膳スルハ當ラザルモノノ如シ。又平時日々ノ配膳ハ女官ノ任ナルガ、女官ニハ勅任アリ、奏任アリ、之ヲ侍スルノ道モ亦自カラ尊カラザルベカラズ。殊ニ其ノ配膳ノ模様ヲ伺フニ、先ヅ内膳職ヨリ女嬬ニ出シ、女嬬ヨリ命婦、掌侍、典侍ヲ經テ漸ク之ヲ獻進スルナリ。其煩モ亦甚ダシト謂フベシ。故ニ寧ロ之ヲ改メテ帝僕ノ任トシ、配膳ノ如キハ公私ノ時ヲ論ゼズ、和洋ノ食ヲ問ハズ、悉ク之ヲ帝僕ノ事トシ、其儀一ニ出ヅルヲ希望スルナリ。而シテ御服、御書籍、御道具等ノ事タル、雜事ハ、雜事ナリト雖モ、然カモ帝僕ニ任セテ置クベカラザルノ事ナレバ、陛下ノ御信用アリ且ツ其ノ事ニ精シキ人ヲ舉ゲテ之ヲ擔任セシムルトキハ、其事モ充分ニ整理スルヲ得ルニ至ルベシ。而シテ此等ノ事ニ當ル人ハ、從來ノ如キ奏任上位ノ者ナルヲ要セズ、五六等ノ下位ノ者ニ任ジテ充分ナルベシ。以上述べル所ハ其ノ改正ヲ希望スルノ要點ナリ。

皇族華族及ビ大臣等ノ家ニ行幸啓ノ件

兩陛下ヲ皇族及ビ華族等ノ家ニ御招待スルコトハ、其願ニ因テ或ハ三年ニ一度アルノ今日ノ有様ニシテ、常ニ其家ニ行幸啓ノ事ハ實ニ容易ナラザルガ如シ。抑モ皇族ノ家タルヤ 陛下ノ御血統ノ家ニシテ宜シク御親密ナルベキナリ。故ニ皇族ヨリ其ノ御招待ヲ願ヒ 陛下モ亦其家ニ行幸啓アラセラルベキコト、是レ御親密上ノ御交際ニシテ缺クベカラザルモノナリ。果シテ然ラバ漸ク三年ニ一度ノ行幸啓ハ疎遠ニ過ギサセラル、次第ナラズヤ。是レ他ナシ、或ハ其ノ然ル所以ノモノアルベシ。今皇族ノ家ニ行幸啓アルヤ、其儀ノ壯嚴ナルヲ始メトシ、御陪食ノ盛ナル、餘興ノ美ナル、自カラ其費用ノ巨額ニシテ僅ニ皇族ノ御賄料定額中ノ能ク支辨スベキ所ナランヤ。是レヲ以テ自カラ行幸啓ノ度ヲ減ジ、御親密上自カラ疎遠ニ渡ラセラル、モノニシテ、實ニ已ムヲ得ザルモノアルナリ。而シテ 陛下ト其ノ招待主タル皇族トノ間ニ如何ナル御親密アリシヤト云フニ、却テ事繁ナルガ爲ニ充分ナル御親密ハ盡シ玉フコト能ハザルガ如シ。果シテ此ノ如クナルモ、御親密上ハ可ナリトスルカ。決シテ然ラザルナリ。然ラバ今ヨリ斷然其慣習ヲ改メテ、總テ事簡易ニシテ御親密ヲ盡シ玉フヲ以テ主トナシ、即チ供奉ヲ減ジ、諸皇

族、大臣等ノ御陪食ヲ廢シ、餘興等ノ冗費ヲ省キテ、皇族ハ常ニ 兩陛下ヲ御招待スルコトヲ得 陛下ハ輕易ニ其ノ家ニ行幸啓セラル、ノ極ク輕便ナル方法ヲ行フテ、其時御陪食ヲ仰付ケラル、ハ其皇族御夫婦ノ外ニ他ヲ加ヘザルコトトシ、萬已ムヲ得ズンバ二三ノ皇族及ビ一二ノ人ヲ召スニ止マルコトトセバ、事簡ニシテ行ハレ易ク、其ノ御親密上モ一層ノ事ナルベシ。斯ノ如ク適切ナル御親密アリテコソ 陛下ハ其ノ御血統タル皇族トノ間ニ行ハル、眞ノ御交際トモ申スベク、又一方ヨリ言ハ、御費用ヲ節約スルノ益モ少ナカラザルベシ。是レ獨リ皇族ノ上ニ止マラズシテ、諸大臣及ビ華族等ノ御招待ヲ爲ス時モ亦此ノ如クニシテ 陛下ノ其人ニ對セラル御交際モ充分ナル御親密ヲ盡スニ至リ、大臣等ト彼我隔テナク大政上ノ事モ御懇話アルニ至テ、凡ソ百般ノ上ニ蒙ムルノ益モ亦少ナカラザルベシ。是レ 兩陛下御招待ノ事ハ宜シク從來ノ如ク煩雜ニシテ冗費ヲ要スルガ如キヲ止メテ、更ニ簡易輕便ニ行ハレ易キ方法ヲ採ラレン事ヲ希望スルナリ。又恐レナガラ 陛下ニ於カセラレテハ御親友ト稱スベキ人ナキヲ以テ、常ニ親シク世間ノ風俗事情等ノ御話ヲ申上グベキ人ナシ。故ニ今ヨリ舊來ノ風習ヲ洗除シテ一層御交誼ヲ厚クセラレ、皇族タル者ニ對スベキ眞ノ御交際ヲ遊バサルベシ。竊ニ伺ヒ奉ツルニ、御内儀ニ於テ皇族ト御會食遊バサレタルコトナシト、是レ世間ニテハ御親密ナルガ如ク見ユルモ、其實ナシト謂フベシ。既ニ我が皇族ハ外國皇帝ニ對シテ我が 陛下ハ余ノ兄弟ナリトカ、

又余ハ陛下ノ叔父ナリ等述ベサセラレザルモノアリ。是レ其ノ順統ハ斯ノ如ク定メラレタルニモセヨ、其實ニ至ツテハ之ニ反シ、決シテ外國人等ノ思惟セルガ如ク陛下ノ御家族タルガ如キ御親密アルコトナキニ似タリ。而シテ皇族方ニ於テモ後來大ニ意ヲ用キサセラレテ、益々御交際ノ御親密アラセラレンコトヲ希望ノ至リニ堪ヘズ。又互ニ御懇話中ニハ益ヲ得ルモノナレバ、皇族ニ限ラズ爾後ハ御内廷ニ於テタリトモ華族或ハ大臣等ヲ召サセラレテ御交誼ノ親密ヲ賜ハラントヲ仰ギ願フ所ナリ。

御旅行及ビ離宮ノ件

陛下ノ御健康上ニ關スルコトハ最モ注意セザルベカラズ。苟クモ近侍スル者ハ、主トシテ既往ニ、將來ニ、相對照シテ能ク沈思熟考セズンバ有ルベカラザルナリ。謹デ案ズルニ今上陛下ノ皇子、皇女ノ御降誕ハ是レ迄多クハ一タビ御旅行アリテ還宮アルノ後ニ於テ必ラズ之レアルガ如シ。是レ御旅行ハ大ニ御健康上ニ關係アル所以ニシテ、即チ御巡歷中御見聞ニ觸レ玉フコト種々様々ニシテ、自カラ聖心ノ快樂ヲ覺エサセ玉フコト多キガ故ニ、御氣分モ自カラ活潑ニシテ、從テ玉體モ亦御健康ニ渡ラセラル、コトハ嘗テ伺ヒ奉リシ所ナリ。依テ御旅行ハ

御健康ヲ保チ玉フニ有益ニシテ、將來最モ無カルベカラザル事ナリ。而シテ其ノ鹵簿等費用ニ關スルモノハ成ルベク節省シテ簡易ヲ旨トシ、以テ御旅行ノ度數ノ多カランコトヲ祈望スルナリ。元來御旅行ノ事タル、文武行政ノ治轍ヲ御巡覽アラセラル、ヲ以テ要點トスト雖モ、又御健康上ニモ甚ダ其ノ關係深キヲ知ルナリ。凡ソ一國ノ帝王タル者ノ一身ハ、其ノ國全體ノ上ニ關係スルコト甚ダ深ク、其狀ヲ譬ヘテ言ハバ恰モ人ノ精神ナル所ノ意思ガ身體ニ於ケルガ如キ關係アリ。即チ帝王ハ其國ノ精神、即チ意思ニシテ、國ハ其ノ身體ナリ。今一國ノ精神タル帝王ノ御身ニシテ、勞疲セラレ虛弱ナルトキハ、其ノ身體タル國ヲ使役スルニ不都合ナルベシ。是レヲ以テ我が陛下ハ國家ニ對シテ御健康上ニ深ク御注意ナクンバアルベカラズ。是レ帝王タル者ハ其身ヲ重ンゼザルベカラザル所以ニシテ、既ニ歐洲諸國ノ皇帝ハ處々ニ離宮ヲ設ケラレ、夏ハ納涼ニ適スル離宮アリ、冬ハ避寒ニ適スル離宮等アリテ、時々ニ其ノ季候ヲ避クルモノハ奢侈遊樂ニ耽ケルニ非ラズシテ、帝王ハ國家ニ對シテ其身體ヲ重ンゼラル、ニ出デタルガ如シ。依テ之ヲ案ズルニ、東京ニ在ル離宮、即チ濱離宮、又芝離宮ノ如キハ、今ハ單ニ御遊場ト成リ居レドモ、同宮ナドニハ時トシテ御滞在アリテモ差支ナキ様ニ爲シ置キ、又地方ニ在リテハ日光山中ニ避暑宮ヲ設ケ、宮城縣松島ノ勝地ニ、又熱海ニ、神戸ニ、或ハ安藝ノ嚴島ニ、又ハ北海道ノ勝地ニ、夫々離宮ヲ設ケ、且ツ二條、名古屋、熊本、廣島、仙臺等ノ諸城ニモ離

宮ヲ設ケテ、演習天覽ノ節ニハ之ヲ以テ行在所ト爲シ、或ハ御旅行ノ途次離宮ニ成ラセラレ、或ハ離宮ニ成ラセラルルノ途次御旅行ナサセラレ、或ハ寒暑適應ノ離宮ニ御健康ヲ養ヒ玉フコトトセバ、常ニ玉體ノ御爲メ宜シキコト實ニ尠少ナラザルベシ。依テ毎年少ナクモ二回ハ好時節ヲ撰ンデ必ラズ御旅行アラセラル、ニ至ラバ、玉體益々御健全トナルノミナラズ、竊ニ祈望シ奉ル所ノ皇子、皇女モ益々御繁榮遊バサルベキナリ。是レ御旅行ヲ希望シ且ツ離宮ノ設置アラシコトヲ望ミ奉ル所以ナリ。

女官ヲ皇后宮職ニ屬スルノ件

從來御内儀ニ於テハ 陛下左右ノ御常用ハ女官ノ職トシテ奉仕スル處ナリト雖モ、元來女官ハ皇后宮ニ奉仕スルモノトスルコト正當ナルベシ。然ラバ女官ハ専ラ皇后宮ノ左右ニ奉仕スルコトトシ、從來女官ノ奉仕シタル 陛下左右ノ御常用ハ帝僕之ニ代リテ専ラ奉仕スルコトトナラバ、此ヨリ御内儀ノ風ヲモ改良スルノ端緒ヲ開クコトヲ得ベシ。最モ時宜ニ由リテハ尙ホ女官ヲ御使役アラセラル、コト有ルベシト雖モ、凡ソ帝僕ハ 陛下ノ御用ニ使役セラレ、女官ハ皇后宮ノ御用ニ使役セラルベキコトヲ分明ニ定メ置カレンコトヲ希望スルナリ。

御運動場ノ件

凡ソ衛生上ニ於テ身體ヲ運動スルヲ以テ健康ヲ計ルノ最タルモノトス。故ニ歐洲各國ノ帝王ハ常ニ市街又ハ野外ニ運動シテ健康ヲ計ラザルハナシ。其遊行セラル、ヤ、車馬ニ乗ジ馭者ノ外ニ諸用ヲ辨ズル者唯ダ一人隨行セシムルガ如キ極メテ輕便ニシテ行ハレ易キヲ旨トスルガ如シ。茲ニ我が 陛下御衛生ノ上ヲ思フニ、御運動ハ實ニ缺クベカラザル所ナリ。然ルニ我が公園地ハ各々狹隘ニシテ且ツ車道充分ナラザルガ故ニ 陛下ノ御運動場トスルニ足ラズ。依ツテ行々ハ完全ナル公園等ノ出來ルニモセヨ、假リニ澁谷、代々木、新宿等ノ御料地ヲ以テ其場所ト定メ、常ニ此等ノ處ニ御運動アラセラル、ニ至ラバ、一ハ新鮮ノ空氣ヲ呼吸シ玉フテ 玉體ノ健康ヲ増サセラレ、一ハ田舎快濶ノ風光ヲ御覽アラセラレテ 御精神ヲ養ヒ玉ハバ、實ニ衛生上ノ御幸福多々ナルベシ。依テ右三所ヲ御運動場ト定メラレンコトヲ望ムト共ニ 陛下ノ車馬ヲ行カシムベキ車道ヲ築設アラシコトヲ希望スルナリ。是レ深ク 陛下ノ御衛生ヲ思フヨリ上陳スルモノニシテ、主務者ニ於テモ亦深ク茲ニ注意セラレンコトヲ欲スル所以ナリ。

御獵場ノ件

近來數縣下ニ於テ御獵場ト稱スルモノヲ定メラレタリ。其ノ地タルヤ全ク人民ノ所有地ニシテ、其ノ御獵場タルニ適スルヲ以テ、地方官ニ照議シテ之ヲ定メラレタルモノナリ。而シテ一度御獵場ト定マリタル上ハ、他人ハ勿論假令其ノ所有主タル本人ト雖モ、決シテ其場ニ於テ獵スルコト能ハザルノ制ナルニモ關セズ、其ノ本人ニ於テハ此命ヲ受ケテ敢テ不滿ナキノミナラズ、却テ陛下ノ御獵場トナルヲ悦ブノ狀アルガ如シ。是レ忠愛ノ情ヨリ此ノ如クナルベシト雖モ、將來耕作ノ障害及ビ其ノ不便ヲ感ズルガ如キコトアリテ、或ハ不滿ヲ來タスコトナシトモ言フベカラズ。果シテ然ラバ早晚御獵場ノ人民ニハ相當ノ御手當ナカラザルベカラズ。既ニ其ノ御手當ヲ給スルヲ以テ當然トセバ、宜シク今日ヨリ之ヲ下賜シテ後日ノ不滿ヲ起サマラシムベキナリ。然ラズシテ永ク之ヲ拋棄シテ顧ミザルニ至ツテハ、將來皇室ノ尊信上ニ對シテ影響ヲ來タスマ知ルベカラズ。蓋シ古來ヨリ帝王タル者ハ人民ニ對シテ恭敬ノ心ヲ生ゼシメンコトヲ主トシ、人民モ亦皇室ニ對シテ恭敬ノ心ヲ抱ケリ。今日ノ如キ世トナリテハ人民ノ胸中ニ恭敬ヨリモ寧ロ愛慕ノ念ヲ皇室ニ對シテ抱カシムルヲ以テ可トスルガ如シ。以上述べタルガ

如クナレバ、御獵場ノ人民ニハ今日ヨリ相當ノ御手當ヲ給セラレンコトヲ希望スル所以ナリ。又實際國ノ貴賓來朝アルニ當リ、或ハ之ヲ御獵場ニ誘引セシムルコトアリテ、御獵場係長、或ハ大臣ノ内之レガ案内ヲ爲ス等ノ事アル時、其他思召ヲ以テ遣ハサル、ガ如キ時等ニ於テハ、其ノ休憩ニ供スル場所ハ僅ニ茅屋ノ民家ヲ以テ之ニ充ツルノ有様ニシテ、其ノ不便言フベカラズ。殊ニ外客ニ對シ折角遊獵ノ待遇ヲモ爲シ、又我が顯官ノ之レガ案内ヲモ爲スニ、其ノ接待所ノ設ナキハ、一ハ皇室ノ體面ニ關シ、一ハ接待上ニ缺點ナシト謂フベカラズ。又今後トテモ貴賓ヲ御獵場ニ導キ、顯官等ヲ差遣ハサル、コトモ多カルベキヲ以テ、先ヅ下總ノ習志野原ニハ木製ノ洋館ヲ建設シテ、相當ノ接待所ト爲サンコトヲ希望スルナリ。

明治廿一年四月六日

皇室御基礎ノ義上疏

皇室ノ御基礎ハ今日御堅固ニ被爲在候事磐石ノ如ク、恐レ乍ラ一モ御案ジ申上グ可キ儀ハ無之様ニ相見エ申候。去リ乍ラ深ク悠久ノ御前途ヲ慮リ候トキハ、世論モ時ニ移リ、人心モ勢ニ從テ變ズルノ例ヘハ往々諸國ニ乏シカラザル儀ニ有之候。然レバ御安全ナルガ上ニモ御安全ノ道ヲ積ミ重ネ、將來永遠ニ皇室ノ御基礎ヲ一層御鞏固ニ遊バサルベキ御時機ハ方ニ今日ニ在リト奉存候。凡ソ十年十五年ハ一個人ニ取リテハ長キモ皇室ニ取リテハ短キ御歲月ニ可有之候。將來十年十五年ノ事ハ之ヲ今日ヨリ慮ルモ尙ホ緩ニシテ、機ニ及ビ難キヲ憂ヘ候。況ンヤ將來ノ御利害ハ早ク既ニ今日ニ隱伏シテ居ルモノ多ク可有之候オヤ。試ニ他ノ事物ニ就テ之ヲ例シ候ニ、今日不十分ノ憾ミアルモノモ、若シ十年十五年ノ既往ニ注意セシナラバ、大抵ハ皆之ヲ豫防シ得可カリシナラント存候モノノミニ御座候。然レバ皇室ノ御基礎モ將來ニ一層ノ御堅固ヲ増サセラル可キヤ否ヤハ實ニ懸ツテ今日ニ可有之奉存候。左ニ申上候條々ハ孰レモ今

日目前ノ御急務トハ申シ難ク相見エ候得共、之ヲ御施設被遊候ト否ヤトハ、十年十五年ヲ出デズシテ將來ニ必ラズ大ナル御得失ノ影響ヲ生ジ候モノニ可有之歟ト奉存候。

凡ソ立憲政體ハ百事ノ權限ヲ明カニスルノ傾キアルモノニ候故、專制政體ノ如ク政府ニ變通活動ノ便ヲ缺キ申候。是ヲ以テ西洋立憲國ノ君主ハ帝室ノ働キヲ以テ此ノ缺所ヲ補ヒ、公然ノ政務トシテ行ヒ難キ事ハ、帝室ノ力ヲ以テ之ヲ爲シ、國人ノ親愛ヲ得ント勉ムルノ極ハ、所謂身ヲ輕ンジテ以テ匹夫ニ先キダツト申ス程ノ場合迄ニモ踏込ミ申候。之ヲ概言仕候得バ、立憲政體ノ爲メ一方ニ於テ政務ノ働キニ隨意活動ヲ減ジ候ホド、一方ニ於テ帝室ノ働キニ機敏ノ活動ヲ増シ、之ヲ補ハザルモノハ無之候。我國ニテモ立憲政體御確立ニ相成リ候上ハ、一方ニ於テ皇室ノ御働キモ自ラ前日ト御變リ可被遊ハ當然ノ御儀ト奉存候。立憲政治ノ今日ニ於テ恩威ノ二字ヨリ申サバ、御政務ハ威ナリ、皇室ノ御働キハ恩ナリ。正奇ノ二字ヨリ申サバ、一方ハ正ナリ、一方ハ奇ナリ。又四時ノ功ヨリ申候トキハ、一方ハ秋冬肅々ノ氣ニシテ、一方ハ春夏ノ愛々ノ氣ナリ。彼ニ缺ク所ハ此ニ補フノ道無カル可ラズ、故ニ立憲政治ノ發達ト與ニ皇室ノ御働キハ次第ニ御敏活ニ可被爲趣事御大切ノ御儀ト奉存候。

然レドモ國ハ其風ヲ異ニシ、人ハ其俗ヲ同ジクセズ。邦柄ニ寄ツテ各々其ノ事宜アルモノト奉存候。故ニ我が皇室ノ御尊嚴ヲ以テ、今日遽ニ西洋帝王杯ノ如キ輕々シキ御振舞ハ勿體ナ

キ御儀ニ有之候。且ツ餘リニ御輕々シケレバ却テ臣民仰望ノ心ニ背カセラレ候御場合モ可被爲在候。故ニ決シテ西洋君主杯ノ形ヲ其儘ニ御採用難被遊ハ勿論ノ御儀ト奉存候。然ルニ上ハ我國ハ我國相應、今日ハ今日ノ時勢相應ナル御手段ヲ以テ臣民ヲ 帝室ニ御引着ケ被遊候道ヲ御施設相成リ度キ儀ト存候。

皇室ガ一國統治ノ大權ト御始終可被遊儀ハ今更ラ申上候迄モ無之候得共、此ノ大權アルガ故ニ御安全ナリト申ス様ニテハ恐レ乍ラ未ダ眞ニ磐石ノ如キ御安全ノ有様トハ申上兼候歟ト奉存候。假ニ政權ヲ御特ミ遊バサレザルト致候テモ、尙ホ且ツ國民愛戴ノ念深クシテ如何ニスルモ皇室ノ御事ハ忘レ奉リ難ク、離レ奉リ難キ有様アルコソ眞ニ御基礎御堅固ト可奉申儀ト奉存候。今御政務、御政權以外ニ於テ右ノ御有様ヲ増ス可キノ道ハ蓋シ 帝室ヲ社會百事ノ中心ト被爲遊、社會ノ事物ヲシテ之ヲ圍繞擁護セシムルノ外無之ト奉存候。社會凡百ノ事物ガ 皇室ヲ圍繞スルコト、恰モ大小無數ノ磊塊タル土石ガ相集ツテ一幹ノ巨柱ヲ中央ニ擁護スルガ如ク、社會ノ百事百物其ノ中心ヲ求ムルハ、皆暗ニ 皇室ニ相ヒ關連セザルモノハ一モ無之程ニ至ラシメ候トキハ、御政權以外ニ於テモ人民ハ單ニ 帝室ヲ有リ難ク思フノ念ト敬愛ノ情トヨリ相率ヒテ 皇室ノ擁護者ヲ以テ自ラ任ズルニ至リ候ハ必然ノ勢ニ御座候。

去リ乍ラ宏大ナル 皇室ノ御力ニモ限リアルコトニ候得バ、如何ニ良好ノ御手段ト雖モ、之ヲ施シ之ヲ行ハセ玉フコト濫ニシテ節ナケレバ、功費相ヒ當ラズ、又際限モナク何事ヲモ遊バサルベキ筈ノモノニハ無之候。唯ダ之ヲ行ハセラル、ニ其道ヲ以テスレバ、費少クシテ功ヲ收ムルコト却ツテ多カルベク奉存候。且ツ何事モ一時ニ御施行ハ相成リ難キ事ニ有之候得ドモ、左ニ申上候條々ハ孰レモ今日ノ御力ヲ以テ容易ク御施行被爲在得ベシト存候モノノミヲ撰ミ候心得ニ御座候。尤モ今日トテモ 皇室ヲ社會ノ中心ト被遊候御思召ニテ、大體ノ御方針ハ百事御施行相成居リ候様ニ奉存候得ドモ、左ニ申上候條々ハ尙ホ一層細密ニ此方針ヲ行届カシムルモノト申シテモ可然歟ト奉存候。

第一 孝子節婦義僕其他奇特者ノ取扱ヲ内務省ヨリ
皇室ニ移ス事

右奇特者ノ取扱ハ今日迄内務省ノ所轄ト相成居候得ドモ、右ハ今後 皇室ニ御移シ相成候方可然哉ニ奉存候、内務ト申シ、宮内省ト申スモ、其源ハ均シク 皇室ニ出候譯ナガラ、是等ノ旌表ガ内務省ノ手ヲ經ルハ何トヤラ人民ヲシテ一皮膜ヲ隔テ 皇室ヲ仰ガシムルノ憾ミナキニ候ハズ、若シ本人等ニ向テ 皇室直接ノ御旌表ヲ蒙ムルト、政府内務省ノ手ヲ經ルト孰レガ難

有ク感ズベキヤト問ハ、寧ロ直接ノ御取扱ヲ冀フ者コソ多ク可有之候。又本人等ハ双方ノ間ニ輕重ヲ插マズト致候モ、皇室ニ對スル人民敬愛ノ情ヲ深クスルノ力ハ直接御取扱ノ方ニ大ナルコト疑ヒモナキ儀ト奉存候。然レバ聊カニテモ人民親愛ノ念ヲ皇室ニ深カラシムル方ニ御改メ被遊候事勿論ノ御儀ト奉存候。

又政教兩者ヲ混同セシ往代ハ兎モ角モ、道德一向ノ事ハ漸々ト政務ノ圍範ヨリ分離スルノ傾キアル今世ニ於テ、内務省ガ明治初年ノ如ク道德者旌表ノ事ヲモ永ク掌ルベキ筈ノモノニ可有之ヤ否ヤハ是レ亦疑フベキ所ニ御座候。西洋諸國政法ノ沿革ヨリ申候トキハ、政務ノ領分ハ次第々々ニ制法ニ屬スルモノニ限ラレ、道德一向ノ事柄ハ、帝室又ハ宗教家ノ手ニ移リ行クコト爭フベカラザル實迹ノ如ク相見エ申候。

奇特者ノ旌表ハ地方官ノ具申ニ依リ、又ハ地方官ニ御下問アリテ之ヲ御施行相成ルベキモノユエ、其ノ手續ハ内務ニセヨ、皇室ニセヨ、御同様ノ事ニ候得共、皇室直接ノ御支配トナレバ被褒賞者ノ目ニ褒賞モ活キテ見エ可申、内務省トナレバ規則ヅクメノ役所ユエ、褒賞モ死シテ見エ候姿アルヲ免レズ。然レバ獎勵上ノ科目ニ於ケル兩者ノ優劣モ亦タ同ジカラザル儀ト奉存候。

又政務公然ノ取扱トナレバ、奇特者ノ中ニ於テ其行狀ノ殊ニ著明ナルモノノミニ限ルノ傾キトナリ、從テ旌表ノ働キヲモ減ジ、又奇特者ノ種類ヲモ減ズルニ至ルハ勢ノ免レ難キ所ニ御座候。之ニ反シテ直接ノ御取扱ト爲レバ、公然ノ御政務ト違ヒ御働キニ餘地アルガ故ニ、褒賞旌表ノ區域ヲモ御擴メ相成リ、又被褒者ノ種類ヲモ御増シ相成ルノ便アル可ク候。例セバ公然タル政務トシテ内務省之ヲ取扱フ上ハ、孝子、節婦ノ外ナル慈善家若クハ發明家其他ノ篤志者等ニ就テハ自然ト褒賞旌表ヲ差控ユルノ傾キト爲ラザルヲ得ザレバナリ。然ランニハ現在ノ處ニテハ褒賞旌表ノ働キヲモ幾分カ減ジ居ル譯ニ可有之乎ト奉存候。

之ヲ要スルニ公然ノ政務トスレバ其働キ活潑ナラズ、皇室ニ移ストキハ其働キニ活動ノ餘地多シ。又被褒者ニ於テモ直接ノ御取扱ヲ難有ク感ジテ、其ノ利目ニ相違アルベク、又政治論ヨリスルモ爲政ノ圍範内ニ屬スベキヤ否ヤノ疑ヒアルモノトスレバ、寧ロ之ヲ、皇室ニ移スノ優レルニ如カズ。況ンヤ之ヲ、皇室ニ移ストキハ、人民敬愛ノ情ヲ深カラシメ、皇室ノ御安全ヲ増スベキ方便ノ一ト相成リ可申キヲヤ。然レバ右ノ御取扱ハ今後内務ヨリ御引分ケ被遊候事御至當ト奉存候。

第二 華族ヲシテ帝室ニ密邇セシムルノ途ヲ設クル事

華族ガ社會ニ尊敬セラレルノ地位ハ、皇室ノ賜フ所ニシテ、皇室愈々尊ケレバ己等モ從テ尊ク、國人中ニ於テ華族ノ如ク、皇室ト盛衰消長ヲ與ニスルモノハ他ニ無之候哉。故ニ苟クモ皇室ニ御不利ト相成ルベキ世論ハ必ラズ先ヅ華族ニ不利ヲ與フルモノニ御座候（例セバ社會論、共和論ノ如ク害ヲ、皇室ニ及ボスノ恐レアルモノハ、必ラズ先ヅ攻撃ヲ華族ニ始ム）斯ク華族タルモノハ、皇室ト其ノ利害ヲ同ジクスルノミナラズ、皇室ヲ擁護シ奉ルベキ至大ノ義務アルコト今更ラ申迄モ無御座候。然ルニ今日華族ガ、皇室ニ對シ奉ルノ有様ハ如何ヤト奉存候。今日コソ未ダ左程ニモ相見ユ不申候得ドモ、若シ此儘ニ五年十年御打棄被遊候ハ、或ハ皇室ト華族ノ縁ハ年々次第ニ遠ザカリ行ク如キ傾キハ無之候哉。自己一家ノ衣食住サヘ不自由ナク立行カル、以上ハ、皇室ノ御事ナドハ毫モ念頭ニ挿マザル如キ不心得ノ華族ヲ相増シ候恐レハ無之候哉。人民中ニテ特ニ、皇室ト其利害ヲ同ジクシ且ツ其ノ藩屏タルベキ義務アル華族ニシテ、若シ萬一右様ノ有様ニ立チ至リ候トキハ恐レ乍ラ、皇室ハ自然孤立ノ御姿ト御成リ可被遊哉ニ奉存候。

今日既ニ華族ノ方向ハ一定セズ抔ト申ス世評スラ往々有之哉ニ承リ及ビ候。畢竟右様ノ世評アルハ既往十年二十年間ニ醸シ來リシ結果ノ漸ク今日ニ現ハレタルモノニ可有之哉。遠ク其源ヲ既往ニ醸シタル弊ハ急ニ之ヲ救ヒ難キハ當然ノ事ニ候故、既往ノ事ハ之ヲ措キ、切メテハ將來十年二十年ノ御爲筋ヲ今日ヨリ早ク御經營被遊候ヨリ外ハ之レナキ義ト奉存候。依テハ現在成立シテ働キテ世上ニ始メタル華族ニ對スル御仕向ケ方ハ先ヅ別事ト被遊、專ラ將來ニ望アル有爲ノ青年華族ヲ、皇室ニ御引付ケ相成リ、其ノ結果ヲ彼等成立ノ日ニ御期シ被遊候事、今日ノ御急務ニ可有之奉存候。

今日既ニ世上ニ働キ居リ候人々等ハ、最早ヤ銘々種々ノ行懸リモアルベキ儀ナレドモ、將來ニ成立スベキ有爲ノ青年者ハ、其ノ御仕向方次第ニテハ如何様ニモ可相成候。其方法ハ種々可有之候ヘドモ、差向キ左ノ條々モ亦其ノ重モナルモノト奉存候。

青年有望ノ者ヲ二三十名ヨリ六七十名迄御選抜アリテ、准侍從トモ稱スベキ地位ヲ授ケラレ、毎日交番ニテ若干名ヅツ宮中ニ出勤仰付ラル、事、右ノ人々ヲ侍從同様ニ御召使ヒ被遊候ハ御不都合モアラセラルベキニ付キ、夫レ程ニハ及ビ申間敷ク、外様向キノ勤務ト定メサセラレ、公宴ノ陪侍、御遊覽ノ御供、其他正式行幸ノ供奉、公會及ビ御内宴ノ陪侍等ヲ仰付ケラル、事、又更番勤務ノ節ハ一寸ニテモ可成ク謁見仰付ケラレ、或ハ、玉音ヲモ賜リ候事、又一年春秋兩度若クハ四季ニ是等ノ人々ヲ主トシ、他ノ華族ヲモ打雜ヘ諸藝術ノ、天覽被仰出候テ、優等ノ者ニハ、玉音ヲ賜ハリ或ハ褒賞ヲ賜ハル事、斯ノ如ク射的、馬術、擊劍、柔術ヨリ詩歌若クハ和漢ノ史論策題等ヲ以テ御獎勵被遊候ハ、甲藝ニ劣ル者ハ乙藝ニテ勝ヲ取ラント相ヒ勵ミ可申

候。總體ニ華族ノ氣ガ引立たズ候テハ何ノ御役ニモ相立チ申間敷候。是等ノ諸藝 天覽ハ則チ青年華族ノ氣力ヲ引立テ候御方便ノ一ニ可有之、加フルニ准侍從トモ稱スベキ榮譽ノ集體中ニ在ル者ガ、其ノ藝術、尋常華族ニ劣リ候テハ申譯ナシト心掛ケ一層萬事ヲ相勵ミ可申歟。

又忠實ニシテ重望アル人物兩三名ヲ選ビ、右ノ寮局ノ長トシテ青年華族等ノ監督ヲ御委任被遊、彼等ヲシテ意外ナル方針ニ赴カシメザル様防微ノ御注意被爲有候事最モ必要ニ可有之候。若シ彼等ヲ集メ榮譽ヲ與ヘラレ候上ニテ、心得違ヒノ者ナド相生シ候テハ以テノ外ニ付キ、其指導監督大切ノ儀ニ御座候。去リ乍ラ未ダ何ノ行キ懸リモナキ青年ノ人々ニ候得バ、其ノ御仕向方ハ左程ト六ヶ敷キ事ニモ無之哉ト奉存候。

日常附近密邇スル事物ニ對シテハ親愛離レ難キ念ヲ生ズルコト人情ノ常ニ有之候。然レバ前記スルホドノ御待遇ノ道ヲ御設ケ相成候ダケニテモ青年華族ヲシテ其ノ心常ニ 帝室ニ在ラシメ、如何ニシテモ 帝室トハ相ヒ離レ難シトノ感ヲ懷カシムルノ功能ハ明カニ可有之奉存候。右ノ御待遇ヲ被リ候ヘバ華族中ニテ大ナル榮譽タラシメ、之ニ漏ル、ハ非常ニ不面目ナルガ如ク御仕向ケナサレ候ハ、相ヒ競フ此ノ集體ニ加ランコトヲ望マザル者ナキ様相成リ可申候。然ルトキハ左迄ノ御手當ヲ人毎ニ賜ハリ候ニモ及ブ間敷ク、唯ダ其ノ家ノ貧富ニ依リ時々ノ恩賜ナド有之候位ニテ宜敷カルベク奉存候。

此ノ方法ノ如キハ目前直ニ御利害ハ相見え不申候ヘドモ、十年内外ヲ出デズシテ必ラズ至大ナル影響ヲ相生ジ可申候。若シ今日ノ儘ニ御打置キ被遊候ハ、十年以後ノ華族ハ今日ヨリモ一層著シク 帝室ニ遠ザカル有様ニ陥リハ不申ル哉ト憂慮仕候。

又類似ノ事柄ユエ此處ニ申上置度キ一事ハ、一般華族ノ家族共御待遇ノ儀ニ有之候。今日ニテハ觀櫻、觀菊ノ類僅カ一年ニ兩度ノミ華族ノ家族ヲ御待遇被爲在候ニ過ギザル様ニ奉存候。右ハ今少シク何かニ付ケ御待遇ノ度數ヲ御増シ被遊度奉存候。例セバ 皇太后宮 皇后宮兩陛下ノ能樂御催シ、又ハ何方ヘカ御遊覽等ノ節ハ幾分ツツカ順番ヲ以テ華族ノ家族ニ御供若クハ御陪覽ヲ可成屢々仰付ラレ候事ト相成リ候ハ、彼等ノ家族共迄モ 帝室ニ附近スルノ感ヲ強カラシメ可申哉ニ奉存候。

第三 藝能技術ノ士ヲ 帝室ニ御引付ケ相成ル 途ヲ設ル事

一國ノ藝能技術ヲ獎勵シ、其レヲシテ發達セシムルハ 帝室御職分ノ一ニ被爲在候ノミナラズ、是等藝能ノ士ヲ成ルベク 帝室ニ御引付ケ被遊候ハ、則チ 帝室ノ御鞏固ヲ助クベキ一ノ

大ナル御手段ト奉存候。凡ソ藝能ノ士ハ必ラズ幾多ノ門下生ヲ有シ居ルモノニ有之、且ツ社會ノ末々ニ至ル迄モ多少一藝一能ト縁ナキ者ハ無之程ノ事ニ御座候、故ニ一藝一術ニ首長タル人物ヲ御優待被爲在候テ、彼等ノ胸中ニ 帝室ヲ難有ク思フノ念ヲ生ゼシムレバ、彼等ハ其ノ身又ハ門下生ノ手ヲ經テ 帝室ノ御恩徳ヲ社會一般ニ吹聴シ、從テ一般人民ニマデモ 帝室ヲ敬愛スルノ情ヲ増サシメ可申、其ノ利目ハ或ハ意外ニ廣大ナルモノニ可有之奉存候。今日ト雖モ彼等ノ一部分ヲバ御優待有之候得ドモ、其ノ區域狹クシテ未ダ十分ニ御行届被爲在候程ニハ無之歟ト奉存候。

技術藝能ノ士ヲ御引付ケ相成ルノ方法ハ種々有之候得ドモ、先ヅ其ノ普通ナル者ハ彼等ニ宮内省御用掛ノ名稱ヲ賜ハリ、一個年三百圓内外ノ恩賜金ヲ被ト、又四季折々ニ宮中ニ召サレテ諸藝ヲ御試ミ被遊候事ニ可有之候。

藝能技術ノ種類中ニテ國家ニ直接有益ノ藝ヲ修ムル者ハ現今多クハ既ニ政府部内ニ勤務致居リ候（例セバ工藝家、農藝家ノ農商務其他諸官衙ニ於ケルノ類ナリ）是等ノ技藝家ニハ別段恩賜金等ニモ及ビ申間敷ク候得ドモ、尙ホ行ク々々ハ 帝室御用掛ノ名稱ヲ賜ハリ、御優待被遊度キ儀ト奉存候。又右ノ類ハ既ニ政府部内ニ在ルコトナレバ、左迄ニ御取扱ヲ急ガセラレ候程ノ事モ無之候ヘドモ、政府ニモ勤務セズ又ハ政府ヨリ極メテ薄給ヲ受ケ居リ候藝術家ニ對セラ

レテハ、先ヅ是ノ輩ヨリ御始メ被爲在度ク奉存候。

又國家ニ直接ノ要用ナキガ如ク見ユル藝能モ、歳久シク我國ニ發達シテ已ニ我國特有ノ技術ト相成リ居ルモノニ對シテハ、其發達ヲ御進メ可被遊ハ勿論ノ御儀ト奉存候。例セバ詩人、歌人、擊劍、柔術、槍術、馬術、弓術、書家等ノ類ニ有之、右ハ社會ニ多少有用トシテ孰レモ御獎勵部類中ニ御加ヘ可相成モノト奉存候。但シ彼等ガ有益ノ度ニ從テ御待遇ニ厚護ノ差ハ有之候テ可然存候。

又右ノ外社會ニ弄バレ居リ候遊藝ノ類有之候。右等モ矢張り御用掛被仰付候方一ノ御方便ト奉存候。例セバ能樂、碁將碁、茶道、插花、其他淫靡ナラザル音樂等ハ此ノ部類中ニ包括致度奉存候。

遊藝ト雖モ既ニ年所ヲ經テ世ニ弄バレ古式アル程ノモノハ矢張り其國ノ一技術ト申シテ可ナル儀ニ候得バ、寧ロ之ヲ發達セシムルトモ衰微ハ致サセ度クナキ儀ト存ジ申候。且ツ是等ノ遊藝ハ孰レモ廣ク社會ニ行渡リ居リ候テ、何人モ彼ノ藝ナラザレバ此ノ藝ニ樂ムト申ス様ノ有様ニ候。然レバ其ノ技藝ノ首長タル者 帝室ヲ難有ク思ヒ居ルノ念深ケレバ、社會ノ隅々迄ニモ 帝室ノ恩徳ヲ常ニ吹聴シ 帝室ノ御利害ハ恰モ己等ノ利害ナル如ク相考ヘ可申候。故ニ遊藝ナレバトテ決シテ御打棄置キ被遊候ハ不可然哉ニ奉存候。又右等ノ遊藝モ四季折々内廷ニ於テ

天覽ノ榮ナド賜ハリ候ハ、別シテ彼等ハ感激可仕候。

一個人ノ身ニ取テモ一方ニ勤勞アレバ一方ニ遊樂アリ、一國社會モ亦之レト同様ニテ、表面ニ勤勞ノ世界アレバ裏面ニハ逸豫ノ世界アリ、兩者相待テ此ノ世ハ立チ行居リ候。故ニ 帝室ハ勤勞逸豫ノ兩界ニ御蟠據アラセラレ、社會ノ百藝ヲ漏ラサズ御周圍ニ御引付ケ被遊候テ、社會ノ裏面表面、一藝一術モ暗ニ 帝室ト縁ヲ有セザルモノハナク、苟クモ藝術アル者ハ誰彼ヲ問ハズ 帝室ノ擁護者ヲ以テ自ラ任ゼシムルノ御手段ヲ設ケ置カレ候事決シテ御不用ノ儀ニハ無之ト奉存候。

一方ニハ宮内省御用掛ノ榮稱ヲ受ケ候ノミナラズ、尙ホ一方ニハ若干ノ恩賜金ヲ得テ衣食住ノ配意ヲモ減ジ、益々其ノ志ニ技藝ヲ發達スルコトヲ得バ、藝術ノ士ハ如何計リ 帝室ノ御恩徳ヲ難有ク感ジ可申哉。是等ノ事ハ誠ニ瑣細ノ様ニ候得ドモ、相合シテ 帝室ヲ圍繞スルノ勢カハ或ハ案外ニ強キモノニ可有之ト奉存候。

三ヶ條

右ニ申上候條々モ其大體ハ今日既ニ御施行被爲在居候様ニモ奉存候得ドモ、何分今日ノ御儘ニテハ未ダ十分憾ミナシト申ス御場合ニハ至リ不申哉ト奉存候。今日ノ方針大體ヲ尙ホ精密ニ

御施行遊バサレ、十年十五年ノ將來ヲ大ニ期待被遊候ハ、右申上候條々ハ孰レモ必要缺クベカラザルモノ歟ト奉存候。

前ニモ申上候如ク十年十五年ハ一人ニ取テハ長クモ 帝室ニ取テハ短キ御歲月ニ有之、且ツ將來ノ御利害ハ已ニ今日ニ隱伏致シ居ルベキ恐レアルコトヲ相考ヘ候トキハ、早ク今日ニ於テ御手ノ届カセラレ候限リノ方法ヲ御施設被遊候事御前途ノ爲メ深ク願ハシキ儀ト奉存候。又御費用ノ點ヨリ相考ヘ候モ、右ノ條々ハ恐レ乍ラ御容易ノ儀カト想像仕候。味死謹言

明治廿五年十一月

東宮殿下御教育上ニ付建白書

臣等謹デ按ズルニ、普通ノ教育ニハ尊卑ノ別ナカル可キモ、至尊ノ御教育ニ至テハ決シテ華士族、平民ト同一ナルモノニ非ラズ。而カルニ今

東宮殿下ノ御教育ヲ華士族、平民ヲ教育スル所ノ學習院ニ一任スルコトハ、御教育ノ道ニ於テ未ダ盡サレザル所アルニ似タリ。

殿下是レ迄學習院ニ於テ普通學科ヲ臣民ノ子弟ト共ニ學ビ給フコトノ裨益少ナカラザルハ論ヲ待タズト雖モ、御年稍ヤ長ジ、學級漸ク進ムニ及ンデハ、普通ノ教育ニ加フルニ特殊ノ教育ヲ以テシテ、他日宇内ニ君臨ス可キ御徳性及ビ萬國ト並立ス可キ宏遠ノ御規模ヲ養成シ奉ラザルベカラズ。仄カニ聞ク

殿下本年ヲ以テ初等科ヲ卒ヘ給ヒ、中學科ニ進ミ給フ可キ期ニ際セリト。而シテ學習院ニ於テハ、

殿下ニ對シ奉リ特殊ノ教育アルコトヲ聞カズ、東宮職ハ用度會計ヲ掌ルモノニシテ、御教育ニ關與スルモノニ非ラズ。武官奉侍ノ者アリテ、

殿下ノ御武徳ヲ補翼シ奉ル可キモ、文武兼備ノ御教育ヲ擔任スルモノニ非ラズ。臣等古典ヲ考フルニ、東宮職員令ニ傳一人、掌執道德輔導東宮トアリ、又學士二人、掌執經奉説トアリ、蓋シ我祖宗ノ儲嗣ノ將來ニ軫念シ給ヒ、特殊ノ御教育ヲ施シ給フノ意至ツテ明瞭ナリ。願クハ此意ニ本キ

東宮御學問所ヲ設置セラレ、大傳一員、少傳三員ヲ置キ、皇學ハ勿論、漢洋碩學ノ士及ビ兵學ニ遂キ者ヲ精選シテ東宮學士トシ、共ニ啓沃ノ任ニ膺ラシメ、普通ノ教育ト特殊ノ教育トヲ以テ

殿下ヲ輔導シ奉ラバ、上ハ以テ

宸衷ヲ安ジ奉ル可ク、下ハ以テ萬姓幸福ノ基トナラン。冀クハ閣下臣等ノ愚衷ヲ察シ、速ニ上奏アラシムコトヲ。

明治廿六年七月

從二位 伯爵 壬生 基修

從三位 子爵 黑田 清綱
 從三位 子爵 福羽 美靜
 從三位 細川 潤次郎
 從三位 子爵 河田 景興
 從三位 伊丹 重賢
 從三位 男爵 榊 取素彦
 從三位 男爵 青 山 貞

宮内大臣 子爵 土方 久 元 殿

臣等謹デ按ズルニ、吾ガ國體ノ萬國ニ卓絶スル所以ノモノハ、宇内無比ノ
 皇室アルガ爲メナリ。宇内無比ノ
 皇室アル所以ノモノハ
 天祖ノ此ノ國ヲ肇メ

天孫ヲ降シテ無窮ノ 君主ト定メ給ヘルガ爲メナリ。又海内ノ臣民大小トナク 皇威ヲ仰ギ

皇恩ヲ感ジ、唯ダ命是レ從フモノハ

皇室先ヅ立テ臣民後ニ定マルニ由ルナリ。今之ヲ歴史ニ徴スルニ、歷朝ノ

聖主上

皇祖皇宗ニ奉侍シ、下萬民ヲ撫育スルヲ主トシ給ヒ、百官士民ハ各其職ニ就キ其業ヲ執ルヲ主トス。何トナレバ 天子ハ本ニシテ臣民ハ末ナレバナリ。伏テ惟ミルニ

東宮殿下ノ御學問ハ

皇祖皇宗ノ遺訓及ビ建國ノ本體ヲ明カニシ、 列聖ノ偉業古今ノ盛衰ニ就テ治國平天下ノ要ヲ講ジ、官吏ノ賢否ヲ察シ、臣民ノ艱苦ヲ救ヒ、四海ヲ統御スルノ智德ヲ備ヘ給フヲ以テ第一トス。而シテ旁ヲ海外諸國ノ史乘ヲモ涉獵シ給ヒ、時勢人情ヲ觀察シテ萬機ヲ御親裁アラセ給フベキナリ。然ルニ

東宮殿下曩ニ學習院ノ小學ニ就カセ給フヤ、世論紛然トシテ之ヲ不可トスルモノ多シ。然レドモ既往ノコト今贅言ヲ要セズ、仄カニ聞ク今又同院中學科御就業ノコト既ニ御内定アラセラレント。是ニ至リテ臣等愈々其不可ナルヲ憂ヒ默止スルヲ得ズ、敢テ意見ヲ呈セントス。何ヲ以テ不可ト謂フ。夫レ學習院ハ華士族、平民各其ノ職ニ就キ其ノ業ヲ執ルベキ子弟ヲ教育スル所

ニシテ、帝王四海ヲ統御シ給フベキ特殊ノ學問、即チ皇祖ノ遺訓、建國ノ體ヲ明カニスル所ノ科目ナシ。徒ニ其ノ科目ナキノミナラズ、生徒ノ學力ノ如キモ之ヲ他ノ官私立校ニ比シテ甚ダ優ナラザルモノアルガ如シ。然ルニ或ハ曰ク、東宮殿下未ダ御年少ニ坐セバ、御學友アツテ衆ト共ニ競争シ給ハザレバ御成學ニ至リ難シト。此ノ説ヤ甚ダ過テリ。何トナレバ、今日ノ

東宮殿下ハ他日ノ

天皇ナリ。彼ノ職ニ就キ業ヲ執ルコトヲ勉ムル學習院ニ於テ、衆ト共ニ伍シテ以テ競争シ給フベキニアラズ。御學友ノ如キニ至リテハ、別ニ皇族華族中ヨリ選バセラレテ可ナリ。又曰ク、歐米諸國又然リ、何ゾ我が朝ノミ別ニ御學科ヲ設クルノ必要アラシヤト、是レ亦内外ノ別ヲ辨ゼズ、強テ例ヲ海外ニ採ルノ賤見ナリ。彼レ歐米ニ在テハ國ニ革命アリ、概微賤ヨリ出デ、尊位ニ上ル者ナリ。況ンヤ共和國ノ如キ今日ノ大統領モ一旦任ヲ退ケバ庶人ニ異ナルコトナシ。是レ自ラ國體ノ同ジカラザル所ナリ。然ルニ主トシテ海外ノ例ヲ舉ゲテ我萬古不易皇統一系ノ皇太子ニ取ラントスル、何ゾ思ハザルノ甚シキヤ。臣等古典ヲ考フルニ、大寶ノ東宮職員令ニ曰ク、傳一人、掌執道德輔導東宮。マタ曰ク、學士二人、掌執經奉説ト。此ニ由テ之ヲ觀レバ、當時諸國ニ國學アリ、帝都ニ大學アルモ、猶ホ

東宮ニハ傳及ビ學士ヲ置キ、以テ特殊ノ御學問アラセラレシコト明瞭ナリ。是レ祖宗ノ遺訓ヲ重ジ、建國ノ本體ヲ守ラセ給フガ故ナリ。因テ此ノ古制ニ基キ、特ニ東宮御學問所ヲ設ケ、傳及ビ學士若干員ヲ置カレ、國典ヲ以テ第一トシ、傍ラ海外諸國ノ書ニ及ボシ、特殊ナル御教育ヲ以テ英資ヲ輔導シ奉ラバ、彌ヨ皇室ノ尊嚴ヲ示シ、益々國體ノ鞏固ヲ顯シ、以テ上宸襟ヲ安ジ奉リ、下萬民ヲ治メ給フベキ基礎トナラム。伏シテ冀クハ臣等ガ微衷ヲ察シ、速ニ上奏アラシコトヲ。

明治廿六年八月十五日

- 從四位 子爵 小笠原貞孚
- 從四位 子爵 竹内惟忠
- 從四位 子爵 日野西光善
- 從四位 子爵 大河内正質

從二位 子爵 北小路隨光

宮内大臣 子爵 土方久元 殿

明宮殿下御入學ニ付御學科ノ義蒙
御内旨依テ愚意大略左ニ奉申上候

宮内省出仕 西村 茂樹 上

凡ソ今日以後ノ學問ハ從前ノ如キ和漢ノ學ヲ以テ限リトセズ、博ク歐米諸國ノ學士ノ教育論ヲ採リ、本邦ノ風俗習慣ニ依リテ之ヲ取捨スベキ事ト奉存候。

近年歐米諸國ニテハ何レモ教育ヲ分ツテ三種ト仕候。其一ヲ身體ヲ強健ニスルノ學ト申シ、其二ヲ知識ヲ開達スルノ學ト申シ、其三ヲ道德ヲ修正スルノ學ト申シ候。此三者備ハリ初メテ完全ノ教育ト相成リ申候。此三種ノ教育ハ貴賤長幼ノ別ナク皆之ヲ修ムルコトニ御座候。

右ノ原理ニ據リテ學科ノ目ヲ立ツルトキハ大略左ノ通り相成可申ト奉存候。

小學御修行ノ年限ハ普通ノ法ニ從ヒ八年ト御定メ可然奉存候。中學ハ後年ノ事ニ付キ先ヅ此度ハ不申上候。

小學八年間ノ御學科ノ科目左ノ通りニテ可然歟ト奉存候。

第一、讀書 是ハ八年間始終御學ビ成サルベキ學科ニ御座候。讀書ヲ御學ビ成サレ候ニハ讀本ヲ御擇ビノ義肝要ニ御座候。最初ハいろは五十音ノ發音ヨリ、日用事物ノ名、夫ヨリ物理、化學、博物、生理、經濟ノ大意ヲ記シ、其文ハ最初ハ假名ノミ、夫ヨリ漢字假名交リトナリ、後ニハ漢文ヲモ交ヘタルモノ宜シク可有之候。若シ世間ニ適當ノ讀本無之候ハ、新規ニ御編輯ニ相成リ可然奉存候。讀本ヲ御教授申上候人物ハ發音ノ正シキ者ヲ御撰ビノ義肝要ト奉存候。

第二、習字 是レモ八年間御修學ノ學科ニ御座候。手本ハ誰ニテモ宜シク候ヘドモ、餘リ怪僻ナラザル書風ヲ御擇ビ可然奉存候。手本ノ文ハ成ルタケ實用ノモノヲ認メ可申、古人ノ詩文ナド認メ候ハ無用ノコトニ御座候。

第三、算術 是レモ八年間御習學ニテ可然奉存候。但シ時間ハ習字ヨリ少ナク候テモ宜シク御座候。算法ハ筆算ノ方宜シク可有之候。

第四、地理 是レハ御入學後三年目位ヨリ御初メニテ可然奉存候。本邦ヲ初メトシテ世界萬國ノ地理ノ大略ヲ御學ビノコトニ御座候。是ヲ御學ビ成サレ候ニハ書籍ノ外地圖地球儀等ノ器具色々有之候。

第五、歴史 歴史ハ四年目位ヨリ御初メ可然奉存候。先ヅ本邦ノ歴史ヨリシテ世界萬國ノ史ノ大略ヲ御學ビ成サレ可然奉存候。

第六、作文 是レモ四年目位ヨリ御初メニテ宜シク御座候。尋常ノ書翰文ヨリ假名交リニテ記事論說等御學ビ可然奉存候。

第七、外國語 外國語ノ中ニテ品格ノ宜シキハ法蘭西語ニシテ、通用ノ廣キハ英吉利語ニ御座候。二國語ノ中何レニテモ御好ミノ方御學ビニテ可然奉存候。外國語ハ原字ノ發音並ニ綴字ヨリ通常ノ會話位マデニテ宜シク可有之候。是レハ五年目位ヨリ御始メノコトニ御座候。

第八、修身 是レハ諸科中ニ於テ最モ大切ノ學科ニ御座候。此ノ學科ヲ御教授申上候者ハ殊ニ德望學識アル者ヲ御選用有之度奉存候。此ノ學科ノ授業ノ法ハ先ヅ古代ノ聖賢ノ格言ヲ集メテ一書ト爲シ、其格言ヲ能ク御諳記ニ相成リタル上ニテ、教師タル者種種ノ面白キ談話ヲ以テ其格言ニ引キ當テ、是レニテ格言ノ意味ヲ御會得ニ相成リ、漸ニ御徳性ヲ御威發成サレ候様仕度事ニ御座候。

第九、體操、唱歌 是レハ尋常ノ教授法ニテ宜シク可有之ト奉存候。

右九科ノ内第一科ヨリ第七科マデハ皆知識聞達ノ學ニシテ、第八科ハ道德修正ノ學、第九科

ハ身體強健ノ學ニ御座候。御幼年ノ間ハ最モ御身體ヲ御丈夫ニ成サレ候コト肝要ニ候間、定時
間ノ外ニモ御身體御強壯ノ事ハ教師タル者愈々注意シ、御食物、御衣服、御起居等ニ至ルマデ
何レモ御身體ノ御爲ニ相成候様心掛專一ト奉存候。又御科業時間ノ外ニハ成タケ御身體ノ御運
動ニ相成ル御遊戯成サレ候コト肝要ト奉存候。本文九科ノ外ニ若シ畫學御好ミニ候ハ、御學ビ
ニ相成リ候テモ宜シク御座候。

右學科ノ目ハ甚ダ多キ様ニ相見エ候ヘドモ、一日ノ御課業ハ五時間ヲ以テ限リトシ（最初ノ
一年ハ四時間ニテ可然）其中ニ唱歌、體操モ有之候間眞ノ御修學ノ時間ハ四時間（最初ハ三時
間）ニ不過候間過度ノ御勞力ハ無之事ト奉存候。

右ハ愚見ノ大略ニ御座候。學習院ノ學則ニテハ小學ノ課業ヲ六年ト定メ有之候間、或ハ其規
則ニ遵用成サレ候方可然歟トモ奉存候。恐惶頓首

立憲君主政及議院政ニ關スル ルードルフ氏意見

拜啓議院政府ニ付テノ意見書ヲ送呈仕候間、速ニ翻譯シテ總理大臣閣下へ御呈出相成度奉存
候。此意見書ニハ立法權、行政權及ビ大臣任官ニ關スル法案ノ必要ナルコトヲ詳論致置候。特
ニ現今日本ニ於テハ何故ニ總理大臣ハ特別ノ先權ヲ有セシメザルベカラザルヤヲ明陳致置候。
私此意見書ニ於テ將軍ト議院政トノ比較ヲナシタルハ新規ニシテ、蓋シ相當スベキ義ト被存候。
此意見書ノ末尾ニ於テ、李國ノ皇子特ニ太子ノ教育ニ付テ述ベタル事ハ、宮内大臣タル總理大
臣ニ取ツテハ隨分利益アルコトナラント被存候。元來君主國ノ安寧幸福ハ君主御幼年ノ時、其
高貴ノ職分ニ關シ適當ナル準備ヲ遊バサル、ト否トニ因テ定マル義ト奉存候。頓首

千八百八十六年一月十一日

井上議官殿

エ、ルードルフ

議院政（バルラメンタリーシエ、レギールング）ト立憲君主政（コンスタットチヲネルレモ
 ナールヒー）トノ區別ニ付テノ御質問ニ關シ、鄙生ノ換知スル所ニテハ、其二者ノ間ニ區別ア
 ルコトヲ見ズ。議院政ハ即チ立憲君主政ノ一種ニシテ、主トシテ英國ニ於テ始メテ起立シタル
 モノナリ。李國モ亦一ノ立憲君主政ナリト雖モ、決シテ議院政ニ非ラズ。今立憲君主政ノ種類
 ハ區々之レアリ、而シテ其種類ノ一ヲ議院政トス。其議院ト稱セラル、所ノ立憲君主政ノ種類
 ニアリテハ、君主ハ行政權ノ執行（行政）ニアリテモ亦國會ノ制限ヲ受クルコト著大ナリ。主
 ニ立憲君主政ノ性質ヲ有シ、而シテ李國ヲ以テ其適例トスル所ノ立憲君主政ノ種類ニアリテハ、
 君主ハ其好ム所ニ從テ任用シタル大臣トノミ行政權ヲ執行スルモノニシテ、其執行ニ關シテハ
 國會ノ制限ヲ受クルコトナシ。故ニ李國ノ立憲君主政體ニアリテハ君主權利（ベフーグニス）
 及ビ主權（ホーハイツレヒト）ハ議院政ト稱セラル、立憲君主政ニ比スレバ制限ヲ受クルコト
 僅ニシテ、國會ノ權ハ狹隘ナリトス。議院政ト稱セラル、立憲君主政體ニアリテハ、國會ノ權

利ハ最モ廣大ニシテ君主ハ其主權ヲ執行スルニ方リ制限ヲ受クルコト極メテ多シトス。
 右ノ事件ヲ充分ニ明瞭ナラシメントスルニハ君主專政、立憲君主政及ビ議院政ノ
 義理ヲ精密ニ論究スルコトヲ必要ナリトス。

君主專政即チ專制政トハ國權（政權）法律上ニ於テ國首タル自然人ニ專屬スル政體ヲ云フ。
 各個ノ君主專政ノ特別固有ノ性質ニ據ルトキハ、君主專政ノ種類數多ニ分ル、モノトス。其
 ノ大略ヲ舉レバ、世襲君主政（エル・ゾモナルヒー）、撰舉君主政（ウワールモナルヒー）、族宗
 君主政（バトリアノルヒモナルヒー）、神道君主政（テヲカラチシエ、モナルヒー）、封建君主政
 （レエンス、モナルヒー）、壓制君主政（デスポチーエン、モナルヒー）、無限君主政（アブゾ
 ルーテ、モナルヒー）及ビ立憲君主政（コンスタットチヲネルン、モナルヒー）等ナリ。此場合ニ
 於テ專ラ關係ヲ有スルモノハ立憲君主政ノ義解即チ是レナリ。立憲君主政トハ君主即チ國首國
 權（政權）及ビ其主權ヲ執行スルニ關シ、國會ノ制限ヲ受クル君主政體ヲ云フ。君主ハ國權ヲ
 執行スルニ關シ、國會ノ制限ヲ受クルコト或ハ多キコトアリ、或ハ少ナキコトアリ、又國會ノ
 權利ハ其ノ及ブ所ノ範圍或ハ廣大ナルコトアリ、或ハ狹隘ナルコトアリ、之ニ依テ種々ノ立憲
 君主政ヲ生ズ。然レドモ君主ガ國權ヲ執行スルニ付テ國會ヨリ一定ノ制限ヲ受クルハ立憲君主
 政ノ何レニ對シテモ總テ一般ノ通義ナリ。其制限ハ或點ヨリ視ルトキハ立憲君主政ノ義解ニ屬

立憲君主政及議院政ニ關スル「ルードルフ」氏意見

スルモノトス。而シテ總テノ立憲君主政ニ相ヒ通ズル此制限ハ即チ左ノ件々ナリトス。

第一 立憲政體ノ君主ハ立法權ヲ專斷ヲ以テ執行スルコトヲ許サズ。必ラズ其權ヲ執行スルニ際シテハ國會ノ參加共力ヲ受クルノ義務アルモノトス。

第二 立憲政體ノ君主ハ國家經濟ノ豫算、政府ノ總テノ歲入歲出ノ豫算ヲ專斷ヲ以テ確定スルコトヲ許サズ。其豫算ヲ確定スルニ際シテハ必ラズ國會ノ參加共力ヲ受クルノ義務アルモノトス。

第三 立憲政體ノ君主ハ專斷ヲ以テ租稅ヲ課シ租稅ヲ減ズルコトヲ許サズ。之ヲ課シ之ヲ減ズルニハ國會ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス。

第四 立憲政體ノ君主ハ行政權ヲ執行スルニ方リテハ必ラズ大臣ノ參加共力ヲ受クルノ義務アルモノトス。君主ノ布告命令及ビ處分ハ大臣ノ副署アルニアラザレバ法律上效力ナキモノトス。大臣ハ國會ニ對シテ其任ヲ負擔ス。

第五 立憲政體ノ君主ハ現行ノ法律ニ從テ行政權ヲ執行スベキモノトス。而シテ法律ノ制限外ニ立ツコトヲ許サズ。

第六 立憲政體ノ君主ハ親ラ裁判ヲ言ヒ渡スコトヲ許サズ。法律ニ從フノ外不羈獨立ノ裁判所ヲ以テ裁判權ヲ執行スルモノトス。

以上掲グル件々ハ總テノ立憲君主政ニ一般ニ通ズル所ノ君主ノ制限即チ是レナリ。此制限ハ英國女王並ニ李國王共ニ之ヲ受クルト雖モ、英國ノ女王ニアリテハ其他尙ホ大ナル制限ヲ受ク、此制限ハ李國王ノ受ケザル所ナリ。抑モ英國ノ立憲君主政ヲ議院政ト稱スル所以ノモノハ、此大ナル制限ヲ受クルガ故ナリ。鄙生此ニ英國君主ガ國會ヨリ受クル此ノ大ナル制限ノ最も重要ナルモノヲ簡單ニ陳述セントス。

一、英國ノ王ハ大臣ヲ撰擧スルニ付テ國會ノ制限ヲ受ク。李國王ハ之ニ反シテ其大臣ヲ撰擧スルニ付テ國會ノ制限ヲ受クルコトナシ。李國王ハ其好ム所ニ從テ大臣ヲ撰任ス。而シテ國會ハ李王ガ其大臣ヲ撰任スルノ權ニ法律上立入ルノ權ヲ有セザルモノトス。英國ニ於テハ內閣ハ常ニ議院ノ多數之ヲ占取シ、而シテ重要ナル問題ニ付キ下院ニ於テ內閣ノ意見少數ナルトキハ直ニ黜ケラル。是レ異議ナク行ナハル、所ノ實際ナリ。此少數ノ場合ニアリテハ英國ノ首相(ブレミル、ミニステル)ハ辭職ヲ申出テ、而シテ國意アインハイトデス、スターツウケルレノ一一致致(輿論)ヲ恢復センガ爲ニ新內閣ノ組織ヲ他ノ政事家ニ委囑セラレンコトヲ君主ニ勸告スルモノトス。此ニ於テ君主ハ下院ニ於ケル多數ノ首領ニ新內閣ヲ組織スルコトヲ委囑ス。此新內閣モ亦下院ノ多數ガ其政略及ビ施政上ノ處置ニ對シ不撓不屈反對說ヲ主張スルノトキニ至レバ其政權ヲ喪失スルモノトス。是ノ故ニ英國ノ王又ハ女王ハ大臣ノ任命及ビ解任ニ

立憲君主政及議院政ニ關スル「ルドルフ」氏意見

關シテハ其時々ノ下院ノ多數ノ爲ニ甚ク制限セラル、モノナリ。行政權ノ執行ニ關シテモ亦同ジ。又英王ハ自己ノ見込心證及ビ希望ガ當時下院ニ於テノ多數ノ希望及ビ政略ト反對スルトキハ到底國政ニ關シテ施行スルコト能ハズ。何トナレバ大臣ガ此ノ如キ下院ノ多數ニ反對スル行政上ノ公書ニハ副署スルコトヲ拒絶スベケレバナリ。然レドモ若シ大臣ガ副署シ、而シテ下院ニ於テ多數ヲ占ムル所ノ自黨ト共ニ其副署ノ爲ニ抗擊ヲ受クルトキハ、王ハ信用喪失ニ付テノ下院多數ノ決議ニ據リ大臣ヲ免黜シ、而シテ右反對セル王ノ政略及ビ行政上ノ公書ヲ認諾セザル多數ノ中ヨリ新大臣ヲ撰任セザルベカラズ。故ニ前内閣ト交送スル下院ノ多數ハ其希望及ビ意見ニ從テ王ニ大臣ヲ任命シ及ビ免黜セシメテ英國中央政府ノ政略ヲ確定ス。

英王ハ國會ノ多數ト共ニ常ニ自說ヲ變更スル能ハザルコトノ判然スルヲ以テ、王ハ之ガ爲メ一層甚ダ無爲ノ位置ニ壓斥セラレ、下院多數ノ中ヨリ撰任シタル大臣等ニ政務及ビ行政權執行ヲ成ルベク放任スルモノトス。抑モ英國ノ國會ハ大臣ノ撰任ニ干涉スルト均シク、之ニ依テ國政並ニ行政權執行ニモ亦大ニ干涉スルモノナリ。是レ即チ議院政ノ名アル所以ナリ。

孛國ノ大臣任免ノ制ハ英國ノ大臣任免ノ制ト全ク異ナル。故ニ孛國ノ行政權執行又ハ政務ノ

制モ亦英國ノ行政權執行又ハ政務ノ制トハ甚ダ異ナルモノトス。孛國ニ於テハ上既ニ記載シタルガ如ク、王ハ大臣ヲ任免スルノ權ヲ制限セラル、コトナクシテ、其最モ信任スル處ニシテ、最モ適切ナル資格ヲ有シ、賢能有爲ノモノナリト認ムル人ヲ撰舉シテ大臣ニ任ズ。又孛王ハ其舉グル處ノ人ガ下院ノ多數ニ屬スルト否トニ拘ラズ、之ヲ大臣ニ任命スルコトヲ得、又孛王ハ下院ノ多數ガ大臣ニ對シテ反對ヲ陳述シ、且ツ失信ノ決議ヲナストキト雖モ、其大臣ヲ免黜スルノ義務ヲ負擔スルモノニ非ラズ。「ビスマルク」内閣ハ數年ノ間下院ニ於ケル自由黨ノ大多數ヲ己ノ敵トシ、此大多數ヨリ最モ激烈ナル攻撃ヲ受ケ、又此自由黨ノ多數ハ憲法ニ背反ノ罪人トナリ、失信決議ハ積ンデ堆ヲナセシガ、孛王ハ依然トシテ「ビスマルク」内閣ニ其信任ヲ置キ、下院大多數ノ失信ノ決議アルニモ拘ハラズ此内閣ヲ維持シ、下院ヨリ誹議セラル、此内閣ト俱ニ強大且ツ權勢ノ政略ヲ實行シ、其結果遂ニ復タ「ビスマルク」内閣ノ爲メ下院ニ於テ多數ヲ得ルニ至リタリ。夫レ孛國ニシテ英國ノ如キ議院政ナランカ、果シテ然ラバ孛王ハ下院ガ最初ニナシタル失信ノ決議ノ際「ビスマルク」内閣ヲ免黜セザラントスルモ得ベカラザルベシ。若シ之ヲ免黜シタランニハ、孛國及ビ獨逸國ガ今日此強大隆盛ヲ致シタルノ政略ハ到底行ナハレザリシナラン。

孛國ニ於テハ大臣ヲ撰任スルノ標準ハ下院ノ意見及ビ希望ニアラズシテ、王ノ意見及ビ政略

ナルガ故ニ、王ノ意見及ビ政略ト大臣等ノ意見及ビ政略トハ互ニ心理上一致符合ス。故ニ孛國ノ王ハ英國ノ王ノ如ク無爲ノ地位ニ壓斥セラル、コトナク、常ニ能動者ニシテ親ラ政略ヲ指揮スルモノナリ。大臣等ハ行政權ノ執行ニ關シテハ王ノ意思ノ機關ナリ、王ハ獨立シテ相互ノ牽制ヲ受クルコトナキ諸大臣ノ政略ノ統一ヲ維持スルモノナリ。孛王ハ親ラ政務ヲ執掌スルガ故ニ諸大臣ノ政略ノ統一ヲ維持センガ爲メ別ニ總理大臣ナル權利ヲ與フルコトヲ要セズ。諸大臣相互ノ監督、^{コンソルト}内閣ノ監督、^{ミニステル}王ノ意思ノ裁斷力ヲ以テ足レリトス。然レドモ王ガ大臣ノ政略ニ斷然立入ルコト能ハザルヲ例トスル英國其他ノ王ガ無爲ノ位地ニ在ルコト一層多クシテ能動者ニアラザル總テノ國ニアリテハ、諸大臣ノ政略統一ヲ固ク維持センガ爲メ、總理大臣ニ與フルニ自餘ノ大臣ニ對シ首長ノ位置ヲ占有セシムルノ權限及ビ先權ヲ以テスルカ、或ハ諸大臣間及ビ政務ノ統一ヲ維持センガ爲メ、内閣ガ合議制上憲則（マルレギアリーセ、フエルファツスング）ヲ遵行シテ大臣ヲ行政機關トナシ、其獨立ノ度ヲ一層減殺シテ内閣ノ下ニ隸屬セシメザルベカラズ。孛國又ハ其他ノ立憲君主國又ハ君主專制國ニアリテハ、政務ノ爲ニ心思ヲ勞セザル王又ハ政務ニ堪ヘザル王ニシテ王祚ヲ踐ミシコトアルトキハ、政務ノ統一ヲ維持スルガ爲メ、止ムヲ得ズ總理大臣ノ先權ヲ以テ諸大臣ノ獨立權ヲ制限シ、而シテ内閣ヲ合議制内閣トナサザルヲ得ザルニ至ルベシ。然リ中央政（チエントラールシギールング）ハ大ニ改革ヲナサザルベ

カラザルノ事業アルガ爲メ、或ハ外交上關係ニ纏レラ生ジタルガ爲ニ、其統一ヲ維持スルコトノ甚ダ困難ニシテ、遂ニ親政能動ノ君主ノ下ニ、又全體ノ行政及ビ諸省ヲ總監督理スル總理大臣（ブレミールミニステル）若クハ大宰相（スターツカンツレル）ヲ置クガ如キコトアルベシ。抑モ千八百十年ヨリ千八百二十二年マデノ間ニ於テ、孛國ノ宰相「ハンデンベルク」氏ニ高等ノ地位ヲ與ヘタルノ理由、佛國「ナポレオン」大帝所屬ノ政務書記官（スターツセクレテール）ガ高等ナル地位ヲ占メタルノ理由、又現今日本ニ於テ總理大臣ガ國法上高等ノ地位ヲ有セザルベカラザルノ理由、及ビ諸大臣ニ完全ナル獨立ノ地位ヲ與フルコトヲ許サズシテ、内閣ヲ以テ^{アルガニシユ}機關的ニ諸大臣ヲ結合セザルベカラザルノ理由ハ、鄙生ノ注意スベキ事項ナリ。此合議制内閣ノ主義ハ之ヲ擴張スルコト實ニ得策ニアラズ、何トナレバ之ヲ擴張スルトキハ行政ノ機關^{マシホ}遲鈍トナリテ其働キ甚ダ緩漫ナレバナリ。

有名ナル獨逸國ノ「プロフエツソール、ドクトル、ルードルフ、グナイスト」氏其所著ノ高名ナル英國行政法ニ於テ、大臣ガ議院ニ對シ責任ヲ負擔スルコト愈々大ナレバ、行政ノ統一從テ益々大ナリ。之ヲ要スルガ爲ニ一世紀ノ其間ニ於テ最高等首宰（エールス、スピツツロルド）ノ官ヲ總理大臣ノ官トナシ、各省大臣ハ總理大臣ノ下ニ屬スルコトトナリシハ惑ヒナキコトナリト果シテ記載セルニ於テハ、是レヲ誤解ト云フベキナリ。若シ夫レ各大臣ガ獨立不羈ニシテ

總理大臣國法上特拔ノ地位ヲ有セザルトキハ、國會モ亦其各大臣ニ對シ責任ヲ負擔セシムルコトヲ得、然ノミナラズ是レ則チ各大臣ニ責任ヲ負擔セシムルコトノ一層簡易ナルモノトス。又立憲君主政國ニ於テハ英國ト均シク大臣責任ノ主義ヲ採ルト雖モ、他ノ各大臣ニ先立ツ特別ノ權ヲ與ヘラレシ處ノ總理大臣ヲ置カザルモノ最モ多シ。抑モ英國ニ於テ總理大臣ガ特拔ノ地位ヲ有スル所以ノモノハ、上既ニ述ベタルガ如ク英王ハ自然發達シタル議院政ノ爲ニ各大臣ノ政略ノ統一ヲ維持スルコト能ハザルモノトナリシト云フ外之レアラズ。故ニ他人ガ王ニ代リテ中央政ノ統一ヲ維持スル爲メ必要ナル權利ヲ必ラズ付與セラレズンバアラズ。其ノ他人トハ總理大臣即チ是レナリ。

二、議院政ノ重大至要ナル徵候ハ第一ニ於テ述ベタル處ノ議院（バルラメント）ガ大臣ノ黜陟ニ干涉シ、之ニ依テ亦行政權ノ執行ニ干涉スルコト即チ是レナリ。議院政ノ其ノ他ノ徵候及ビ固性ハ英國ニ於テ發達シタルガ如ク、議院ガ多クノ場合ニ於テ特ニ所謂「プリファートビル」ニ依テ政略及ビ施政ニ參與スルコト、及ビ立法ニ關シテモ亦幸國其他ノ立憲君主政國ノ國會ヨリモ一層強大ノ勢力ヲ施スコト即チ是レナリ。英國ノ王ハ外相上ニ於テハ議院首長ノ資格ヲ有シ、亦立法ノ上ニ立ツト雖モ、其實相上ニ於テハ上下兩議院特ニ下院ガ立法ニ強大ノ干涉ヲナスモノナリ。是レ議院ハ開議^{イニテキヤン}ノ權ヲ使用スルヲ例トスルト、王其

發議ヲ以テ議院ノ決議ニ反對スルハ全ク慣例ニ背クモノナルトニ因レリ。

此説明ニ據ルトキハ御下問ニ對スル答辯ハ自ラ明カナリ。

大臣ノ國會ニ對スル責任ハ決シテ議院政ノ固有ノ徵候ニアラズ、其責任ハ獨リ議院政ニ限ラズ、立憲君主政ノ何レノ種類ニ於テモ總テ存スルモノナリ。

内閣ノ合議制組織モ亦決シテ議院政ノ固有ノ徵候ニアラズ。蓋シ議院政内閣ハ中央政ノ統一ヲ維持セシガ爲ニ真正ノ合議制性質（コルレギアリシエカラクテル）ヲ有スルナラント云ハハ實ニ正當ナリトスト雖モ、上既ニ陳述シタルガ如ク、他ノ立憲君主政並ニ專制君主政ニ於テモ亦内閣ヲ合議制ニナサザルベカラザルノ事情ナシトセズ。

議院政ニアリテハ實ニ總理大臣ガ常ニ特拔ノ地位ヲ占ムルナラント雖モ、既ニ陳述シタルガ如ク、他ノ立憲君主政並ニ專制君主政ニ於テモ亦總理大臣ニ特ニ先權ヲ備ヘタル特拔ノ地位ヲ與ヘザルヲ得ザルノ必要ヲ見ルノ場合ナシトセズ。是レ則チ鄙生ガ最モ重要ナル文明國ノ内閣組織ニ付テノ意見書及ビ立法權及ビ行政權ノ執行並ニ大臣ノ地位ニ關スル法案ノ説明書ニ陳述シタルガ如ク、現今日本國ニ存スルノ場合ナリトス。故ニ總理大臣ガ占有スル特拔ノ地位ハ亦決シテ議院政ノ固有ノ徵候ニアラズ。何トナレバ其地位ハ他ノ政體（スタートツフォルム）ニモ

亦存スル處ニシテ一時又ハ永久之ヲ必要トスルモノナレバナリ。

國會ガ内閣ニ對シ失信ノ建議ヲナスノ權モ亦決シテ議院政ノ固有ノ徵候ニアラザルナリ。何トナレバ國會ハ總テノ立憲君主政國ニ於テ内閣ニ對シ失信ノ建議ヲナスノ權ヲ有スレバナリ。然レドモ失信建議ノ效驗ハ之ニ反シテ議院政ヲ以テ成立ツ、立憲君主政ニアリテハ他ノ立憲君主政ニ於ケルトハ全ク別異ノモノナリトス。其失信ノ建議ハ議院政ヲ以テ成立ツ、立憲君主政ニアリテハ無論大臣ヲ免黜セシムルノ效驗ヲ有スト雖モ、他ノ立憲君主政ニアリテハ然ラズシテ、君主ガ其失信ノ建議ヲ受ケタル大臣ヲ依然信任シテ尙ホ在職セシメントスルモ、又ハ免職セントスルモ專ラ注意撰定スル處トス。

國會ガ失信ノ建議ヲナシ、之ニ依テ大臣ヲ免黜セシムルコト、及ビ其時々ノ國會ノ多數ノ中ヨリ大臣ヲ任命スルノ義務ヲ君主ニ負擔セシムルコト、及ビ之ニ依テ大臣ヲ牽制シ以テ行政權並ニ施政ニ干涉スルコトハ、即チ是レ世人ガ議院政ト名クルヲ常トスル政體ノ固有ノ最要ナル徵候ナリトス。

鄙生ハ爰ニ日本君主政ト立憲君主政及ビ議院政トノ簡單ナル比較ヲナサントス。請フ之ヲ恕セラレンコトヲ。

抑モ日本ノ國法上ノ狀態ニ付テハ歐國ニ最モ誤謬ノ說ヲ流布シタルモノニシテ、鄙生ハ未ダ

今日マデ將軍ノ時代ニ於テ日本君主政ノ本質ヲ明カニ著述シタル書籍ヲ發見セザルナリ。夫レ君主政ニ二様ノ別アリ、無限君主政及ビ有限君主政即チ是レナリ。立憲君主政ハ有限君主政ノ一種ナリ。而シテ又上既ニ記載シタルガ如ク議院政ハ立憲君主政ノ一種ナリ。日本モ亦將軍ノ當時ハ有限君主政ナリシ、立憲君主國ニ於テハ君主ガ國權ノ執行ヲ民撰國會ノ爲ニ制限セラルルト均シク、日本ニ於テハ皇帝ガ國權ノ執行ヲ最高等官即チ將軍ノ爲ニ制限セラレ、又立憲君主政ノ種類ニ甚シク不同アリテ、其種類ニヨリ君主ガ國權ノ執行ニ關シ國會ノ制限ヲ受クルニ多少ノ別アルト均シク、日本ニ於テハ時代ノ異ナルニ從ヒ君主即チ皇帝ガ國權ノ執行ニ關シ最高等官即チ將軍ノ制限ヲ受クルニ大小ノ別アリシガ、將軍家康以來十八年前將軍廢滅ニ至ルマデノ間ハ、皇帝ノ權力ヲ制限シタルコト極メテ大ナリシ。而シテ皇帝ハ只ダ二三ノ特別榮譽權ヲ執行スルニ止マリテ、其他立法權裁判權及ビ行政權ノ執行ニハ全ク關與スルコトナクシテ、此權ハ獨リ將軍ノ執行スル所ナリシ。然ノミナラズ將軍ハ元來皇帝ノ最高等ノ臣下ニテアリナガラ、主君ナル皇帝ニ對シテ法律ヲ令示シタリ、今日マデハ何レノ立憲君主政ト雖モ未ダ曾テ斯クマデニ君主ヲ制限スルニ至リタルモノ一トシテ之レアラズ。就中王ガ國會ノ爲ニ最大無比ノ制限ヲ受ケタル英國ニ於テスラ、尙ホ且ツ王ハ特別榮譽權ノ外ニ立法權及ビ行政權ノ執行ニ關シ非常ニ重要ナル權利及ビ義務ヲ存有ス。君主ガ國會ノ爲ニ最大無比ノ制限ヲ受クル英國ニ

アリテハ、無上ノ崇尊及ビ恭敬ノ式ヲ以テ其制限ヲナスモノニシテ、將軍モ亦皇帝ヲ制限スルニ方ツテハ英國ノ國會ニ於ケルガ如ク無上ノ崇尊及ビ恭敬ノ制ヲ遵奉スルモノナリ。此ノ結果ヨリシテ英國及ビ日本ニ於テハ國法上ノ誤謬ヲ生ジ、遂ニ君主ノ正當ナル地位ハ無爲ノ位地ニシテ、君主ハ國政ニ關シテハ能動者及ビ親政者タルコトヲ許ササルニ至レリ。此誤謬ノ說ハ歐巴大陸ノ君主政ニモ傳播シタリシガ、漸次消盡スルノ姿ナリ。彼ノ「王ハ君臨スベシ、然レドモ施政スベカラズ」ト云ヘル佛國舊立憲君主政ノ原則モ亦此國法上ノ誤謬ニ原因スルモノトス。抑モ歐巴及ビ日本ニ於テ此誤謬ヲ保護センガ爲メ常ニ引證スル理由ノ一ハ君主ノ至尊及ビ神聖即チ是レナリ。君主ハ親ラ最重至要ノ國務ヲ擔當スベカラズ。又公事ニ參與スベカラズ。又親ラ最重至要ノ政務上ノ行爲ヲ舉行スベカラズシテ他人ニ專任セザルベカラズトハ皆是レ君主ノ至尊及ビ神聖ヨリ出ヅル所ノ結果ナリ。

此誤謬ノ說ニ基キ無上ノ崇尊及ビ無上ノ恭敬ノ名義ヲ以テ、君主ハ國權ノ執行及ビ現定ノ威權ヲ奪却セラル、モノナリ。鄙見ニ依レバ、君主ハ國權ノ擔任者ニシテ、國民及ビ全國ノ安寧幸福ノ爲ニ最高等ノ權力ヲ執行セザルベカラザルガ故ニ、至尊ハ神聖不可犯ニシテ無責任ナリ。君主ノ權ハ其性質上能動制御ノモノナリ。鄙生ガ外國ニ對シ自國ヲ保護シ國民ノ獨立ヲ謀リ及

ビ内國人民ノ幸福安寧ヲ進捗スルガ爲メ、嚴然使用シ及ビ執行シテ怠ラザル處ノ鞏固ナル舊來ノ君主權ヲ現有存行スルヲ國民ノ一大幸福ナリト信ズ。又其君主權ハ即チ各國民ニ對シ國家存立ノ爲メ妨害ヲ克制スルニ付テノ保證ナリ。鄙生ハ此君主權ハ無限權タルベシト云フノ論者ニハアラズ。專制君主政ト雖モ、君主ハ自ラ制限スル處ナカルベカラズ。又裁判權ヲ躬ラ執行シテ判決言渡ヲナスベカラズシテ、必ラズ法律ニ從フノ外全ク不羈獨立ノ裁判官ニ專ラ之ヲ委任セザルベカラズ。而シテ開明ノ專制君主ハ行政權及ビ立法權ヲ執行スルニ方ツテモ、亦自ラ制限スル處アルモノニシテ、國民中ヨリ賢良博識最モ政務ニ合格ノ者ヲ舉ゲテ己ノ最高等顧問官即チ大臣ニ任ジ、其參與ヲ受クルニアラザレバ決シテ政務上ノ行爲ヲ舉行セズ、又法律ヲ發スルニ方ツテハ豫ジメ其規定ヲ幾回モ審査セシメテ、其充分ニ熟シタル後ニアラザレバ決シテ裁可^{サンクシヨシ}ヲ與ヘザルナリ。更ニ歩ヲ進メテ陳述センニ、抑モ國民ガ政事上熟達シタルニ於テハ、君主ハ其國權執行ニ關シテ單ニ己ニ屬スル官吏ノ制限ヲ受クルノミナラズ、尙ホ國會ノ制限ヲ受クルヲ以テ得策ナリトシ、且ツ公共幸福ノ利益ナリト信ズ。而シテ此制限ハ何レノ度マデ推擴スベキヤノ問題ニ關シテハ、時ニ各國ニ於ケル特別ノ現狀及ビ關係其他時代ノ關係ニ據ルニアラザレバ答フルコトヲ得ベカラズト雖モ、鄙生ハ君主ニ對シ行政權ヲ制限スルハ決シテ君主ノ爲メ得策ニアラズ。而シテ君主ガ己ニ屬スル主權ヲ親ラ執行スルヲ君主及ビ公共幸福ノ利益ナリト

スルノ論者ナリ。君主ガ親ラ其主權ヲ執行セザルハ危險ナルモノニシテ、之レガ爲メ遂ニ主權ヲ喪失スルニ至ル。則チ日本ニ於テ將軍ノ起リタルハ之ガ爲メ適切ナル一例ナリ。其他ノ君主政國ニ於テモ亦之レト同一ノ例アルヲ見ル。佛國ニ於テハ「モルラインク」ノ君^{ジョーナスチ}統ニテ、佛國最高等ノ官吏ガ「マジヨール、ドミユース」ノ尊稱ヲ以テ日本ノ將軍ト同一ナル地位ヲ占メタリ。然レドモ佛國ニテハ其歷史上ノ事實ハ日本ト同ジカラズ。其「マジヨール、ドミユース」ハ王ヲ制限スルコト非常ニ甚シクシテ、實際ニ於テハ專ラ自己一人ニテ國權ヲ執行セシガ、後、王ノ君位ヲ剝奪シ、躬ラ王位ニ登踐シテ「カロリンケル」ノ君統ヲ起シタリ。君主ガ其主權ヲ親ラ執行セザルコトノ君主ノ爲ニ危難ナルハ專制君主政ニ於ケルヨリモ立憲君主政ニ於ケルヲ一層甚シトス。抑モ將軍ノ起ルモ其他法律上最高等官吏又ハ其權利ヲ以テ甚シク君主ヲ制限スルモ、是レ皆一朝一夕ノ故ニアラズ。必ラズ一定ノ約束アリテ漸次因襲ヲナスニアラザレバ發生スルモノニアラズ。其發生スルマデニハ經久ノ時間ヲ要スルモノニシテ、王親ラ王權ヲ執行セザルノ久シキ、遂ニハ王ハ親ラ主權ヲ執行スルコトヲ許サズ、必ラズ其執行ヲ最高等官吏ニ委任セザルベカラズトノ法理上ノ心證ヲ養生スルニ至ルヲ通例ノコトナリトス。此ノ如キ法理上心證ノ發達ヲ制止スルモノハ、國君ト其機關^{フルガン}(官吏)トノ自然ノ關係即チ是レナリ。立憲君主政ニアリテハ之ニ反シテ君主ガ己ニ屬スル主權ヲ親ラ執行セズ、且ツ政務ヲ親ラ執ラザルト

キハ、直ニ國會ガ君主ニ對シ主權ノ執行ヲ禁止シ、躬ラ其執行ヲナシ、或ハ然ラザルモ其執行ニ太シキ干涉ヲナサントスルノ危險ヲ生ズルモノナリ。日本ニ於テハ十八年前ニ於テ將軍ヲ斃シテ專政君主政ヲ恢復シタリシガ、皇帝ハ直ニ其己ニ歸シタル國權ト己ニ屬スル總テノ主權トヲ併セテ悉ク執行セズ、是レ自然ノ勢ヒニ出ヅルモノニシテ、此事ニ付テハ數百年ノ其間帝統ニ關スル口碑ニ傳ハルモノアリ。此世期前ニアリテハ皇帝ノ祖先ガ親ラ君臨シテ親裁及ビ親政ヲナシタルノ時代アリシト雖モ、其時代ハ遠ク古ノコトナリシ、又君主ノ最高等輔相^{ペライテル}ハ日本皇帝ガ數百年以來規範トナシ、依テ以テ聖代ニ立タセラレタル處ノ慣例、口碑及ビ原則ヲ神聖トシテ崇尊スルナランガ故ニ、皇帝陛下ハ年々歲々漸ラ追フテ益々世ニ出顯シ、而シテ政務ニ關シ顯要ノ地位ヲ占メサセラル。抑モ日本ガ依然專制君主政^{アンブリーテ、モナルヒ}ニ止マラントセバ、則チ主トシテ將軍ノ巧ナル政略ニ依テ發達シタル不正ノ國政原則ヲ以テ、此漸次彌大ノ出顯ヲナシ、益々顯要ノ地位ヲ高メサセラル、ハ敢テ怪シムベキニアラズト雖モ、今日ノ現狀ニ顯ハル、ガ如ク變ジテ立憲君主政トナルベケレバ、則チ皇帝陛下ハ其固有ノ權及ビ主權ヲ維持センガ爲ニ其權ヲ廣大ナル範圍ニ於テ親ラ執行シ、而シテ益々顯要ナル地位ヲ占メサセラレンコト必要ナリトス。若シ然ラズンバ日本ハ將軍ヨリ轉ジテ議院政(バルラメンタリーシユレギールンク)ニ陥ルモノナリ。是レ鄙生ガ立法權及ビ行政權並ニ大臣ノ位置ニ付テノ法案中ニ於テ、國ノ舊慣ニ及ボ

シ皇帝ガ法律及ビ重要ナル行政書類（レギールングス、アクテン）ニ御直ノ署名ヲナサセラレ
 ンコトヲ注意シ、而シテ帝權ノ全體ヲ舉ゲテ悉ク法律ニ明記シタル所以ナリ。鄙生ノ知了スル
 處ニテハ、他ノ現今ノ專制君主政國ニ於テハ決シテ此ノ如ク帝權ヲ明記シテ發布シタルモノ之
 レアラズ。又他ノ現今ノ專制君主國ニアリテハ未ダ曾テ日本ノ如クニ一種特異ナル開進發達ノ
 效ヲ遂成シタルモノ之レアラズ。非常ノ情況ハ亦必ラズ非常ノ方便ヲ要スルモノナリ。今夫レ
 議院政ニ付テ云フトキハ、議院政ハ英國ニ取テハ全ク至當ノモノナルベシ。英人ハ少ナクトモ
 議院ニ依得タル結果ニ付テハ全ク苦情ヲ訴フルコトヲ得ベカラズ。又英國ト雖モ議院政ニ種々
 ノ失アルコトハ之ヲ明知セザルベカラザレドモ、何レノ政體ヲ問ハズ、總テ一得一失アルコト
 ヲ免レズ。而シテ英國ニ於テハ議院ノ得ノ其失ニ優レル甚大ニシテ、宇内中ノ某國ニ比スレバ
 全ク別異ニシテ、一層善良ナル事實上要件ノ存スルモノアリ。鄙生ハ此ニ只ダ其一ヲ陳ゼン。
 抑モ英國ニハ世界中最上ノ富貴光榮ナル、而シテ英國國民全體ノ意想ニ甚シク崇尊セラレ、且
 ツ深ク根柢ヲ卸シ、確固不拔ナル貴族（アリストー、クラチー）ノ存スルモノアリ。此ノ貴族
 中ニハ最モ賢明ニシテ有爲ノ政事家多數輩出ス。又英國ノ議院ハ殆ンド貴族政員ノミヲ以テ成
 立セルモノナリ。但シ此政員中ニハ富有ナル一般人民モ亦之ヲ算入ス。世界中其他ノ國民ニア
 リテハ此ノ如キ一員ヲ缺クガ故ニ、此ノ如キ議院ヲ組織セントスルモ得ベカラズ。其他英國ニ

於テハ極端ノ急進黨ト雖モ、他黨ノ國民ニ對シテハ非常ニ保國安民ヲ嚴守スルモノニシテ、既
 ニ存續スル總テノ政體及ビ制度文物ヲ悉ク保有スルモノナリ。蓋シ他ノ數國ニシテ議院政ナリ
 トセバ、時トシテハ急進ニシテ破壊ノ元素ガ議院ニ於テ勝ヲ制シ、而シテ國家及ビ國民ノ存立
 ヲ危フスルニ至ルベキ紊亂ヲ惹起シ、及ビ無君主無政府トナルノ危險ヲ生ジタルナラン。今日
 本ノ如キ舊來自治及ビ國會ノ存セザル國ニアリテ、直ニ議院政ヲ實施セント欲スルハ犯亂無謀
 ノ舉業ナラン。若シ日本ガ立憲君主政ヲ維持スベシトセバ、強堅不拔ノ君主權ヲ存有シテ、毫
 モ議院政ニアラザル立憲君政國ニアラザレバ、決シテ其模範トナスベカラズ。又日本人ニシテ
 英國及ビ佛國ノ學ヲ習得スル大部分ガ、英國、米國及ビ佛國ノ國法上ノ原則及ビ意想ヲ腦裡ニ
 蓄有スルコトハ、日本ノ爲ニ甚ダ危險ナリ。何トナレバ此原則及ビ意想ハ日本ニハ全ク適當セ
 ザルモノニシテ、憲法實施ノトキニ方ツテ施政ニ一大困難ヲ加フルコトアレバナリ。獨逸國家
 學（スターツウエセンシャフト）ノ主宰即チ獨逸大學校ニ於ケル國法教授（スターツレヒトブ
 ロフェツソール）ノ多數ハ、英、米、佛ノ國法學ニ反對シテ共和政體（レブブリカニシエ、ス
 ターツフォルム）及ビ議院政ノ主義（プリンチツプ、テルハルラメンタリシエ、レギールング）
 ヲ駁論ス。鄙生ハ請フ、此ニ議院政ヲ駁論スル處ノ二三ノ國法書ヲ左ニ掲載セントス。
 即チ「ヘルト」氏憲法論第二卷第二百五十條第四百二十七葉以下及ビ第三百六十六葉以下、

「ブルンチュリ」氏普通國法論第二板第一卷第三百六十三葉及ビ第三百十七葉以下、「スタート
ル」氏性法論第三板第二卷第二篇第一百十條第三百七十三葉以下及ビ第一百十六條第四百十三葉以
下、「チヘ、ロエスレル」氏李國憲法進歩ニ付テノ教科書第一篇第一百十五葉、「エフ、フォン、
マルチテ」氏北獨逸聯邦ノ憲法ニ付テノ意見書第八十八葉以下及ビ獨逸王法論第九十六條第二
百二十葉及ビ第二百二十一葉及ビ第二百二十二條第三百十六葉ヨリ第三百十七葉ニ至ル、「ケ、
ネーゲン」氏北獨逸聯邦國法ノ原則第十五條第四百條以下、李國々會ニ於テノ議題ニ關スル辯
論筆記ノ中ニテハ左ニ掲グルモノヲ參照スベシ。即チ千八百六十三年二月十七日ノ議場ニ於テ
ノ「ドクトル、ファンヘル」氏ノ辯論（千八百六十三年ノ速記録第一卷第二百三十葉ヨリ第二
百三十一葉ニ至ル）特ニ千八百七十三年一月二十五日下院ニ於テ總理大臣「フェルスト、ビス
マルク」ノ說（千八百七十二年ヨリ同三年マデノ下院速記録第二卷第七百六十四葉ヨリ第七百
六十六葉マデ及ビ第七百六十八葉ヨリ第七百七十葉マデ）及ビ千八百八十二年一月二十四日帝
國々會ニ於テノ「ビスマルク」ノ演說（千八百八十一年ヨリ千八百八十二年マデノ帝國々會ノ
速記録第二卷第八百九十三葉ヨリ第九百葉マデ）。

右ニ掲グル書籍日本ノ文庫ニ之レナキトキハ鄙生之ヲ取寄セテ該當セル條項ヲ反譯セシムル
ノ紹介ヲナサン。其條項ハ即チ議院政ヲ防禦スル精神上利器ノ武倉ナリ。

李國ノ王ハ其ノ治下國民ノ幸福ノ爲メト雖モ、嘗テ國會ノ權ヲ以テ無爲ノ地位ニ斥ケラレタ
ルコト之レアラズ。又親政親裁ノ君ナレバ政務ニ關シ能動者ニシテ開端先行ノ權ヲ有ス、李國
ハ二百年前ニアリテハ尙ホ微々タル一小國ニシテ殆ンド知ル者ナカリシガ、諸大王及ビ諸大臣
ノ協心戮力ニ依リ萬戰萬危ノ急ヲ出デ、遂ニ武運勝利ヲ占有シテ世ニ卓絶シ、且ツ強大ニシ
テ權勢ノ國トナレリ。抑モ李國ノ王ハ萬機ノ施政ニ關シ親ヲ勞ヲ執リテ能動者タラザルベカラ
ズ。又政務ヲ周密ニ識得セザルベカラズトハ古來李國王室ノ皇子ヲ教育スルノ要旨ナリ。又王
位ヲ相續スル太子ガ陸軍ノ總テノ義務及ビ服役ヲ最下ヨリ漸次上進シテ悉ク經由スルハ李國王
室ノ原則ナリ。又太子ハ尉官ワイテナントヨリ將官ゲネラルニ至ルマデノ職役ヲ實地ニ就テ演習シ、而シテ或期間
其官ヲ勤メザルベカラズ。又皇子ハ同一ノ方法ヲ以テ行政ノ事務ヲモ演習スルモノトス。「フ
リドリヒ」大王ハ太子タルノ資格ニ於テハ必ラス數年ノ間在「キュストリン」ノ軍事及ビ官有
財産ノ官衙（縣廳）ニ於テ衙長（縣令）ノ監督ヲ受ケ、事物ヲ鞅掌シタリシ。今李瀟斯王國及
ビ獨逸帝國ノ君位相續者タル太子「ウキルヘルム」親帝及ビ親王殿下ハ、「ラツセル」中學校ニ
通學シテ他ノ學生ト共ニ該校ノ卒業試験ニ及第シ、其後「ボン」大學校ニ於テ國法（スタート
レヒト）、國家學（スタートツウキセンシャット）及ビ政事上經濟學（ポリチシエ、エコノミー）
ヲ修メ、而シテ他ノ大學生ト共ニ大學教頭ノ講義ヲ聽習シ、而シテ又「ボツツターム」縣廳ニ

於テ普通行政事務ヲ實地ニ就テ演習シ、又「ボツツターム」ニ於テ近衛歩兵第一聯隊附ノ大尉ハウフトマントナリテ小隊コムバゲニー司令官ノ義務及ビ役務ヲ實地ニ演習シタリ。抑モ孝國ノ王ハ晉ニ學文ニ上達シ事務ニ熟練ニシテ賢明有爲ノ官吏タルノ資格ヲ得有スルノミナラズ、凡ソ親王ヲ教育シテ軍務及ビ政務ニ關スル活動及ビ職務ヲ詳密ニ識了シ、又王ノ本分タル高貴ノ業務及ビ總テノ中央政史ニ長ジ、而シテ國民ノ仁愛者ナル最高等ノ王ノ顧問ライトニ種々ノ事項ニ關シテ優等卓越セル王トナサントスルニ至難トスル事項ハ悉ク會得セザルモノアラズ。又政事上大改革ノ多數ハ孝王ヨリ直接ニ出デタルモノナリ。

皇子教育方案

李滯生國第二近衛グレンナデール後備聯隊士官

東京帝國大學教授

ドクトル、エミール、ハウスクネヒット

凡ソ皇子ノ教育ハ其目的トスル所普通人民子弟ノ教育ニ於ケルト彼是相異ナルナクシテ、即チ一方ニ於テハ人ノ精神上ノ働作ノ種々ナルニ從ヒ、其發育ヲ齊一ナラシメ、他ノ一方ニ於テハ力メテ身體ノ發達ヲ完全ナラシムルニアリ。蓋シ精神上ノ働作ノ有様ヲ區別スレバ、知覺想像及ビ心術デミュートノ三様ナリトス。即チ知覺ハ眞理ヲ識別スルノ能力アリテ、判斷力ノ由リテ以テ發生スルノ所ノモノナリ。想像ハ美惡ヲ觀察スルノ具ニシテ、嗜好ノ發達ヲ助成スルモノナリ。心術ハ良智良能ヲ表彰スルノ能力アリテ、其働作ノ方正ナルヲ現ハスモノナリ。

今此等ノ能力並ニ之レト密着ノ關係アル記憶、靈智及び意向ノ發育ヲ成ルベク完全ナラシムルニハ、必ズヤ適當ノ教育ナカルベカラズ。而シテ教育ノ方法ニ至リテハ種々ノ能力ヲ常ニ平等ニ練磨シテ其發達ヲ計リ、且ツ學生ヲシテ當ニ正邪、美惡、良否ヲ辨別セシムルノミナラズ、尙ホ正直ノ性質ヲ養成セシムルノ機會ヲ與フルモノニアラザレバ教育ノ目的ハ學生ヲシテ正邪美惡、良否ヲ辨別スルノ判斷力ヲ具備セシムルヲ以テ足レリトセザレバナリ。又人ノ人タル所以ノ價值ヲ増進スルニハ、單ニ此等ノ判斷力ノミヲ能クスベキニアラズシテ、必ズヤ之レト相伴フベキ意向ナルモノナカルベカラズ。何トナレバ總テ教養ノ主眼目的トスル所ハ品行ノ方正即チ善良ノ性質ニアリ。之ヲ細言スレバ判斷力ニ依リテ善惡良否ヲ辨別シ得タル所ノ結果ナル意向ニアレバナリ。故ニ此目的ヲ達セントスルニハ、宜シク(第一)教育ノ方法及ビ(第二)教科目ノ善良ナルモノヲ選擇スベシ。

「ヨハン、フリードリヒ、ヘルバルト」ノ著述ニシテ「チルレル」等ノ増補ニ係ル教育法ノ如キハ一ノ良教育書ニシテ、其世ヲ裨益スルコト尠少ニアラザルベシ。然レドモ惜ムラクハ此教育法モ亦全ク誤謬ナキニアラズ。且ツ實際教育ノ各科ニ之ヲ應用スルモ同一ノ良結果ヲ得ルコト能ハザルモノアリ。是ノ故ニ「ヘルバルト」及ビ「チルレル」ノ教育書ヲ應用スル前ニ、先ヅ其準備トシテ彼ノ教育ノ原則ヲ概論シ、且ツ適例ヲ示シテ説明シタル「グスタフ、フリーヨ

リヒ」ノ教育論ヲ採用スルヲ善シトス。但シ「ラインピツケル」及ビ「シエルレル」ノ著述ニ係ル學年ト題スル著書ノ如キモ亦教育上有要ノ良書ナリ。

「ヘルバルト」ノ說ニ據レバ、抑モ教育ナルモノハ徒ニ知識ヲ博クスルヲ以テ足レリト爲スニアラズ。即チ徒ニ兒童ヲシテ活用ナキノ學識ヲ有セシムルヲ以テ其目的ト爲スニアラズシテ(是レ同氏ノ說ノ取ルベキ所ナリ)學生ノ識ヲ博クスルノ要ハ、彼ヲシテ學識ノ貴重ナル所以ヲ知ラシメ、益々學識ニ富ムノ念慮ヲ起サシムルナリ。之ヲ約言スレバ彼ヲシテ其學ビ得タル所ニ利益ヲ感ゼシムルニアルナリ。蓋シ此利益タルヤ知識ヲ鞏固ニシ且ツ該博ナラシメントスルノ元氣トナリテ現ル、モノナリ。

凡ソ幼少ノ學生ヲシテ外部ヨリ其學科ニ就キ利益ヲ感ゼシムルノ方便ハ、彼ト同年輩ノ群中ニ在ラシムルニ優ルモノナシ。蓋シ兒童ノ心ニ感觸ヲ與フルコト最モ強大ナルハ、同年輩ノ行狀所爲ニ若クモノナケレバナリ。一ノ幼少者ニシテ他ノ同年輩ガ好ミテ爲ス所ヲ見ルトキハ、彼モ亦自然ニ其所爲ニ倣フヲ常トス。而シテ幼少者ノ此性質ハ教育上ニ緊要ノ關係ヲ及ボスモノナリ。即チ幼少者ノ種々ノ德行(忍耐及び親切等)ハ同年輩トノ交際ニ於テ發達進歩スルモノニシテ、幼少者ガ人情ヲ知ルノ根原ハ實ニ此交際ヨリ發スルモノナリ。蓋シ君主ノ地位ニ在ル者ニ於テハ、詳ニ人情ヲ知リテ其趣ク所ノ方向ヲシテ正ニ歸セシムルノ道ヲ悟ルコト最モ緊

要ナリトス。然リ而シテ人情ヲ知ルノ機會ハ主トシテ同輩殊ニ互ニ外見ヲ裝ハズシテ眞情ヲ現ハス者ノ交際ニ存スルモ、斯ノ如キ交際ハ特リ幼少者ニ於テノミ之ヲ求ムルコトヲ得ベシ。是レ即チ人情ヲ知ルニハ小學校及ビ大學校ニ於テスルコト最モ容易ナル所以ニシテ、人ノ行狀、品位及ビ私欲ノ情等ヲ一變スルノ能力ヲ得ルニ至ルモ亦此ニ於テスルモノトス。然ルニ皇子ハ群臣ノ中ニ成長シ、其交際スル所ノ人々ハ常ニ皇子ノ地位ノ尊重ナルヲ顧ミ、尋常ノ繩墨ニ依ラズシテ全ク獨歩セシムルガ故ニ、眞ニ人情ヲ知ルコト極メテ難ク、加フルニ其教育ヲ掌ル者ヲ除クノ外、幼少ノ時ヨリ其意ニ逆フ者ヲ知ラザルナリ。故ニ沈思熟考シテ自己ノ判斷ヲ下スコトナキノミナラズ、他人ガ精神ヲ勞シテ以テ能ク反對ノ意見ヲ呈出シ得ルコトヲモ了解シ能ハザルベシ。何トナレバ一ノ事物ニ就キ深ク考察ヲ下ダシ、苦心以テ漸ク其證左ヲ舉示スルコトヲ得テ、而シテ後自己ノ判斷ヲ得ルノ難キヲ經驗シタルモノニアラザレバ、自己ノ判斷ニ反對スル所ノ意見ノ果シテ正當ナリヤ否ヤヲ覺悟シ得ザレバナリ。

蓋シ眞ノ大度ハ大ニ精神ヲ勞シテ確乎タル定見ヲ傳ヘタル者ニアラザレバ、之ヲ保有スルコト能ハザルナリ。然ルニ此ノ如キ精神上ノ勞働ヲ解セザル者ニ在リテハ、其判定スル所ハ雷ニ條理アルノ考察ニ基カザルノミナラズ、尙ホ人情ニ反スルモノ多キニ因リ、若シ自己ノ意見ニ反對スルノ説ヲ聞クトキハ、之ガ爲ニ名譽ヲ毀損セラレタリトノ感覺ヲ起スヲ常トス。故ニ此

ノ如キノ人物ハ巧言以テ他ヲ誘惑シ、自己ノ貪欲ヲ充タスノ具トナサントスル奸佞者ノ餌トナリ易キモノナリ。

前段既ニ陳述シタルガ如ク、教授法ニ於テモ亦單獨ノ教授ヨリモ寧ロ同年者數輩ヲ合併シテ教授スルヲ善シトシ、又學校ノ教授ハ更ニ之ニ優ルモノトス。蓋シ皇子ノ教授ヲ專ラ擔當スベキ教師ニハ篤實精勵ニシテ才幹アル者アラン、又其教授法ハ能ク幼少者ノ理解力ニ適合スルモノモアラン。然レドモ幼少者ノ氣力ニハ限アリテ、專ラ一人ノ教授ヲ掌ドル所ノ教師ニ就キテ數時間始終其教ニ注意スルニ堪ヘザルコトアルヲ奈何セン。然ルニ若シ數多ノ學生同時ニ教授ヲ受クルトキハ、教師ノ働カ自ラ分割セラレ、其一名ノ學生ト問答スル間ハ他ノ學生ハ少シク休心スルノ餘暇アルニ因リ、適宜ノ勉強力ヲ以テ能ク教授ヲ受クルコトヲ得。而シテ教師トノ問答順次爾餘ノ學生ニ及ブトキハ、各々全力ヲ竭クシテ其問題ニ當ルモ、其時間ハ甚ダ短キガ故ニ、學生ノ氣力ハ充分之ニ應ズルニ餘アリ。即チ斯ノ如キノ教授法ハ教師學生共ニ満足スル所ニシテ、且ツ一般ニ競争心ヲ喚起スルト同時ニ、等級ヲ設ケタル教授法ニアラザレバ現ハレ難キ所ノ好學心ヲ涵養ス。是レ學生ノ勤勞上第一ノ要件ナリトス。凡ソ健康無比ノ兒童ト雖モ其身體上ノ發育ノ常トシテ時々不快ヲ感ジ、爲ニ精神上ノ勞働ニ堪フル能ハザルニ至ルコト少ナカラズ。而シテ兒童ノ斯ノ如キ不快ノ感覺ハ醫師及ビ百事ニ能ク注意スル慈母ト雖モ往々之

ヲ察シ得ザルコトアリ。然ルニ教師ハ能ク此等ノ狀ヲ容易ニ索知シ得ルモノナルヲ以テ、等級教授ヲナスニ方リ、學生中ニ不快ヲ感ジタル者アルトキハ、暫時彼トノ問答ヲ止ムルノミニシテ休息セシムルコトヲ得。而シテ其學生モ亦過度ニ精神ヲ勞スルコトナキヲ以テ、容易ニ回復スルコトヲ得ルナリ。然ルニ一個人ヲ教授スル所ノ私教師ニ至リテハ、右ノ場合ニ方リ全ク其教授ヲ中止セザルヲ得ズ。而シテ之ヲ中止スルトキハ學生ハ之ガ爲ニ倦怠ノ心ヲ生ジ、竟ニ最初ノ不快ノ感覺ハ變ジテ嫌惡トナルニ至ラン。若シ其教授ヲ繼續センカ、徒ニ教師ト學生ノ鬱悶ヲ惹起シ、益々不快ノ感覺ヲ増張セシムルニ至ランノミ。即チ學生ハ一モ得ル所ナクシテ徒ニ其健康ヲ害スルニ過ギザルナリ。一個人ノ教授ノ成績ハ概ネ此ノ如シ。

凡ソ善長ナル皇子ノ教育法トシテ普通行ハルル所ノモノヲ觀ルニ、朝ハ味爽ヨリ夜ハ寢時ニ至ルマデ、日々ニ其從事スベキノ時間ヲ細別シ、復習及ビ準備ノタメニモ亦特ニ其時間ヲ定ムルナリ。是ヲ以テ皇子ハ其課業ヲ一定ノ時間ニ於テ成就スベキコトヲ了知スルヲ得ベシ。故ニ假令其課業ヲ一定ノ時間ヨリモ速ニ成就シ得ルコトアルモ、決シテ之ガタメ次回ノ課業ヲ増加スベカラズ。何トナレバ愈々速ニ其課業ヲ成就スルニ隨ヒ、益々其重キヲ加フルコトヲ一タビ覺知スルトキハ、成ルベク之ヲ徐々ニセンコトヲ計リ、其極ヤ意ニ倦厭ヲ來スノ恐アレバナリ。之ニ反シテ稍ヤ寛ナル教育法ヲ受クル少年ガ、其課業ヲ成ルベク迅速ニ遂ゲンコトヲ望ムハ、

彼レ能ク斯ノ如クニシテ剩マシ得タル時間ハ、休息及ビ遊戯ニ消費シ得ルコトヲ知レバナリ。而シテ幼年者ノ勉強心ハ之ガ爲ニ鼓舞セラルルナリ。但シ勉強時間ヲ確定スルハ固ヨリ必要ナリト雖モ、宜シク就業時間ノ始メノミヲ定ムベシ。決シテ其時間ノ終リヲ限ルベカラズ。而シテ皇子ノ迅速ニ勉強スルノ慣習ヲ養成スルト同時ニ、其勉強ノ粗略ニ流レズシテ精確ナランコトニ嚴密ニ注意スルヲ要ス。假令之ガタメ時アリテ復習及ビ準備時間ハ一定ノ時間ヨリ超過スルコトアルモ妨ナシ。但シ就業時間ノ屢々超過スルハ不可ナルヲ以テ、宜シク此ニ注意スベシ。又勉強時間ト眞ノ教授時間トハ、其間ニ休息時間ヲ置キテ相分離シ、而シテ皇子ノ課業ヲ全ク畢リタルトキハ遊戯若クハ其意ニ適スル所ノ事ヲナサシムベシ。若シ特別ノ場合ニ於テ一定ノ勉強時間ニ從事セシメ難キコトアルモ、皇子ノ義務トシテ爲スベキノ課業ハ成ルベク之ヲ成就セシムルヲ要ス。蓋シ皇子ニ在リテハ故障アリテ其義務ヲ盡シ難キ場合ニ際シテモ成ルベク其義務ヲ果ササルベカラズトノ思想ヲ養成スルコト最モ緊要ノ件ナレバナリ。然リ而シテ斯ノ如ク皇子ノ義務ヲ盡スノ思想ヲ養成スルニハ、之ト同時ニ若干ノ自由ヲ有セシメザルベカラザルナリ。

夫レ皇子ノ養育ヲ學校若クハ同年輩ノ群中ニ於テスルノ甚ダ緊要ナルハ、獨リ其教授上ニ於テ然リトスルノミナラズ、殊ニ遊戯上ニ於テモ亦同年輩トノ交際ハ大ニ必要ニシテ、遊戯ト教

授トハ兩ナガラ養育上缺クベカラザルノ要件ナリ。而シテ兒童ノ相共ニ遊戯スル所ノモノハ單ニ其同年輩ニ限ルナリ。然ルニ皇子ノタメニ凡ソ每週ニ一たび程二三ノ朋友ヲ召集スルモ未ダ以テ足レリトスベカラズ。蓋シ遊戯モ亦學ビ習フコトヲ要スルモノナルヲ以テ、日々ニ其演習ヲナサシメザルベカラズ。而シテ其演習ヲナサシムルニハ學友ト共ニセシムルニ若クハナシ。何トナレバ若シ皇子ト遊戯スル所ノ者ニシテ其學友ニアラザル者ナルトキハ、皇子ガ其實際上毫モ隔意スル所ナクシテ全ク安心スル程、皇子ノ信任ヲ得ル能ハザルヲ常トスレバナリ。凡ソ幼少者ノ有形無形ノ勇氣ハ專ラ同年輩トノ遊戯中ニ發達スルモノナルニ因リ、其相共ニ遊戯スルニ方リテヤ、各自ノ意見ヲ吐露シテ互ニ辯論スルニ至ルモ、其教師ニ對シテハ自己ノ意見ナルモノハ生ゼザルナリ。是レ一ハ幼少者ノ知覺力ノ微弱ナルト、一ハ其心中ニ教師ノ年齢ト其方正ナル行狀トニ對シ畏懼スル所アルトニ由ルモノニシテ、幼少者ニ此性質アルハ他ノ兒童ヨリモ皇子ニ就キテハ殊ニ深く注意スベキヲ要スルナリ。然ルニ教師ニシテ假令兒童ノ同年輩トノ交際ヲ缺クコトアルモ、自ラ彼ト懇話シ且ツ親切ニ之ヲ待遇セバ、其缺點ヲ補フニ足ルベク、而シテ彼ヲシテ自己ノ判斷ヲ構成セシムル様誘導スルコト難カラズト信ズルガ如キコトアラバ誤謬モ亦甚シト云フベシ。試ニ見ヨ、從順ニシテ能ク教育セラレタル學生ハ、教師ノ判斷ニ對シ素ヨリ自己ノ思慮ヲ費スコトナクシテ直ニ之ヲ是認シ、又教師ノ判斷ニ反對スルノ意見ヲ持

スル者ニ在リテハ、心中自己ノ僻說ヲ是トシテ沈黙スルヲ以テ、彼等ノ考察力ヲ練磨スルニ由ナシ。即チ幼少者ニ在リテハ眞ノ判斷力ハ專ラ相互ノ間ノ談話辯論中ニ發達シ、而シテ辯論以テ勝ヲ制シ得タル所ノ判斷ニアラザレバ幼少者ノ定見ハ鞏固ナラザルコト知ルベキナリ。是ヲ以テ一個人ノ教育ハ自己ノ判斷力ヲ養成スルノ效力ニ乏シクシテ、其結果ハ人ヲシテ後日或ハ他人ノ判斷ヲ聞クコトアルトキハ直ニ取りテ以テ自己ノ意見トナシ、或ハ他ヨリ條理アル抗論ヲ受クルモ之ヲ取捨スルノ明ナク、頑乎トシテ動かザルニ至ラシムルコトアリ。

皇子ニシテ若シ學校ニ入校スルトキハ、皇子ト同級ノ學生ハ勿論其學校全體ノ學生ト相交ハルニ至リ、隨ヒテ皇子ノ勉強心及ビ遊戯心モ之ガ爲ニ獎勵セラレルモノナリ。但シ其親密ナル交際ハ八名乃至十名ノ學生ヲ限リテ可ナリ。而シテ時宜ニ於テハ他ノ同級若クハ同校ノ學生ニシテ皇子ノ知ル所ノ者ヲ其親密ナル組合中ニ更ニ加フルモ妨ナシ。若シ皇子ノ入校ハ望ムベカラザルカ、又ハ之ヲ實行シ難キノ事情アラバ、其教育ハ凡ソ七名乃至八名ノ同年者ト共ニスルヲ善シトス。而シテ其一半ハ皇子ヨリモ知識上優等ナル者ニシテ、他ノ一半ハ皇子ト同等ナル者タルヲ要ス。此ノ如キ同窓ノ學生ハ直ニ又皇子ノ遊戯ノ友トナルモノナリ。夫レ皇子ヲシテ此ノ學友中ニ在リテ殊ニ勉強、從順、瑕瑾ナキ行狀等ヲ以テ他ニ卓越セシメンコトヲカムルハ、蓋シ其傳育者ノ任務ナルベシ。然リ而シテ皇子ト爾餘ノ兒童ノ間ニハ毫モ等差ヲ設クルコトナ

ク、百事全ク同等ニシテ其待遇ノ如キモ亦一學生トシテ待遇セザルベカラズ。例ヘバ幸漏生ノ宮中ニ在リテハ皇子ノ學齡中ニアリテ尙ホ其傅育者ヲ要スル間ハ、教育ノ任ヲ掌ドル所ノ人ヲシテ皇子ヲ呼バシムルニ決シテ、「キヨーニクリツヘー、ホーハイト」(殿下ノ意義)ナル語ヲ使用セシムルコトナク、單ニ皇子誰ト呼バシムルノミ。之ニ反シテ皇子ハ常ニ諸人ノ姓名ヲ呼ブニ必ラズ其有スル所ノ尊稱ヲ附セザルヲ得ズ。殊ニ其傅育及ビ教師ニ對シテハ義務トシテ相當ノ尊敬ヲ表シ、總ジテ敬禮ノ法式ハ嚴格ニ遵守セザルヲ得ザルナリ。

平素皇子ノ宮友ニシテ兼テ又其遊戯ノ友タル者ノ範圍ハ斯ノ如ク狹小ナルモ、之ヲ擴張スルコト甚ダ容易ナリ。即チ其方法ハ八名乃至九名ノ學生ヲシテ毎週ノ末ニ於テ各其朋友一名若クハ二名ヲ招待センコトヲ皇子ノ傅育者ニ請フコトヲ得セシメ、而シテ各學生ニ朋友ノ招待ヲ許サズベキ人員ハ一名若クハ二名トスベキヤ、又ハ時宜ニ依リ或ル學生ニ限り全ク其招待ヲ許サルヤ否ヤニ至リテハ、各學生ノ毎週ノ勤勉ト行狀トニ準ジテ之ヲ斟酌シ、皇子ト雖モ其一週間ノ勤勉ノ成績ニ相當スル數ヨリモ多數ノ人員ヲ招待スルヲ得ザルモノトシ、其勤勉等ノ成績ヲ判定スルモ亦全ク自餘ノ學生ニ於ケルト同一ニスベシ。但シ此招待ハ皇子ノ傅育者ニ於テ之ヲナスモ、其招待スル所ノ人物ニ就キテハ宜シク諸童ノ希望ヲ満足セシメンコトヲ務ムベシ。然リ而シテ皇子ト自餘ノ兒童ノ別ナク、總テ彼等ヲシテ其招待スル所ノ朋友ハ其客人トシテ之ヲ款

待スルノ習慣ヲ保タシムルコトニ注意スルヲ要スルモ、其遊戯ニ就キテハ務メテ之ニ干涉スルコトヲ避ケ、遊戯ノ種類方案ノ如キハ主客ノ意ニ適スル所ノモノヲ擇バシメ、唯ダ甚シキ粗暴無禮又ハ品行ヲ害スルノ舉動ニ至リテハ傅育者ニ於テ嚴ニ之ヲ矯正シテ可ナリ。蓋シ時アリテ招待ヲ受ケタル兒童モ亦或ハ其一週間ノ勤勉ノ結果拙劣ナリシガタメ、又ハ自餘ノ故障アルガタメ招待ニ應ジ得ザルコトアルベシ。今此等ノ事故アルニ因リ招待ニ應ズル者ニ缺員アルモ、決シテ此缺員ヲ補ハンガタメ更ニ他人ヲ招待スベカラズ。是レ他ナシ、皇子ニ在リテモ亦斯ノ如クニシテ、人事ハ往々意ノ如クナラザルコトアリテ、時ノ勢ニ從ハザルヲ得ザルコトアリトノ思想ヲ有セシメ、且ツ同時ニ他人ノ喜憂ヲ顧ミテ其感ヲ同ジクスルノ習慣ヲ養成セシメンガ爲メナリ。然リ而シテ招キニ應ジ得ザルノ理由ヲ告グルニハ全ク其事實ヲ表明シ、毫末モ虛言ヲ以テスベカラズ。何トナレバ皇子並ニ其交際スル所ノ兒童ヲシテ百事實直ヲ好ムノ心ヲ保タシムルコト最モ深ク注意スベキ所ナレバナリ。故ニ事實ヲ隱蔽シ又ハ欺クガ如キハ、縱令其事ノ慈愛心ニ出ヅルモ斷ジテナスベカラザルナリ。(附言、幸漏生ノ宮中ニ於テハ現皇太子ノ皇子及ビ皇女ノ爲ニ時アリテ兒童、兒女ノ會遊ヲ開クノ慣例アリ。遊戯ノ友トシテ會テ宮中ヨリ招カレタル兒女ハ皇女ト共ニ十名乃至十二名ニシテ、兒童モ亦同數ナリ。其意蓋シ兒童、兒女自在ニ相混ジテ遊戯スルコトヲ習ハシメ、且ツ稍ヤ靜穩ナル遊戯ヲナサシムルニアリキ。)

凡ソ兒童ノ遊戯中ニ在リテ其第一ニ位スル者ハ身體ノ運動ト密着スル所ノ遊戯ニシテ、而カモ此種類ノ遊戯ハ同年者數輩相集マルニアラザレバ大抵爲シ難キモノ多シトス。但シ乘馬、擊劍、游泳ノ如キ運動法ヲ取ルニハ幼年者ニ能ク適スルモノヲ擇ビ、而シテ之ヲ實行スルニハ必ラズ成年者ヲ同伴セシムルヲ要ス。其他又神心ノ働キニ密着スル所ノ會話遊戯ナルモノアリ、蓋シ皇子ニ供スル玩弄物ハ甚ダ夥多ナルヲ常トシ、而シテ其品種ヲ問ヘバ總テ實物ヲ能ク模造シタル所ノ完全ナルモノニアラザルハナシ。然レドモ此完全ナル模造品ハ反テ眞ノ玩弄物ノ效用ナキモノナリ。何トナレバ玩弄物ニ不完全ナル所アルニ隨ヒ、益々想像力ヲ活用スルノ餘地ヲ生ジ、想像力ノ活用愈々大ナルニ隨ヒ、遊戯ノ快樂ハ益々深ケレバナリ。且ツ夫レ玩弄物ノ過多ナルニ適々以テ遊戯心ヲ冷淡ナラシメ、遊戯ニ於テモ亦必要缺クベカラザル所ノ熱心ヲ害スルニ足ルノミ。兒童若シ斯ノ如クニシテ成長セバ數年後ニ至リ遊樂スル時ニ於テモ亦眞ニ其快樂ヲ感ズルコト稀ニシテ、其談話ノ如キモ順序ヲ缺キ、徒ニ新奇ナル個々ノ事項ニ涉ルニ至ランノミ。而シテ他年爲ス所アラントスル有用ノ事業ノ準備タルベキ遊戯モ亦其効用ヲ失シ、徒ニ表面ノ智識ヲ促ガスニ過ギズシテ、確乎タル思慮定見ヲ養成スルノ實益ナカルベシ。何トナレバ此ノ如キ遊戯ノ有様ニテハ皇子ヲシテ遊戯ノ際常ニ銳意熱心シテ其利益ヲ感ゼシムルガ如キハ決シテ望ムベカラザレバナリ。然リ而シテ銳意熱心シテ利益ヲ感ズルノ一事ハ修學ノ際

ト遊戯ノ時トヲ問ハズ、總テ教育上一大緊要事件ナリ。

既ニ前段ニ於テ舉示シタル彼「ベルバルト」氏ノ教育學ノ如キハ即チ此利益覺知ノ意義ヲ説クラ以テ其精神トナスモノナリ。此書ハ主トシテ教科ノ資料トナルベキモノヲ撰拔シテ之ヲ編纂シタルモノニ係ルノミナラズ、又能ク教科ノ事ヲ詳論シタルモノナリ。其教科ノ資料即チ教授ノ方法ニ就キテハ左ニ之ヲ陳述セン。

抑モ利益ヲ覺知スルニハ左ノ要件ナカルベカラズ。即チ他ノ慾蕩ヲ俟タズシテ發スル所ノ注意、希望、精神ノ穎敏、自然ニ新觀念ニ留心スルノ心中ニ感銘シタル舊觀念ヲ以テ、更ニ新觀念ヲ迎ヘントスル時ニ於テ現ルルモノナリ。而シテ此ノ舊觀念タルヤ、又新舊ノ觀念相混合シテ更ニ新觀念ヲ形成スルノ階梯トナルモノナリ。心理學ニ於テハ斯ノ如ク新舊ノ觀念相合シテ一體トナルノ作用ヲ名ケテ之ヲ覺悟ト云フ。夫レ舊觀念ノ新觀念トナリテ現ハル、コト愈々頻繁ナルニ隨ヒ、新觀念ノ人心ニ感通スルコト益々容易ニナリ、其人心ニ感通スルコト益々容易ナルニ隨ヒ、快樂ノ感覺ヲ生ジ、而シテ此快樂ノ感覺ハ更ニ同一ノ精神ノ活動ヲ反復スルノ希望ヲ生ジ、是ニ於テ始メテ兒童ハ心中ニ教科ノ事物ニ就キ利益ヲ感ズルノ端緒ヲ開クニ至ルモノナリ。

今事物ヲ考究スルノ念ヲ養成シ、以テ利益ヲ感ズルノ心ヲ喚起センガ爲ニ新資料ヲ供スルニ

ハ、先ヅ其豫科ニ就カシムルヲ要ス。(豫科トハ所謂教授法ニ於テ第一科ト名ヅクルモノ)此豫科ノ目的ハ業已ニ兒童ノ了知スル所ノ資料ニ就キ先ヅ其思慮ヲ喚起シ、而シテ又兒童ヲ誘導シテ其未ダ了解セザル所ノ新資料ニ係ル觀念ヲ有セシムルニアリ。即チ豫科ハ新舊ノ資料共ニ之ヲ含有シ、而シテ舊資料ト連續シテ思慮ノ範圍ヲ區々ニ分割シ、以テ知覺ノ觀念ヲ増進スルモノニシテ、新資料トハ新ニ教科ノ資料トシテ供スル所ノモノノ謂ニシテ、即チ希望ヲ作興スルモノナリ。

第二科ニ於テハ始メテ新資料ヲ以テ其科程ニ供スルナリ。即チ歴史文章ヲ讀ミ、地理學ヲ講ジ、又其圖ヲ畫カシメ、物理學ノ如キハ教師ニ於テ試験ト講義トノ二方ニ由テ之ヲ授ク。而シテ此等ノ教科ハ總テ之ヲ小分シテ學生ノ知覺ニ適當スベキモノトナシ、先ヅ此各教科ノ初篇ヲ修學セシム。但シ第二科ニ於テハ事實及ビ有形上ノ事物ヲ修學セシムルヲ以テ其ノ眼目トス。今學生ノ得力ノ程度如何ヲ見ルニハ、其修メタル教科ニ就キ説明ヲナサシメ、其能ク連續スルト否ラザルトニ依リテ之ヲ驗知スルコトヲ得ベシ。然レドモ其説明ノ際ニ質問ヲナスハ兒童ノ心中ニ構成スル所ノ觀念ヲ害スルノ畏レアルヲ以テ、之ヲ避クルコトヲ務ムベシ。一ノ學生若シ説明ヲ了リタルトキハ他ノ學生ヲシテ其脱漏ノ點ヲ指示シテ訂正補充セシメ、而シテ後此點ニ就キ談話ヲ開カシメ、最後ニ至リ各學生ヲシテ全篇ノ要領ヲ總括シテ之ガ説明ヲナサシムベシ。

シ。又第二期ニ於テハ總括シタル問題ヲ設ケテ更ニ一層深ク兒童ノ思想ヲ練磨スルコトヲ務メ、殊ニ道義上及ビ宗教上ノ思想ヲ發達セシムルコトヲ計ルベシ。

第三科(結合)ニ於テハ既ニ了知シ得タル所ノ觀念ノ事ヲ以テ專ラトシ、先ヅ一ハ此等ノ觀念ヲ互ニ比較シ、一ハ之レト舊思想トヲ比較シテ其全體ヲ觀察セシム。是ニ於テ異殊ノ觀念ハ個々ノ群列トナリテ相結合シ、隨ヒテ鞏固安全ナルモノトナルナリ。然リ而シテ新資料ハ個個特種ノモノニ於テモ亦普通ノ觀念、即チ普通ニ應用スベキ觀念ヲ含蓄スルモノニシテ、舊觀念ト同一又ハ之レニ類似ノ觀念ヲ發生ス。蓋シ新舊ノ觀念ヲ總括シテ之ヲ觀察セバ、異殊ナルモノノ共通ノモノトハ自ラ判然タルベク、而シテ異殊ナルモノハ自然ニ湮沒スベキモ、共通ノモノハ一齊ノ集合體トナリテ益々明瞭ニナルベシ。

普通ノ理ト特殊ノ理トヲ嚴密ニ分離スル事ハ第四科(總括)ノ目的ナリ。修學ノ結果、即チ意義、規則、原則、通理ヲ正確ナル語法ヲ以テ解明シ且ツ能ク之ヲ記憶スルコト即チ是レナリ。

第五科(應用)ニ於テハ練磨ノ方法ニ依リテ以テ智識ノ鞏固ト、其感動ノ度ヲ進メ、實際ノ問題ニ對スル智識ノ應用ニ依リテ以テ其活用ヲ習ハシム。即チ問題ノ解明、諳誦、作文、製圖、地圖ノ製作、諸規則及ビ通理ノ例證ヲ舉示スル事ノ如キハ右ノ目的ヲ達スルノ方法ナリトス。

以上教科ノ基本ヲ心理學ニ由テ設ケタル「ヘルバルト」氏ノ教育方法ハ能ク實用ニ適スルモ

ノト謂フベシ。此方法ニ依ルトキハ感情、想像力、記憶、言語、靈智、嗜好、心術、良心、思想及び意向ノ發育上ニ効驗ヲ現ハスニ至ルベク、即チ發育ノ大目的ヲ達スルニ至ルベシ。其然ル所以ノモノハ左ニ掲グル所ノ簡單ナル一例ニ就キテ之ヲ推知スルヲ得ベシ。但シ左ノ例ハ凡ソ既ニ二年間ノ教授ヲ受ケタル兒童ニ對シ使用スベキモノナリ。又此例ハ元ト兒童ノ生國ノ言語ヨリ成リタル事項ナレドモ、他國ノ言語ヨリ傳來シタルモノヲ適用スルモ亦妨ゲナキナリ。

己ノ父母ヲ尊敬セヨ、

或ル貧困ナル農家ノ寡婦紡績ノ業ヲ以テ辛ウジテ其一子ヲ養育シ、其學校ニ在ルニ方リテハ兒ノ爲ニ原野ヲ越ヘテ食物ヲ運ビタリ。此兒竟ニ大ニ立身シ、一日盛宴ヲ設ケテ諸人ヲ饗應セリ。客ノ始メ一室内ニ到リシトキ、一個ノ奇物アルヲ視テ大ニ奇異ノ思ヒヲナセリ。一ハ耿々タル明鏡ノ下ニ懸カル所ノ粗惡ナル杖ニシテ、他ノ一ハ食卓ノ傍ラニ在ル所ノ新布ヲ以テ覆ヒタル一脚ノ古椅子ナリシ。客怪ミテ主人ニ向ヒ何ノ故アリテ此二品ヲ備フルヤト問ヒシニ、主人答ヘテ曰ク、余ガ曩ニ慈母ニ離レ家ヲ去リシ時ニ方リ、余ガ携帯セシ所ノモノハ唯ダ此杖ノミ。彼ノ椅子ハ即チ曾テ慈母ノ常ニ之ニ坐シテ紡績ノ業ヲ執リ、以テ余ヲシテ學校ニ入ルヲ得セシメタル所ノ紡績椅子ナリト。少頃アリテ賓客悉ク集マリシ

トキ、主人ハ尙ホ一人ノ客ノ缺ケアルヲ以テ之ヲ迎ヘントシ、客ニ請フテ其席ヲ去リシニ、忽チニシテ農衣ヲ著シタル曲腰ノ老婦ノ手ヲ携ヘテ歸リ來リ、彼ノ紡績椅子ニ坐セシメタリ。是レ他人ニアラズ、即チ主人ノ尊敬スル所ノ慈母ナリキ。

學生ヲシテ自ラ前文ヲ讀マシムルカ、又ハ其講述ヲ聽聞セシムル前ニ先ヅ左ノ準備ニ著手スベシ。

(一) 準備

既ニ學兒ノ知了シタル談話、或ハ實事ノ記憶ヲ鞏固ニスルガ爲ニ、抑モ農夫トハ如何ナルモノヲ謂フカトノ想像ヲ其腦裏ニ喚起セシムルヲ要ス、故ニ左ノ問答ヲ爲スベシ。

農民ノ職務 ○多數ノ農民ハ土地ノ耕作ニ從事スルコト、○斯ノ如キ農民ヲ何ト稱スルヤ、○農夫ノ妻ヲ何ント呼ブヤ、○如何ナルモノヲ名ケテ農家ノ寡婦ト云フヤ、○田舎ニ住スル婦女子ノ仕事、○夏日ハ家ニ庭ニ各々爲スベキノ業アリ、○冬日ハ紡績ヲ爲ス家多シ、○殊ニ紡績ノ業ハ田舎ニモ漸次ニ減少スルノ現況ナルヲ以テ常ニ都府ニ住スル兒童ニシテ多少紡績ノ業ヲ目撃知了スルノ機會ヲ得タルモノ稀ナリ、是ノ故ニ成ル

ペク紡車或ハ其模型ヲ示シ、紡績ノ作用ニ就キ紡績臺ノ何タルヲ知ラシムベシ。(此編專ラ都府ニ在ル兒童ノ爲ニ草スル所トス、然ルニ都府ノ兒童ハ田舎ノ生計ニ關スル談話ヲ理解スルニ必要ナル想像ヲ缺クモノ多シ、故ニ云爾)

農民ノ服裝 ○兒童ハ屢々都府ノ中、殊ニ開市ノ日ニ於テ農民ヲ見ルコトアルモノナレバ、其市場ニテ見タル人物ノ談話ヲナシテ其如何ヲ想起セシメ、而シテ後チ農民ノ服裝如何ヲ説キ、(此ノ際農夫ノ携ヘタル杖等ノコトヲ説キ)、且ツ其ノ婦女ノ服裝ヲモ談ズベシ。

凡ソ學兒ト談話シテ能ク倦マシメザルニハ多少ノ巧拙アリト雖モ、右等ノ事物ハ能ク九歳乃至十歳ノ兒童ノ注意ヲ惹クモノナリ、又學兒ヲシテ次ノ談話ヲ理解スルノ準備ヲ爲サシメ、兒童ヲシテ熱心以テ談話ヲ聞カントラ企望セシムベシ、○左ノ一項ハ談話ヲ理解セシムルノ準備中ニ加フベキモノトス。

(一) 説 述

(伊) 讀書及ビ復話。

(呂) 讀本ノ説述。

但シ豫ジメ畫工ヲシテ讀本中ノ事項ニ就キ多クノ圖畫ヲ作ラシメ置クベシ。

(イ) 第一圖ハ人ヲシテ身一村落ノ農家ニ至リタルノ思ヒヲナサシムルガ如ク田家ノ景況ヲ現ハシ、此ノ圖中ニハ何者ノ居ルヤ、○農家ノ寡婦ハ何處ニ居ルヤ、○寡婦ハ何事ニ從事シ、何物ノ上ニ坐スルヤヲ問ヒ、紡績臺ノ説明ヲ爲サシメ、(古ク高クシテ古布ヲ以テ覆ヒタル等)、又婦女ノ前ニ横ハルモノハ何モノナルヤ等ヲ問フベシ。

第二圖ヲ示シテハ、此ノ第二圖中ノ人物ハ何物ナルヤ、○此ノ圖中ニモ亦農家ノ寡婦アレドモ、今ハ椅子ニ凭ラズ、抑モ彼レハ何ヲ爲スカ、○彼レハ今歩シテ何處ニ行カントスルカ、○何ノ目的ヲ以テ市中ニ赴カントスルカ、○彼レノ男子ハ市中ノ何處ニ在ルカ、○何故ニ其男子ハ村内ノ小學校ニハ通學セザルカ、○其通學スル市中ノ學校ハ何ト稱スルカ、(職業學校)、○何故ニ彼ハ日中家ニ歸ルコトヲ許サレタカ、○彼レ日中家ニ歸ラザルガ故ニ母親ハ何事ヲ爲スカ、○此ノ母親ガ手ニ携ヘタルモノハ何物ナルカ、○此ノ筐ノ内ニハ何物ヲ容レタルヤ等ヲ問フベシ。

第三圖ハ前ノ男子ガ數年ヲ經テ立身シタル所ノ景況ヲ現ハシ、人ヲシテ恰モ美麗ナル住家ニ誘ハレタル感アラシムルガ如ク製作シ、兒童ニ問フニ次ノ質問ヲ以テスベシ、○此ノ家ハ何人ノ所有ニ屬スルヤ、○以前此ノ男子ハ如何ナリシヤ、○今ヨリシテ之ヲ思

へバ驚嘆スベキニアラズヤ、○如何ニシテ彼ハ今ノ斯ノ如キ美麗ナル家屋ヲ所有スルコトヲ得タルヤ、○彼ガ立身出世シタリトハ何ノ謂ゾ、○今圖中ニ見ル所ノモノヲ悉ク詳説セヨ、○表座敷ニ居ル人等ハ何者ナルヤ、○開キタル戸ノ間ヨリ更ニ美麗ナル部屋アルヲ見ル、此ノ内ニハ何物アリヤ、○此等ノ來客ト共ニ吾人ガ驚歎シテ眼ヲ注グモノアリ、是レ何物ゾヤ、○杖ハ何處ニアルカ、○何處ニ紡績臺アリヤ、○汝等ハ尙ホ之ヲ記憶スルカ、○吾人ハ何レノ圖中ニ於テ既ニ紡績臺ヲ見タルカ、○圖中ノ紡績臺ハ以前ノモノニ均シキカ、○何故ニ吾人ハ此ノ二物ニツキ斯ク驚歎スルカ。

第四圖ハ衆客既ニ彼ノ美麗ナル室内ニ列坐シタル所ヲ描キ、左ノ質問ヲ爲スベシ、○衆客ハ何室ニ坐スルカ、○何レノ椅子ニハ人未ダ坐セザルカ、○遙カ後ロノ方ヨリ尙ホ二人ノ此ノ處ニ來ラントスル者アルヲ見ル、彼等ハ何人ナルカ、○彼ノ男子ガ其母親ヲ誘ヒ來ルノ狀如何、(然シテ第一ハ第二、第三圖中ニ見タル所ノモノヲ對照シテ前後ノ異同ヲ説明セシム)。

(ロ) 修。身。的。ノ。意。味。ヲ。開。發。セ。シ。ム。ル。ガ。爲。ニ。左。ノ。問。答。ヲ。爲。ス。ベ。シ。

吾人ガ云々シタル婦女ハ一寡婦ナリ、故ニ其夫ハ既ニ死去シ自ラ衣食スルノ外其男子ノ爲ニ給養ノ勞ヲ執ラザルヲ得ズ、○自己及ビ其男子ヲ給養スルハ何故ニ困難ナリシヤ、

(彼ノ寡婦ハ貧窮ナリシ)、○彼ハ何ヲ以テ其男子ヲ養育シタルカ、○然ルニ彼ハ雷ニ其男子ヲ養育シタルノミナラズ、又能ク此ノ男子ノ爲ニ更ニ爲ス所アリシ、○果シテ何ヲ爲セシカ、(彼ハ其男子ヲシテ市中ノ學校ニ通學セシメタリ)、○是レガ爲ニ彼ノ寡婦ハ手仕事ヲ以テ辛ジテ得タル所ノ金錢ヲ多ク使用セザルヲ得ザリシ、○何故ニ彼ハ其男子ヲシテ日中家ニ歸ラザラシメシカ、○又何故ニ彼ハ其男子ヲシテ他人ノ家ニ行キ金錢ヲ出シテ食ヲ需メシメザリシカ、(彼ハ其費用ヲ支給スルニ堪ヘザリシ)、○之ヲ支給シ得ザリシガ故ニ彼ハ如何ニセシカ、○總テ此ノ母親ガ其男子ノ爲ニ爲シタルコトハ容易ノ事ニハアラザリシ、○宜シク考ヘ見ルベシ、彼ハ終日辛苦シテ紡績セザルヲ得ザリシノミナラズ、此ノ手仕事ノ外ニ食物ヲ調理シ日々遙カナル畑道ヲ往返セザルヲ得ザリシ、○蓋シ彼ハ之レガ爲ニ疲勞シタルコト屢次ナラン、然レドモ彼ノ心中ニ一物アリテ常ニ新鮮ナル氣力ト快樂トヲ附與シタルモノナリ、○此ノ一物トハ何ゾヤ、(母親ノ慈愛)。

彼ノ慈愛ト深切ナル仕事トハ決シテ無効ニ屬セザリシ、○吾人ハ之ヲ其男子ノ後日ノ運命ニ於テ見ルコトヲ得ル、○其運命果シテ如何ゾヤ、○此ノ男子ハ富裕ニシテ尊敬セラル、人ト爲レリ、○彼ガ宴席ニ於ケル舉動ヲ視テ之ヲ知ルベシ、○彼ハ來客ノ前ニ於テ杖ヲ見テ斯ク懷舊ノ情ヲ發セシカ、○彼ノ杖ハ何處ニ在リヤ、○彼ノ杖ヲ此處ニ掛ケ

置クモノハ屢々之ヲ見ルコトヲ得ルヲ以テナリ、○何故ニ彼ハ屢々好シク杖ヲ見、且ツ何事ヲ想起スルヤ、○幸福ヲ得タル後チ彼ノ舉動ハ如何、(溫和謙遜)。

彼ハ紡績臺ヲ見テ何ント云フカ、○彼ハ之ヲ見テ何ノ思想ヲ起スヤ、○即チ彼ハ其母親ガ彼ノ爲ニナセルコトヲ忘却セザラント欲スルモノナリ、(孝慈謝恩)。

來客モ亦皆紳士ニシテ美麗ナル衣服ヲ着シタリ、○此ノ衣服ト母親ノ服裝ト何レガ美ナルカラ比較セヨ、○然ルニ尙ホ彼ノ男子ハ母親ヲ衆客中ニ誘引シ來リタリ、○故ニ彼ハ其母親ノ質朴ナルコトヲ毫モ恥辱トセザルナリ、○唯ニ恥辱ト思ハザルノミナラズ、何處ニ母親ヲ著坐セシメタルカ、○何處ヲ以テ此ノ宴席ノ首位ト爲スカ、○即チ彼ハ其母親ヲ衆客ヨリ上席ニ着坐セシメタリ、○彼ハ其母親ヲ尊敬スルモノト謂フベシ。

母親及ビ其男子ノコトニ係ル詳説ヲ總括シ、吾人ノ談話シタル事項ノ題號ヲ撰定セシム。(例ヘバ記念男子、幸福ヲ得タル後ニ母親ノ恩義ヲ忘却セザル男子、母親ノ慈愛、若クハ孝子ノ謝恩等)。

(三) 比較

前ノ談話ヲ終ヘタルノ後、左ノ問答ヲ爲シ學兒ヲシテ其例證ヲ舉ゲサスベシ。

汝等ハ歴史(讀本或ハ談話)ニ依リ此ノ男子ガ其母親ニ對シテ爲セシガ如ク、己ノ父(母或ハ兩親)ニ善ク事ヘタル人ヲ知ルカ、○誰カ能ク斯ノ如クナリシゾ、○例證ヲ舉ゲヨ、○又汝等ハ彼ノ男子ノ如ク自カラ富裕トナリタル後ニ其父(母若クハ兩親)ノ幸福ヲ忘レザル者ヲ知ルカ、○何ニ依リテ彼ハ親ヲ孝愛スルコトト恩惠ヲ忘レザルコトヲ表示シタルカ、○老父ノ質朴ナルヲ以テ彼ハ衆人ニ對シテ恥カシク思ヒタルカ、○彼ハ如何ナル事實ヲ以テ其父ヲ愛敬シタルカ。

(四) 要譯

汝等モ亦右ノ如ク幸福ヲ得レバ汝等ガ地上ニ生活スル間ハ汝等ノ父母ヲ眞實尊敬シ、汝等ノ母親ノ苦辛ヲ忘却セズ、能ク次ノ歌ヲ讀記セヨ。

親ヲ敬マヘ終始ナク、
謝セヨヤ親ノ愛勞ヲ、
斯レバ地ニハ福ヲ得テ、
天ニハ眞ノ神ヲ見ン。

(五) 應用

汝等ハ予ニ示スニ尙ホ兩親ヲ愛シ且ツ敬マヒタルコト前ノ男子ノ如キ者數名ヲ以テスベシ。
 子トシテ兩親ヲ敬マフノ法如何、○後日兩親既ニ老ヒタル時ハ如何、○己レ兩親ニ比
 スレバ富貴ヲ得タル後、其質朴ナルヲ以テ他人ニ恥ヅルモノアレバ、此ノ人ハ如何ナル
 人物ト見做スベキヤ、○汝等若シ兩親ヨリ富貴ナル身ト成リタルコトアレバ如何ニ兩親
 ヲ取扱フヤ。

(六) 書取作文

- (一) 前談話中ノ文字ヲ書取ラシム。
 - (二) 衆客中ノ一人ニ代リテ彼ノ母子ノ履歷ヲ説ク。(作文題)。
 - (三) 前四圖ノ解説。
- 右ノ書取作文ヲ爲サシメタル後、更ニ次ノ問答ヲナスベシ。

(七) 文典

- (一) 第一文中ノ主客ハ何ンゾ、○文章ノ冒頭ニ如何ナル文字ヲ置クカ、○答詞中之ニ應ズ
 ル文字ニ揚音ヲ與フベシ、○貧窮ナルトノ文字ハ文章ノ何ント名クベキモノナルカ、○

如何ニシテ文章ノ副言^{フトリゴト}ヲ作り得ルカ、○形容詞ヲ以テ爲シタル他ノ副言ヲ示メセヨ、
 ○副言變ジテ容詞^{プレナカト}トナルガ如ク文章ヲ改作スベシ。

- (二) 該文中ニハ他種ノ言詞ヲ以テナシタル副言アリ、○斯ノ如キ副言ヲ探索セヨ、○彼ノ
 手ニ云々、彼ノ母親ナリシ云々、此ノ文章ノ副言ハ何ンゾ、(物主名詞)、○他種ノ代名
 詞ヲ以テナシタル副言ヲ示セヨ、(此ノ男子云々、予ハ此ノ杖ヨリ外ニ一物ヲモ有セザリ
 シ云々)、○右ノ文中ノ副言ハ何ンゾ、(指示代名詞)、○汝等ハ副言ノ種類幾多アルヲ知
 ルカ、○其種類ヲ問フ云々、農家ノ寡婦、○此ノ名稱ハ幾語ヨリ組織シタルモノカ、○
 單獨語トハ何ンゾ、(第二語ヲ冠ラシメテ一語トナスコトヲ解ケ)、○農家ノ寡婦トハ或
 ル農家ニ在ル寡婦ヲ云フ、○該文中他ノ集合語ヲ索メヨ、○(宴會、表座敷、杖、椅子
 覆、紡績臺、農民ノ服裝等)、○此等ノ語ヲ説明セシムル等ノコトヲ爲ス。

以上指示シタル一例ハ斯ク簡單平易ナル材料ナリト雖モ、便宜ナル方法ニ依リテ善ク之ヲ利
 用スレバ、以テ能ク高尚ナル教育ノ目的ヲ達シ得ルコトヲ知ラシムルニ足ルベシ。若シ其方法
 宜シキヲ得レバ、如何ニ簡單平易ナル讀物ト雖モ、理解、想像及ビ活潑等ノ如キ種々ノ精神力
 ヲ養成スルノ一助トナルベシ。前ニ示シタル讀物ヲ教ユルニ、實ニ前ニ陳ベタルガ如キ方法ヲ
 以テスレバ、理解力ヲ養成シ、想像力及ビ考察力ヲシテ常ニ活動練熟セシムルコトヲ得ベシ。

右ノ如キ教育法ハ學兒ヲシテ筆頭及ビ口頭ノ談ニ習熟セシメ、記憶力ヲ増シ、精神ト氣力トヲ奮起セシムルガ故ニ、學兒ハ好ンデ右ノ如キ善事ヲ爲サンコトヲ願フニ至ルヲ以テ、漸次ニ修身的ノ性情ヲ養成スルヲ得ベシ。總テ學兒ノ注意ヲ惹キ之ヲシテ倦マザラシムルガ如キ方法ニ依レバ、學兒ハ好ンデ之ヲ學ビ、文典ノ如キ普通兒童ノ倦ミ嫌フ所ノモノト雖モ亦能ク之ヲ習得スベシ。

他ノ教科書、殊ニ外國語及ビ歴史ヲ授クルニ右ノ如キ方法ニ從ハント欲スルニハ、應ニ如何ニスベキヤ、固ト此意見書ノ本旨ニアラザレバ今之ヲ贅セズ。

右授業ノ方法ニ於ケルト一般教科ノ秩序、日課ノ編成モ亦學童ノ精神力及ビ道德ヲ充分ニ發育セシメ、且ツ偏重偏輕ナカラシムルコトヲ以テ目的トスベシ。皇子ヲ教育スルコトモ亦他ノ兒童ヲ教育スルガ如ク、普通ノ教育ト專修ノ學科トヲ授ケザルベカラズ。然レドモ前ニ言ヘルガ如ク、凡ソ精神上ト修身上ノカトハ偏輕偏重ナカラシムルコトニ注意シ、可及的完全ナル普通教育ヲ施スヲ要ス。若シ完全ナル普通教育ヲ修メズシテ專門ノ學科ヲ習フモノハ、特別ナル生計上ニ局限セラル、ヲ以テ偏頗ニシテ不充分ナモノトナルベシ。最モ正確迅速ニ且ツ容易ニ專門ノ科ヲ修ムルコトヲ得ル者ハ必ラズ完全ナル普通科ヲ學ビタル者ニ限ルベシ。是レ教育學ノ全體ニ關スル原則ナリト雖モ、皇子ヲ教育セントスルノ目的益々高尚ナルニ從ヒテ、愈々其

緊要ナルヲ覺ユルナリ。成ルベクの完全ナル普通教育ヲ授クルコトハ、特ニ皇子タルノ位地ニ必要ナルノミナラズ、其職掌ニ對シテ缺クベカラザルノコトトス。皇子ノ專修科ハ兵事ノ外、可及的適切ナル行政學、財政學及ビ國家經濟學ナリトス。而シテ此ノ三學科ノ如キハ他ノ專門學ニ比スレバ成ルベク完全ナル普通科ヲ修ムルノ要多キモノトス。斯ク云フモ百般ノ事物ヲ悉ク知ラシメンコトヲ望ムニアラズ、人間ノ萬事ヲ網羅シテ悉ク之ヲ知了スルハ、最モ聰明ナル皇子ト雖モ能ク力ノ及ブ所ニアラザルナリ。故ニ就中皇子ノ判斷力及ビ考察力ヲ養成スルニ最モ必要ナルモノヲ拔撰シ、此ノ少數(然レドモ亦寡少ニ失スベカラズ)ナル教科ヲ充分ニ學習セシメ、且ツ教授ノ方法ヲ撰定シ、皇子ノ判斷力其他總テ精神力ヲ活動セシメ、神心及ビ理解力ヲ開暢シ、其修習スル以外ノ事物、事理ヲモ容易ニ自カラ理解シ得セシメザルベカラズ。普通科中ニ屬スル教科ノ中、歴史コソ皇子ヲ教育スルニ緊要ナルモノ多キガ如シ。「シセロー」ノ確言ノ如ク、歴史ハ理解力ヲ開發シ、神心ヲ高尚ニシ、思想ヲ鞭撻シテ正鵠ヲ失ハザラシムルモノナリ。實ニ歴史ナルモノハ記憶力ヲ鞏固ニシ、古今ノ事實、名稱、員數、狀態、原因及ビ結果ヲ記述シテ智識ノ材料ヲ増シ、目ニ見ルガ如ク明瞭ナル記事文ノ爲ニ想像力ヲ富マシ、判斷力ヲ強クシ、兒童ヲシテ善ヲ好ミ、惡ヲ忌ムノ氣力ヲ生ゼシメ、且ツ德育ヲ勸メ、英雄豪傑ノ事跡ヲ顯ハシテ或ハ興起シ、或ハ批評シ、或ハ賞罰ス。又歴史ハ吾人ニ現今ノ狀況ヲ示シテ

將來ノ成敗ヲ察シ、形勢ノ得失ヲ識ラシメ、彼ノ歴史ヲ知ラザル者ノ爲ニ起ル所ノ國政的ノ暴動ヲ豫防スルノ効アルモノナリ。

歴史ヲ知ラザル者、殊ニ古今萬國ノ關係ヲ知ラザル者ハ、多クハ新聞紙ヲ以テ民政的ノ自由主義及ビ民主政主義ノ如キモノヲ伸ベントラ試ミ、又歴史ヲ知ラズ、外國ノ事情ニ暗ラキ者ハ、過激ナル反對主義ノ新紙ヲ發行スルヲ常トス。故ニ善良ナル教育法ニ於テハ歴史ヲシテ中學教科中ノ主要ナル位地ヲ占メシム。

歴史ハ又吾人ニ示スニ吾人ノ先人、故國及ビ其狀況ヲ以テシ、吾人ヲシテ本國ノ沿革、發達如何ヲ知リ、能ク舊慣ヲ遵守シ、新問題ヲ理解スルコトヲ得セシムベシ。本國ノ歴史ヲ以テ他國ノ歴史ニ比較シ來レバ、吾人ノ祖先ガ恩德ヲ兒孫ニ遺シタルコトヲ知ルガ故ニ、濫リニ祖先ノ定メ置キタル秩序ヲ破壞セズ、現在ノ關係ノ爲ニ必要トナリタルモノハ慎ミテ之ヲ改良進歩スルニ至ルベシ。歴史ハ又個々人民ヲシテ、本國ノ公安ヲ維持スルニ必要ナル愛國心ヲ發生シ、且ツ之ヲ活潑ナラシム。抑モ愛國心ナルモノハ特ニ本國ノ德澤ニ浴シ、其恩賜ヲ享クルノミナラズ、此ノ福祉ヲ保護シ且ツ増加スルコトヲ謀ルモノナリ。

歴史ヲ教授スル者及ビ史冊ハ毫モ政黨ノ臭味ヲ帶ビズ、全ク政海ノ波瀾ヲ含マザルベキハ勿論ナリトス。然ルニ現ニ日本ノ諸學校ニ行ハル、英米二國ノ教科用ノ歴史ハ、爲ニ

スル所アリテ作りタル政黨ノ臭味ヲ帶ビタルモノ多キニ居ルガ如シ。

「ヘルベルト」氏曰ク、歴史ハ素ト人事ノ師ナリ。歴史ニシテ人事ノ師タルコト能ハザルハ歴史ノ罪ニアラズ、之ヲ教ユル者ノ罪ナリト。蓋シ至言ト云フベキナリ。

附録授業表ニ於テハ成ルベク充分ナル普通教育ヲ修メシメ、後日専門ノ科ヲ學ブコトヲ容易ナラシメント欲スルニアリ。此ノ授業表ヲ編成スルニ際リ、恰モ水面ニ石ヲ投ジテ生ジタル環線ノ如ク、漸次ニ擴張スベシトノ原則ニ從ヒタルモノナリ。故ニ最初ハ學兒ニ授クルニ各科ノ要領ノミヲ以テシ、漸次ニ之ヲ増大シテ終ニ深遠ニ達セシムルニアリ。而シテ此ノ原則ニ於テハ一學科ヲ修ムルニ當リテ、敢テ之ヲ他ノ學科ト隔離セシメズ、之ヲ他ノ學科上ニ誘導應用シテ、後ニ學ビタルモノト、前ニ習ヒタルモノトヲ照應セシメ、前ニ習ビタルモノヲ新鮮且ツ確固ニシ、後ニ學ビタルモノヲ前者ト結合セシムベシ。

教科ヲ撰拔シ且ツ其順序ヲ定ムルニハ皇子ヲシテ成ルベク充分ナル精神上ノ教育ヲ受クルノ側ラ、其國民中ノ上流ニ居ル者ノ固有スル多般ノ知識ヲ具ヘシムルコトニ注意スベシ。故ニ皇子ハ普ク日本及ビ支那ノ學ニ通ゼザルベカラズ。然レドモ悉ク其蘊奧ヲ極ムルガ如キハ敢テ皇子ニ望ムベキノ事ニアラザルナリ。

其他皇子ハ總テ政治的ノ關係ヲ明知シ、及ビ西洋諸國ノ人民ヲ觀察シ得ルニ必要ナル學識ヲ

有セザルベカラズ。皇子ハ又教育ノ爲ニ特ニ日本及ビ支那ノ關係ヲ知了シ得ルノミナラズ、成ルベク歐洲其他開明國人民ノ精神上及ビ政治上ノ生活ニ通曉セザルベカラズ。此ノ目的ヲ達スルニハ左ノ數項ヲ實施スルヲ要ス。

- (一) 一種(或ハ二種)ノ外國語ニ通ズル事。
- (二) 前文ニ示シタルガ如キ歴史或ハ他ノ原因ヨリシテ緊要ナル歴史ヲ成ルベク精細ニ修ムル事。

(三) 世界有名ナル文學家ノ顯著ナル詩文ヲ誦讀スル事。

(四) 歴史ヲ讀マシムルニ際シ、美術史(畫學ヲモ含有ス)ニ注目スル事。

(五) 世界ノ重要ナル開明諸國ヲ巡覽シ、其内ノ一個國ニ數月間滞在スル事。

圖畫、彫刻ノ術ハ、教育上一種ノ効力ヲ有スルモノナリ。畫學ノ教授、殊ニ圖畫ノ爲ニハ造化ニ注目スルノ念ヲ起シ、先ヅ色澤及ビ形狀ヲ視テ漸次ニ美麗ヲ好ムニ至ルハ人ノ熟知スル所ナリ。然ルニ日々座右ニアリテ目ニ觸ル、モノハ其效力更ニ僅々ノ畫學時間ニ於ケルヨリ大ナルモノアリ。故ニ皇子ノ居間ヲ裝飾スルニハ、最モ美麗ニシテ且ツ完全ナルモノノミヲ以テスベシ。即チ石膏製ノ肖像、印刷物、寫真ノ如キ、最モ精巧ナルモノタルベシ。斯ノ如クシテ漸次ニ美術的ノ精神ヲ發揚シ、成ルベク後日美術史ヲ修ムルノ豫備幫助ヲ爲スベシ。美術史ヲ修

ムルノ豫備トナスベキモノハ「ピユッツ」氏ノ教授用歴史ノ如キモノトス。

「ピユッツ」氏ノ教授用歴史兼地理書ハ、中學校及ビ職業學校ノ高等生ニ使用スルモノナリ、英、佛語ヲ始メ既ニ十一個國ノ語ニ翻譯セラレタルモノニシテ、側ラ容易ニ世界ノ文學及ビ美術史ヲ教ユルニ適當ナルモノナリ。

又教授用ニ供シテ好結果ヲ奏スベシト思考セラル、モノハ左ノ如シ。

「ゼーマン」氏ノ美術史的ノ畫圖及ビ「スプリングル」氏ノ之ヲ増補シタル畫圖及ビ説明書。

「リユーベック」氏及ビ「リユツツオール」氏ノ美術ノ記念碑ト題セル畫圖。

「エルメンゲ」氏ノ古代美術教授用畫圖(千八百八十年「ライプチヒ」府出版)。

「ラインハルド」氏ノ初學古代一覽圖(「スツットガルト」府、「ホフマン」氏出版)。

「ワイセル」氏ノ歴史、圖畫等トス、右ノ外暗室内ニ於テ示視スベキ透明ナル圖畫ノ美術史教授用ニ供スベキモノアリ。

讀書、習字、又日本、支那ノ語學及ビ文學ニ至リテハ、予ハ之ヲ他ノ日本ノ授業表ニ比較シテ、附録ノ授業表ニ掲ゲタル時間ヲ以テ皇子ヲシテ能ク此ノ主要ナル科目ニ概通セシムルニ充分ナルベキヲ信ズルナリ。若シ此ノ時間ニシテ尙ホ不足ナリトスレバ、表中(八)ノ條中ニア

ル本邦地理ノ四時間ヲ三時間ニ、(七)ノ條中ニアル乘馬ノ三時間ヲ二時間ニ、及ビ(六)ノ條中ニアル唱歌ノ二時間ヲ一時間ニ減少スルコトヲ得ベシ。更ニ他ノ時間ヲ減縮スルハ予ノ見ル所ニ於テハ出來ベカラザルノコトトナス。止ム無ケレバ授業時間ヲ増加スルノ外ナキナリ。其外日本及ビ支那ノ習字ニハ永キ休業ノ一部分ヲ以テ之ニ充ツベシ。今茲ニ一言スベキコトアリ、即チ李國皇子ノ休業期ハ附録ノ授業表ノモノニ比スレバ更ニ短カキノ一事ナリトス。

實物ノ注視ハ談話ノ熟練及ビ談話ノ理解ヲ促進セシメ、兒童ヲシテ多數ノ實物ヲ目撃シテ博物史、地理學及ビ歴史科ヲ學ブノ準備ヲ爲サシムルモノナリ。其教科用ニ供スベキモノモ亦寡ナカラズ。今其二三ヲ舉グレバ、「ハルデル」氏ノ理論實際注視學必携(「アルトナ」府出版)。「クナウス」氏ノ第一學年(「スツットガルト」府「リーシング」氏ノ出版)。「チエー、リヒテル」氏ノ普通科注視學(「ライプチヒ」府「ブレンドステツテル」氏ノ出版)。「ウイードマン」氏ノ注視學材料(「ドレスデン」府「マインホルド」氏ノ出版)。「ユツチング」及ビ「ウエーベル」氏ノ注視學教授書、其他「ウキルチ」氏注視學圖畫(「ブラウンシュワイヒ」府「ウキンテン」氏ノ出版)。「ストリユービング」氏ノ畫圖六枚(伯林府「ウキンケルマン」氏ノ出版)。「シユライベル」氏ノ畫圖(「エツスリゲン」府出版)。「ロイテマン」氏ノ動物圖十五枚(「ライプチヒ」府「ワクスムート」氏ノ出版)。「ウエー、バイフェル」氏ノ注視學用畫圖(「ゴータ」府「ホルテス」氏ノ出版)。

注視學初步用畫圖(「ミュンヘン」府「ゲルデル」氏ノ出版)。「シユルツ」氏ノ學校及ビ家庭教育用掛圖(漢堡港「ヘルワルト」及ビ「ヒケーン」氏ノ出版)。

算數學ニ於テハ定數ノ計算及ビ之ヲ實地普通ノ關係上ニ應用スルコトヲ教授スベシ。普通ノ算術ハ對數及ビ級數ニ止メ、代數學ハ二次方程式ヲ限リトス。其他平面立體幾何及ビ平面三角術ヲ教ユ。(六)ノ條中ニ於テハ、每週四時ノ中一時間ヲ以テ幾何畫學ヲ授ケ、規矩ヲ以テ種種ノ物體ヲ描クコトヲ教ユベシ。此ノ方法ニ依レバ、他日幾何學ヲ習フノ裨益トナルベシ。算術ノ時間中幾何學ハ(五)、算術ハ(四)ノ學期ヨリ之ヲ始ムベシ。然ルニ算數ハ通常兒童ノ之ヲ學ブコトヲ好マザルモノナリ。若シ皇子モ亦之ヲ修ムルノ念薄ケレバ、少シク幾何、三角ノ二課ヲ斟酌輕減シ、平面立體幾何學ノ綱領及ビ平面三角術ノ初步ヲ熟知セシムルコトヲ以テ満足スベシ。此ノ場合ニ於テハ(二)及ビ(三)ノ條中、算數ノ四時間ヲ改メテ三時間トナシ、其空虛トナリタル時間ニハ歴史ヲ授クルヲ良シトス。

博物史ニ於テハ各植物ノ觀察及ビ解説緊要ナル植物科目及ビ植物ノ生活上著明ナル顯象ヲ教

エ。各科動物ノ主眼タルモノノ觀察及ビ解説、哺乳獸及ビ無血虫類ノ重要ナル種類又ハ人體ノ構造、單一ナル結晶形及ビ緊要ナル鑛石類ヲ教ユベシ。

貴重ナル稼穡植物ノ蓄殖法及ビ其人類ニ及ボス効力ヲ教ユルハ最モ必要ナリトス。是レ元來博物學ノ時間ニ授クベキモノナレドモ、亦能ク之ヲ地理學ノ時間ニ教ユルコトヲ得ベシ。又植民ノ何者タルコト、交通ノ景況及ビ各國人民ノ間ニ存スル商業、風俗、政治的ノ關係如何ヲ知ラシムル等ハ、本邦ノ產物ヲ觀察スルト同ジク博物學ノ時間ヨリ寧ロ地理學（一部分ハ歴史學）ノ時間ニ於テスルヲ可トス。博物學ノ教課用書ハ「フヒクトール、ヘーン」氏ノ稼穡植物兼家畜書ト題スルモノヲ適當トス。

物理學及ビ化學ノ授業上ニ望ム所ト逐一實地ノ試驗ヲ示シ、物體ノ沉性、平均力、運動力、電氣力、磁石力、溫熱及ビ光學、音學ノ原則ヲ知ラシメ、著明ナル化學原素ト其主要ナル化合物ヲ教ユルニアリ。物理學ニ於テハ又必要ナル數學的地理學ヲモ講ズベキナリ。

本邦地理、普通地理及ビ歴史。本邦地理學ハ普通地理學ノ原基トナルモノニシテ、日本内地ノ大要ヲ示シ、史乘、口碑ニ傳ハリタル說話ヲ教ユルモノトス。「コルンワルド」氏ノ本國地理書及ビ「フヒンゲル」氏ノ本國地理提要ノ如キ以テ此ノ授業上ノ參考ニ供スベキモノナリ。

(六)ノ條中ニアル地理學ハ數學的地理學ノ材料(最モ緊要ナルモノ)及ビ五大洲中ノ主要ナル事ヲ教ユ。

(五)ノ條中ニ於テハ亞細亞及ビ歐羅巴、(四)ノ條中ニ於テハ阿弗利加、阿墨利加及ビ濠太利、(三)ノ條中ニ於テハ亞細亞及ビ歐羅巴、(二)ノ條中ニ於テハ阿弗利加、亞墨利加及ビ濠太利ノ部ヲ授ケ、(三)及ビ(二)ノ學期ニ於テハ(四)(五)ノ學期ニ於テ學ビタルモノヲ復習セシメ、且ツ諸國ノ緊要ナル天產物、貿易、工業、運輸、宗教等ノ概要ヲ授ク、(一)ノ條中ニ於テハ理學的及ビ數學的ノ地理ヲ復講増補シ、(此ノ場合ニハ又物理ノ時間ヲ使用スルコトヲ得ベシ)、天文學ノ初步及ビ日本ノ詳細ナル地理、天產物、工業及ビ商業ノ景況ヲ示シ、日本ト交通スル主要ナル貿易場(該地ノ工業、商業及ビ沿革史ノ大要)、日本ニ通航スル蒸氣航路、南洋諸島ノ植民地及ビ物產、日本及ビ支那ニ行ハル、宗教(神道、佛道、耶蘇教、回々教等)沿革史ノ大要ヲ教ユ。皇子ヲシテ習學ヲ容易ナラシムルガ爲ニ前ニ示シタルガ如キ注視ノ材料ヲ可及的多ク使用スベシ。今其適當ナルモノヲ舉グレバ、「ランゲ」氏ノ插畫地理書(「スツットガルト」出版)。「ブロンメ」氏ノ插畫掌中地理(「スツットガルト」出版)。「フォン、ラウクハルド」氏ノ地球圖(「フォイグト」及ビ「ヒギユルテル」氏出版)。「ロイテマン」及ビ「ワグネル」氏ノ地球諸帶ノ圖(「スツットガルト」出版)。「ヘルツェル」氏ノ油繪版世界風俗圖、「ラーペル」及ビ「ヒルードウキヒ」氏ノ地學掛圖(「ドレスデン」府「フェルジナント」氏出版)。「ブライシンゲル」氏ノ天文透視圖、地理學教授用圖(「エツスリンゲン」府「シユライベル」氏ノ出版)。「ラーツ」氏ノ突起地圖(柏林府「ケルネル」及ビ「ギーセマン」氏ノ出版)。高低地圖(奧國政

府教育書出版局發兌)。「エル、タイヒマン」氏地理教授用突起地圖(「ライプチヒ」府「エツケルライン」氏出版)。其他注視用ニ供スベキモノハ各人種ノ模像、外國人民ニ固有ナル器具、產物ノ模型、家屋ノ雛形等トス。

歷史。(六)ノ條中第一期及ビ第二期ニ於テハ「スターケ」氏ノ歷史ニ依リ、太古、中古ノ傳記及ビ萬國史ヲ講ジ、第三期ニ於テハ日本歷史ヲ學バシム。「スターケ」氏ノ歷史ハ小冊子ナレドモ亦充分ニ此ノ目的ヲ達スルニ足ルモノナレバ、之ヲ日本語ニ翻譯シテ皇子ノ參考書ニ供スベシ。總テ歷史上ノ評論等ハ書籍ニ就カズ、教師之ヲ講述シ、皇子ヲシテ之ヲ聽カシムベシ。皇子ハ更ニ參考書ニ就キ次回ノ歷史時間迄ニ之ヲ考究シ置キテ、其時間ノ初メニ之ヲ復講スベシ。若シ其復講中修正スベキ點或ハ不充分ナル廉アレバ、其復講ノ終ルヲ俟テ質問法ニ依リテ教師之ヲ訂正補充スベシ。(五)ノ條中第一期、第二期ニ於テハ「スターケ」氏ノ歷史ニ基キ近世史ヲ授ケ、第三期ニ於テハ日本歷史ヲ教ユ。(四)ノ條中ニ於テハ「ピニツク」氏ノ歷史ニ從ヒ太古史ヲ講ジ、(三)ノ條中ニ於テハ中古史ヲ讀マシメ、三十年戰ニ至リ、(二)ノ條中ニ於テハ三十年戰以降現今ニ至ル近世史ヲ授ク、共ニ「ヒユツツ」氏ノ歷史ニ依ル、歷史ノ教授ハ總テ日本語ヲ以テスベシ。「ヒユツツ」氏ノ歷史提要(獨文、佛文及ビ英文ノモノアリ)ハ之ヲ日本文ニ翻譯スルカ或ハ豫ネテ皇子ノ習ヒタル外國語ヲ以テ著述シタルモノヲ參考書トシテ

皇子ニ渡シ置クベシ。其他前ニ示シタル注視ノ材料ヲ使用スベシ。(一)ノ條中ニ於テハ精細ナル日本歷史ヲ專修セシム。前ニモ云ヘルガ如ク外國語ヲ以テ著述シタルモノヲ除クノ外、總テ歷史ヲ講ズルニハ日本語ヲ以テスベシ。

唱歌。音樂ヲ教ユルノ初步ハ先ヅ唱歌ヲ教ヘ、之ガ爲ニ聽感ヲ育成スルニアリ。唱歌ハ兒童ノ精神裏ニ美音及ビ調音ヲ感ズルノ機能ヲ生ジ、高雅ナル觀察ト思想トヲ養成スルモノナリ。又皇子ニ教ユルニ主要ナル樂器ノ名稱及ビ簡單ナル説明ヲ以テスベシ。

體育中主位ヲ占ムルモノハ體操ナリ。體操ハ身體ノ各部ヲ一樣ニ發育セシメ、健康ヲ増シ、體軀ヲ強壯ナラシム。體操モ亦舞蹈ノ如ク身體ノ形容ヲ美ニシ、力ヲ發育スルニ偏頗ナク、總テ敏捷活潑ヲ増シ、體軀ハ愉快ナル運動ト容姿トノ爲ニ大ニ觀美ヲ勸ムベシ。唯ダ注意スベキハ皇子ヲシテ同一ナル體操ヲ爲スコト永キニ過ギテ甚シク疲勞セシメザルノ一事ナリ。過度ノ疲勞ハ大ニ健康ヲ害スルモノナレバナリ。故ニ適宜ニ運動法ヲ更換シテ身體ノ各部ヲ一樣ニ練操セシムルヲ要ス。

舞蹈ノ稽古ヲ始ムルハ決シテ附錄授業表ニ掲ゲタル時ヨリ遅カルベカラズ。而シテ皇子ヲシテ早くヨリ同年齡或ハ少シク幼稚ナル女兒ト平意淡泊ナル交際ヲ爲スコトニ習ハシムルヲ要ス。皇子ハ舞蹈ヲ學ブノ側ヲ威儀ヲ正スノ教ヲ受クベシ。此ノ舞蹈ハ常ニ教育タルノ性質ヲ失

ハシメズ、全ク蹈舞會ト分別スベシ。假令蹈舞會ヲ催スモ蹈舞ノ稽古ヲ卒ヘタル後、毎年休業期內ニ一回ヨリ多カラザル蹈舞ヲ爲シテ夜ニ入ルガ如キハ、皇子ニシテ尙ホ學校ノ教育ヲ受クル間、即チ八歳以下ノ時ハ嚴ニ之ヲ禁ゼザルベカラズ。又此ノ間ハ決シテ成長シタル者ト蹈舞シテ樂ムコトヲ許スベカラズ。

外國語。學齡內、即チ十七歳迄ハ皇子ハ唯ダ一種ノ外國語ヲ學ブベシ。然ルニ皇子ニハ少ナクモ二種以上ノ外國語ニ通ゼラレンコトヲ希望ス。皇子ニシテ最初能ク一外國ノ語ニ熟スルニハ附録授業表ニ掲ゲタル外國語ノ時間ヲ以テ充分ナルベシ。果シテ能ク一外國ノ語ニ熟スレバ、僅々一二個年ニシテ第二ノ外國語ヲ容易ニ學ブコトヲ得ベシ。第二ノ外國語ニシテ極メテ容易ナル國語、即チ英語ナレバ殊ニ然リトス。元來英語ハ最初獨語及ビ佛語ヲ學ビタル者ノ爲ニハ之ヲ學ブニ容易ナルモノナレドモ、英語ヲ學ビテ然後ニ獨語或ハ佛語ヲ學ブハ右ノ如ク容易ナラズトス。七個年ノ間毎週五時間外國語ノ教授ヲ受ケタル後ハ、平凡ナル兒童ト雖モ、佛語殊ニ獨語ニ親近ナル英語ハ暫時ニシテ容易ニ之ヲ學ブコトヲ得ベシ、是ノ故ニ皇子ニシテ幸ニ二種ノ外國語トナシ、先ヅ獨語或ハ佛語ヲ習フベシ。其ノ獨、佛何レヲ取ルベキヤハ皇子ガ他日歐洲ノ何レノ國ニテ大學ニ通學シ、且ツ其ノ十九歳乃至二十歳ノ時巡廻旅行ヲ爲スニ際リ、何レノ國ニ止マリテ制度、文物、兵制等ヲ研究セント欲セルヤニ從ヒテ之ヲ定ムベシ。而シテ

其ノ留學シ或ハ滞在セント欲スル所ノ國語ハ成ルベク幼稚ナル時ヨリ之ヲ學ビ、充分ニ其語學ニ熟練スルヲ要スルハ論ヲ俟タザルナリ。外國語ヲ教ユルノ方法如何ハ、大ニ精神力ノ發達ニ關係ヲ有スルモノナリ。故ニ最初ヨリ最モ茲ニ注意シ、精細ノ科目表ヲ確定シ置キ、且ツ兒童ヲシテ好シク之ヲ學バント欲スルノ念ヲ起サシムルガ如キ方法ニ依ラザルベカラズ。外國ノ語ヲ修ムルニハ、通常精神ヲ勞スルコト非常ナルモノナレドモ、斯ノ如クスレバ兒童ハ其困難ヲ感ズルコト寡ナカルベシ。既ニ初學年ノ後半期ニ於テハ外國語學ヲ習フノ側ラ外國語ヲ以テ記載シタル面白キ讀本ヲ外國語ニテ解説セシムルコトヲ始メ、夫ヨリ後ハ各學期中語學ヲ學ブノ側ラ常ニ讀本ノ解説ヲ爲サシム。外國語ノ教師ハ成ルベク充分ニ其語ニ通ジ、教育上ノ經驗ヲ有シ、授業ノ方法ヲ解スル所ノ日本人タルベシ。(二)及ビ(一)ノ學別ニ於テハ、外國教師ニ就カシムルモ可ナリ。夫ヨリ以前外國人ニ就キ語學ヲ習ハシムルハ、多クモ夏期ノ休業中ニ限ルベシ。

美術史ノ事ハ前文既ニ之ヲ論ジタリ。世界文學中皇子ノ修ムベキモノハ開明諸強國ノ有名ナル著述家ノ傑作トス。萬國史殊ニ「ピユッツ」氏ノ教授書ヲ使用スレバ、大ニ世界文學ヲ學ブノ豫備トナルベシ。又有名ナル音樂學士ノ姓名及ビ著作ヲモ知ラシムルヲ要ス。

哲學初歩ノ時間ニハ論理學ノ主點及ビ心理學ノ提要ヲ授ケ、且ツ哲學史ノ總論ヲ講ズ。其用

書ハ「テーハー、ルンベル」氏ノ哲學初歩ヲ良シトス。

前ニ示シタル如ク一學年ノ授業日數ハ三十九週日ニシテ、他ハ休業期トナス。一學年ノ授業期ヲ三期ニ別ツ、第一期ノ十三週日ハ一月初旬ニ始マリ四月初旬ニ終リ、第二期ノ十二週日ハ四月中旬ヨリ七月中旬ニ至リ、第三期ノ十四週日ハ九月ヨリ十二月ニ至ル。第一期ノ末ニ筆頭及ビ口頭ノ試験ヲ施シ、第二期ノ終リニハ試業ヲ爲サズ、第三期ノ末ニ一學年中ニ習讀シタル學科ノ大試験ヲ行フ。

四月及ビ十二月ノ小休業中ハ全ク學課ヲ廢シテ身心ヲ保養セシメ、夏日ノ大休業期中ニハ多ク體育ヲ施シ、皇子ノ内地ヲ旅行スル時ヲ除クノ外ハ每週四時間乃至六時間外國語學ヲ實習セシメ、且ツ每週六時間ハ學科上殊ニ日本及ビ支那學ノ缺ヲ補ヒ、或ハ自修ノ時間ニ供スベシ。自修時間ニハ他ヨリ之ヲ檢束セズ、皇子ヲシテ其欲スル所ノ書ヲ讀マシムベシ。十四歳乃至十六歳ニ至レバ、又「ブルータルヒ」氏ノ傳記ヲ讀マシムルコトヲ試ムベシ、(豫ネテ此ノ書ヲ日本文ニ翻譯シ、美麗ナル畫圖ヲ挿ミ、皇子ノ座右ニ備ヘ置クベシ)、此ノ書ハ恰モ十四歳乃至十六歳ノ時ニ當リ、教師ガ教育保佐スルコトニ困却シタル歐洲ノ君主モ、好ミテ之ヲ讀ミタル者多キハ世人ノ熟知スル所ナリ。此傳記中傑出シタル書ハ獨逸語ニ翻譯シタルモノニシテ「フオン、アイト」氏ノ「ブルータルヒ」氏ノ傳(千八百六十九年「スツツトガルト」府出版)ト

ス。其他休業期中ニハ平生其暇ナクシテ爲スコト能ハザル運動及ビ遊戲ヲ爲サシム。附録授業表中ニ記載シタル副課時間トハ、教師ヨリ問題ヲ與ヘテ其答ヲ作ラシムルノ時間ニシテ、素ヨリ教師ニ大概ヲ示シタルニ過ギズ。畢竟皇子ハ之ヲ完了スルマデ就業セザルベカラズ。故ニ何時間ニ之ヲ爲スベシトノコトハ皇子ニ告グルノ限リニアラズ。此ノ時間ハ其學期内ノ教科ノ時間ノ如ク確定シ置クベシ。帝國ノ學校ニ於テハ問題ヲ與フルコト每週四回ニシテ、毎日授業中ニ之ヲ授ケ、決シテ翌日ノ宿題トナスコトナシ。皇子ヲシテ此ノ問題ノ答詞解説ヲ作ルニ美麗ト深切ト迅速トノ三者ヲ兼スルコトニ慣レシムベシ。若シ其答詞解説ニシテ不可ナル時ニハ之ヲ再製セシム。最初ヨリ斯ク嚴格ニスレバ、皇子ハ速カニ之ニ慣レテ美麗、深切、迅速ノ三者ヲ兼備スルニ至ルベキナリ。然レドモ十五分時間ト定メタルモノト雖モ、問題ノ難易ニヨリ一二分時間ヲ超過スルガ如キハ決シテ妨ゲザル所ナリ。

皇子ガ其十六歳乃至十七歳ノ時迄附録授業表ニ基キ學校内ノ教育ヲ受ケ、其間ハ歐洲諸國、殊ニ帝國ノ習慣ノ如ク皇子タルノ資格ヲ以テ公衆ニ接スルコトヲ絶チ、普通ノ兒童同様ナル取扱ヲ受ケタル後、即チ十九歳乃至十八歳ヨリ凡ソ三箇年ヲ以テ獨立ノ生涯ニ移ルノ期トナス。十七歳乃至十八歳ニシテ始メテ兵事ノ教育ヲ受ケ、滿一個年實役ニ就キ、殊ニ全然職務ヲ執ラシメラル、コト他ノ少年武官ニ異ナルナカルベシ。又同時ニ少シク兵學ノ理論ヲ學ブ。又其既

ニ學ビ得タル所ノ外國語ヲ實際ニ使用シ、成ルベクハ此ノ時ニ於テ第二ノ外國語ヲ學ブコトヲ始ムベシ。然レドモ此ノ際ハ尙ホ深ク兵學ヲ修ムルコトヲ望ムベカラズ。最良ノ武官ト呼バルル者ト雖モ、其成年ニ達シ兩三年勉強シテ實役ニ就キタル後ニアラザレバ深ク兵學ヲ研究スルコトヲ爲サルヲ常トス。皇子ノ奉ズベキ實地ノ職務ハ以テ能ク軍人ノ辛苦ヲ察スルニ足ルガ如キ位地タルベシ。此ノ場合ニ於テモ亦學校的ノ教育年限中ト同ジク、無限ノ從順ヲ務メ、服役中ハ全ク皇子タルノ資格ヲ離レザルベカラズ。然レドモ職務以外ニ於テハ漸次ニ宴席、集會等ニ臨ムコトヲ習フベシ。此ノ時ヨリシテ新聞紙モ亦皇子ノ舉動ヲ記載スルコトヲ始ムベシ。

十八歳乃至十九歳ニ至レバ皇子ハ又勉メテ精神上ノ仕事ヲ爲スベシ。六週日乃至八週日軍務ニ從事スルノ外（蓋シ大觀兵式、大演習ニ際スル時）大學校ニ入り、每週三時間開化史、六時間乃至八時間法律學及ビ經濟學ノ講義ヲ聽聞スベシ。且ツ皇子ハ其交際ヲ博クセンガ爲ニ勉メテ種々ノ社會ヨリ出テ種々ノ學科ヲ修ムル學生輩ト多ク交ハルベシ。此時ニ於テハ專ラ第二ノ外國語ヲ學ブニ力ヲ盡シ、大學校ノ講義ヲ聽聞スルノ外、皇子ハ講義中ニ於テ聽キタル所ノ事物ヲ論ジタル書ヲ自修スルコトヲ勉ムベシ。此ノ年ヤ恰モ皇子ガ深ク意ヲ學術的ノ研究ニ注ギ、精神的ノ仕事ヲ爲スノ時ナルヲ以テ、祝日或ハ快樂ノ爲ニ貴顯ノ集會ニ參スルコトハ斟酌シテ成ルベク稀レナルヲ要ス。

十九歳乃至二十歳ニ至レバ、皇子ハ世間及ビ人事ニ關スル知識ヲ擴張シ、其學識ヲ増加センガ爲ニ暫ク歐洲ニ滞在シ、且ツ世界ヲ一周スベシ。是レ亦一個年ヲ要スルノ研究ナリトス。此ノ際外國（歐洲）ノ一大學校ニ通學スルハ、蓋シ緊要ナルコトナルベシ。元來大學校ノ聽講ハ成ルベク永キヲ可トスレドモ、時日ニ限リアレバ皇子ハ二個月半乃至三個月ヨリ久シク大學校ニ通學スルコトヲ得ザルベシ。其後ノ二三個月ハ以テ皇子ガ大學聽講ヲ爲シタル國ノ兵事、政治、行政的ノ組織如何ヲ充分ニ研究解得スルコトニ使用スベシ。斯ノ如クシテ皇子ガ可及的精細ニ該國ノ政府及ビ社會ノ狀況ヲ知了シ得タルノ後、更ニ歐洲二三ノ國ヲ巡廻シテ其世間人事ニ關スル知識ヲ博クスベシ。此ノ二三ノ國ノ狀況ヲモ深ク研究スルハ短カキ時日内ニ皇子ニ望ムベキニアラズ。然レドモ最初皇子ガ或ル一國ニ於テ其政府及ビ社會ノ形勢ヲ發覺實驗シ得タル後ハ、速カニ他ノ諸國ノ之ト異ナル所ノ點ヲ見出スコトヲ得ベシ。最初一國ノ事情ヲ知ルコト益々精密確實ナレバ、他國ノ特異ナル諸點ヲ發見スルコト愈々速カニシテ且ツ易カルベシ。許多ノ國ヲ廻覽シテ唯ダ其表面ノミヲ通知スルハ、一國ノ形勢ヲ熟知スルニ如カザルヤ遠シトス。要スルニ此ノ旅行中ハ皆常ニ皇子ハ何ノ爲ニ世界ヲ一週セラル、ヤ、其ノ本來ノ目的ヲ忘レザルヲ要ス。此ノ舉ヤ八方ヨリ利益ヲ收ムベキ皇子ノ貴重ナル研究旅行ナリ。數十日ノ航海ノ如キモ亦以テ皇子ノ地理及ビ人種學ノ知識ヲ新鮮ニシ、且ツ之ヲ擴張シ、數學及ビ天文學ノ

知識ヲ喚起シテ之ヲ確固ニシ、或ハ多少航海術ヲ理解セシムルニ足ルベシ。英國皇太子ノ諸皇子ガ世界ヲ週遊セラレタル後、著述出版セラレタル書、及ビ奧國皇太子ガ出版セラレタル書、(李國ノ朝廷ニ於テハ皇族ノ著述等ヲ世ニ公ニスルヲ好マズ)ヲ見ヨ、斯ノ如キ旅行ハ知識ヲ擴張スル所以ノモノニ於テ如何ノ好結果ヲ呈スルヤ、又歐洲諸國ノ皇子等ガ斯ノ如キ旅行中如何ニ勉強セラレタルヤヲ知ルニ足ルベキナリ。

一個年乃至一個半年ヲ經テ皇子ガ世界一週ヲ了リ歸國セラレタル後ハ、皇子ニ勸ムルニ大學教授ヲ以テ組織シタル委員ノ學術試驗ヲ受ケラレンコトヲ以テスベシ。此ノ試驗合格ナレバ博士ノ學位ヲ呈スベシ。博士ノ學位ヲ得ラレタル後三四個月ハ復タ實地ノ軍務ニ從事シ、其後凡ソ八個月乃至十二個月間行政ニ從事シテ實地ニ之ヲ研究シ、然ル後漸次ニ高尚ナル兵學及ビ政治學ヲ研究セラレベキナリ。

授業表 (表中ノ數字ハ每週ノ時間ヲ示ス)

至七歲	十
八歲乃	九
至八歲	八
至九歲	七
乃九歲	六
至十歲	五
至十歲	四
乃十一歲	三
至十一歲	二
至十二歲	一
乃十二歲	
至十三歲	
至十三歲	
乃十四歲	
至十四歲	
乃十五歲	
至十五歲	
乃十六歲	
至十六歲	
乃十七歲	
至十七歲	

修	讀	習	算	注	本	外	地	歷	博	物	化	哲	美
身	書	字	術	視(實物)	邦	國	理	史	史	理	學	學	術
支	日	那			地	語	學	學	史	史	學	初	史
本	本				理								
一	六	四	四	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	六	四	四	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	五	四	四	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	五	二	四	三	六	一	一	一	二	一	一	一	一
一	五	一	四	一	一	一	一	一	四	三	一	一	一
一	四	一	四	一	一	一	一	一	二	三	一	一	一
一	四	一	四	一	一	一	一	一	二	二	一	一	一
一	四	一	四	一	一	一	一	一	四	二	一	一	一
一	四	一	四	一	一	一	一	一	四	二	一	一	一

每週授業時間總數	乘	體	蹈	操	泳	擊	唱	圖	世
	馬	操	舞	舟	游	劍	歌	畫	界文學
二〇		二							
二二		二							
二四		二							
三〇	三	二						二	
三二	二	二	(二)		二		二	一	
三二	二	二	(三)	二	一		一	一	
三二	二	二	(二)	二			一	一	
三一	二	二						三	
三二	二	二				二			
三二	二	二				二			二

泳游及ビ操舟ハ夏時ニ於テ之ヲ教授シ、冬日ハ之ニ代ユルニ蹈舞ヲ以テス。而シテ其副課ノ時間ハ七歲乃至八歲、八歲乃至九歲ハ十五分時間宛四回、九歲乃至十歲、十歲乃至十一歲ハ半

時間宛四回、十一歲乃至十二歲、十二歲乃至十三歲ハ一時間宛四回、十三歲乃至十四歲、十四歲乃至十五歲ハ一時半宛四回、十五歲乃至十六歲、十六歲乃至十七歲ハ二時間宛四回トス。

毎年修學日數ハ三十九週日ニシテ、他ハ休業期トス。一學年ヲ分ツテ十三週日、十二週日及ビ十四週日ノ三期トス。

十七歲乃至十八歲ニ至レバ軍事上ノ教育ヲ授ケ、實際職ニ就カシメ習得シタル所ノ外國語ヲ使用セシメ、第二ノ外國語ヲ學ブノ端緒ヲ開カシム。

十八歲乃至十九歲ニ於テ東京大學校ニ至リ開化史、法律學及ビ經濟學ノ講義ヲ聞カシメ且ツ第二ノ外國語ヲ學バシム。

十九歲乃至二十歲ニ至レバ世界ヲ週遊シ、歐洲ノ一國ニ滯留シ其大學ニ通學セシム。

二十歲乃至二十一歲ニ於テハ行政ノ職務ニ從事シ、兵學ヲ修メシムル等ナリ。

日本儲君明宮嘉仁親王殿下ノ御事

日本皇帝ノ皇子達ノ中ニ現在シ給ヘルハ、今唯ダ明宮嘉仁親王及ビ久子内親王ノ兩殿下アルノミ。明宮殿下ハ千八百八十八年八月三十一日第九回ノ降誕式ヲ舉行シ給ヒテ、將來日本國皇帝ノ大位ニ登リ給フ可キ儲君ニシテ、久子内親王ハ寶齡三歳ニマシマス。古例ニ依レバ皇女ノ日本帝位ヲ踐ミ給ヘルコトアレドモ、今時ニ在ツテハ寶祚ハ明宮殿下ヨリ漸次 皇帝ノ從兄弟ニ及ボシ、男系ノ皇男之ヲ繼承シ給フコトハナレリ。

明トハ日本語ニテ春ノ意味ニテ、前年崩御シ給ヒタル昭子内親王ノ昭トハ即チ秋ノ意義ナルガ故ニ、宮中ニ於テモ此兩殿下ヲ稱シテ春王、秋王ト曰ヒ、屢々雅歌ニ之ヲ頌詠シテ趣アル話柄トセリ。明宮殿下ニハ東京ノ宮中ニ於テ降誕シ給ヒ、寶齡二歳ニ成リ給フマデハ中山屋敷トテ周圍ハ黒キ塀ヲ施シ、一方ハ城池ニ面シタル一ノ邸宅ニ於テ乳母ノ手ニ生長シ給ヒ、後、皇太后ノ宮殿ニ移ラレ、今日ニテハ 皇帝ト共ニ御同居シ給フ。業ニ落成シタル東京ノ新皇居

中ニハ、別ニ小宮殿ヲ構ヘテ此ノ兩殿下ノ晏居ノ所トセリ。

日本現時ノ 皇帝陛下ハ曾テ猶ホ列祖列宗ノ如ク京都ノ宮殿ニ在セシヲ以テ、千八百六十七年寶祚ヲ履セ給ヒタル時ハ、纔カニ寶齡十五歳ニアラセ給ヒ、今日儲君明宮殿下ノ自由ニ宮外ニ逍遙シ給フト大ニ其境遇ヲ異ニセラレ給ヒタリ。今上帝ノ幼時ハ日本在來ノ經籍ノ研究及ビ世界各国何レノ宮中ニモ行ハル、所ノ儀式上大典ノ研究ニ從事シ、日月ヲ消光シ給ヒシノミニテ、歐洲各國ノ皇帝及ビ太子等ノ日々ノ生活トハ稍ヤ其ノ境遇ヲ異ニシ給ヒタリ。偶々外出シ給フ事アルモ、帷簾深キ鑿輿ノ中ニ晏居シ給フテ、纔カニ殿堂及ビ閑靜ノ地方ニ向ムセララルニ過ギズシテ、身ニハ常ニ綿綉ヲ加ヘタル長袖ノ御衣ヲ着ケサセ給ヒ、許多ノ儀從ヲ召具シ給ヒテ數歩ノ外ニ出サセ給フニ過ギザリシ、 皇帝ノ位ニ即キ給ヒシ時ニ於テ朝廷ト幕府トノ間ニ確執興リ、漸ク戰爭ヲ啓クニ至リシガ、世ノ知ル如ク終ニ幕府ノ敗局ニ歸シ、千八百六十九年京都ニ近ク數回ノ戰爭及ビ大阪城ノ沒落ヲ以テ其ノ局ヲ結ビ、日本政權ハ盡ク 皇帝ノ掌内ニ歸セリ。

將軍ハ此ノ沒落ノ後難ヲ避ケ、初メニ合衆國ノ砲船ニ身ヲ潜メ、後之ヲ去ツテ王家ノ軍勢ノ擒獲スル所ト爲リシガ、將軍ハ非常ノ恩典ヲ以テ一死ヲ免カルヲ得タレドモ、政權、官職、領地ハ盡ク褫奪サレ、今日ハ東京ヲ距ル殆ンド一百英里ナル靜岡ノ一小市ニ於テ貴人ノ格ヲ以

テ閑散無事ニ世ヲ送ラル、ト謂フ。皇帝ハ既ニ政ヲ親ラセラル、ニ至ルヤ、都ヲ往昔幕府ノ根據タル東京ニ移サレ、皇帝一身ノ生活上及ビ國務ニ付大ニ改革ヲ行ハセラレタリ。皇帝ハ儀式ノ大典ニ於テハ必ラズ歐洲流ノ衣服ヲ着ケラレ、陸海軍、警察其ノ他文官ニ至ルマデ一切歐洲ノ制ヲ用キルコトトナリ、昔日ノ諸侯ハ、皇帝ノ白日市街ヲ行幸シ給フヲ見テ一驚ヲ喫セザルハ無カリシト雖モ、今日ニテハ何人ニテモ市街ニ於テ、龍顏ヲ拜瞻スルヲ得レバ、少シモ疑惟ノ念ヲ生ズルコト無キナリ。

今上帝ト比較シテハ猶ホ今日ニ於テモ明宮殿下ハ大ニ自由ノ境界ニ在シマシ、今ハ昔物語トナリテ人ノ口碑ニ傳フル昔時王家ノ故典ハ、明宮殿下ニ取リテハ其ノ重キヲ加フル能ハザルベシ。日本皇帝ノ中ニ近世ノ教育ヲ受ケサセ給ヘルハ只ダ此ノ殿下アルノミナレバ、殿下ノ言行ハ取リモ直サズ古代歷史上曾テ見ザル一ノ成憲ヲ創作セルモノト云フベシ。殿下ハ非常ニ活潑敏捷ナル一少年ニマシマシ、清涼ナル黒色ノ炯眼ハ物ヲ視ルニ太ダ速カニシテ、所謂「ワンパク」子供ナルヲ知ルベシ。殿下ノ御身丈ハ米國六歲位ノ童子ニ彷彿タレドモ、其ノ威嚴ト其身ノ金枝玉葉タルヲ以テ其ノ地位權利自ラ外ニ顯ハレ、恰モ六十齡ノ老人モ尙ホ及バザルガ如キ尊嚴ナル趣アリ。殿下ノ御目ハ屢々日本人ノ容貌上ニ於テ見ルガ如ク斜仄ナラズ、殊ニ異ナルハ双眼ノ兩端ニ一小線ヲ引キタル如クニシテ、且ツ其ノ瞳孔ノ時ニ胸轉スルヲ以テ其ノ鋭

敏ナルヲ徵スベキナレドモ、猶ホ是レ東洋人種ノ特性ヲ有シテ歐洲人トハ自ラ其ノ趣ヲ異ニセラルモノナリ。

明宮殿下ノ容貌ヲ云ヘバ、日本兒童ノ極美ト稱スベキモノニシテ、其ノ頬上時ニ光輝ヲ呈スルヲ見ル。殿下ハ日本陸軍ノ佐官ノ位置ヲ占メサセ給ヒ、常ニ軍服ヲ着用サレ、星章アル帽子ヲ戴カセラル。冬季ニハ深緑ノ衣服ヲ着サレ、夏季ニハ白鷺色ノモノヲ用キサセラル。又殿下ハ乗馬ヲ好マセ給ヒ、其ノ外乗セラルルトキハ、供奉ノ佐官又ハ貴族ヲ具セサセラレ、往來ニ於テ列ヲ成シ、若シ人ノ殿下ニ敬禮ノ意ヲ表スルアレバ恰モ年少ノ將帥ノ如ク陸軍式ヲ用キテ一々之ニ答禮ヲ加ヘ給フ。且ツ殿下ハ佐官ノ位地ニ在ラセラレ給ヘドモ、躬ハ素ヨリ皇族ニテマシマセバ、常ニ侍從ニ訓導職、書記官、管馬官、傳令使等數多ノ陪從ヲ具セラルレバ、威嚴赫トシテ王者ノ行ヲ爲ス。此ノ貴族ノ陪從者ハ重ニ老人ニシテ其ノ年齢殆ンド殿下ノ父皇又ハ祖皇ト輩行ヲ同クスルモノ多ク、此等數多ノ陪從者ハ輪流ニ勤仕スレドモ、或ハ書籍ヲ携ヘテ學校ニ供奉シ、或ハ止マツテ宮殿ヲ守ルガ如キ此ノ活潑ナル幼君ノ命ニ從テ日夜翱翔スルニ餘暇ナク、翹々幼君遊戯ニ時ヲ遷サル、ノ間、僅ニ暇ヲ得ルト云フ。

明宮殿下ハ宮中ノ別殿ニ住ハセラレ、屢々皇太后ト共卓シテ食シ、又、皇帝、皇后兩陛下ニ侍坐セラルルコトモアリテ、西洋ノ食七、箸刀等ヲ使用セラル、コト尤モ熟シ、其ノ巧ミナ

ル日本ノ七箸ヲ使用スルニ異ナラズ。且ツ又外國ノ諸禮ニモ通曉シ給ヒ、「シヤパン」酒盃ヲ舉ゲテ健康ノ祝意ヲ表スルコト猶ホ日本固有ノ酒盃ヲ舉ゲラル、ト同一ニシテ、其ノ間毫モ難易アルヲ看ズ、皇帝陛下ノ膝下ニ在リテ對話シ給フニモ毫モ臆シタル氣色ナキコト、猶ホ近從ニ接スルガ如ク、平易ニ懇懃ノ應答ヲナシ給ヒ、時トシテハ父皇ニ對シ奉リテ意見ヲ吐露シ給フコトアリ。猶ホ普通親子ノ如クニシテ皇統連綿タル一百二十一代目ノ今上帝ニ接スルガ如クナラズ、皇帝ハ極メテ快裕ナル御氣質ナリ。

明宮殿下ハ東京ナル學習院ニ通學被遊、内ニ在リテハ侍講ニ依テ專ラ研究ヲ事トシ給フ。殿下ハ頗ル學ブニ捷ク、且ツ功名心ヲ抱ケル一書生ニシテ、日本人ノ性質トシテ稍ヤ沈靜ナルニモ係ハラズ、同窓ノ者ニ優レテ活潑ナル議論ヲナシ給フコトアリ。外國語ハ英語ヲ以テ第一ニ研究在ラセラル、事ニ決シ給ヒ、現時專ラ修業中ニテ、已ニ普通交際ノ談話ヲ能クシ給フニ至レリ。又學友ト共ニ綱引、蹴鞠、其ノ他學校ノ遊戲ニ加ハラレ、其ノ熱心ナル他ノ諸般ノ事ニ熱心セラル、ト異ナルコトナシ。

殿下ノ纒カニ七歳ニナラセ給ヒシ時、亞米利加ノ一小童ト圖ラズ格闘ニ及ビ給ヒタル事アリ。或時東京ノ學校ニ於テ饗饌アリシニ、殿下ハ之ニ臨マセ給ヒタルガ、傍ラニ彼ノ米國小童帽ヲ被リタルマ、列席シ居ルヲ以テ、殿下ハ侍從ニ命ジ「行ケ、彼ヲシテ脱帽セシメヨ」ト宣フニ、

侍從命ニ應ゼント逡巡スルヲ、殿下ハ遲シトシテ自カラ起テ彼ノ小童ノ前ニ進ミ、拳ヲ揮テ其ノ帽ヲ打落シ給ヒシカバ、彼ノ小童奮激ニ耐ヘズシテ攻撃者ノ誰ナルヲモ顧ミズ、直チニ殿下ヲ打返シタリ。一方ハ日本帝國ノ將來皇位ヲ踐ミ給フベキ儲君ナリ、一方モ亦他日或ハ大統領ノ地位ニ登ラセザランコトヲ保セザルナリ。果シテ然ラバ實ニ一奇談ト云ハザル可カラズ。斯クテ双方負ケズ劣ラズ挑ミ合ヒ、一場ノ騷動ヲ惹起セシガ、殿下ノ侍從及ビ米童ノ兩親ハ斯ノ有様ヲ見ルヨリ大ニ色ヲ失ヒ、百方之ヲ寬慰シテ竟ニ引分ケタレドモ、双方此ノ舉動ヲ以テ不當トナサズシテ各々憤然タル色アリキ。

米小童ハ謂フ「余ハ何ノ罪アラザルニ彼レ自カラ來テ余ヲ打テリ」ト、其ノ兩親ハ此ノ神聖ナル儲君ニ對シ大ニ恐怖ノ意ヲ表シタリ。

儲君ハ「余ハ唯ダ余ノ面前ニ於テ不敬ノ行ヒヲ爲シタル者ヲ罰シタルノミ」ト宣ヒツツ腰帶ノ間ナル小劍ヲ弄シ居給ヘリ。

此ノ争鬪ハ饗饌ノ爲ニ一ノ奇劇ヲ演ジタリ。後、晚餐ノ始マルニ至リ、殿下ハ彼ノ小童ト臆ヲ接シ卓ニ就カレ、小童ノ姉妹ナル嬋娟タル女子ト冰果及ビ其ノ他ノ果物ヲ食セラレタリ。

殿下ハ 皇帝陛下ニ似給ヒテ馬ヲ愛シ、又競馬ヲ愛セラル。春季、秋季ノ競馬ニ赴キ、或ハ陛下ト共ニ臨御アラセラル、トキハ、競馬場ニ於テ日本唱歌ノ洋樂ヲ奏シ 皇帝陛下ノ如キ

榮譽ヲ以テ奉迎セラル、殿下ハ上野公園ノ競馬場ニ臨マル、トキ殆ンド御手程ノ長サナル望遠鏡ヲ持セ給ヒ、競馬ノ勝敗ノ將ニ決セントスルニ至リテ他ノ拜觀人ト一般ニ熱心ニシテ望見セラル。殿下ハ又他ノ武術ヲ嗜セラレ、往昔諸藩傳來ノ武藝、劍術、相撲等ヲ熱心ニ觀玩セラル。往時ノ貴族ハ猶ホ保守主義ヲ懷クヲ以テ、殿下ノ此ノ如キ外面ニ逍遙シ給ヒ、外部ノ世界ニ密接セラル、ヲ可トセズシテ以爲ラク、殿下ハ甚ダ急進ニ過ギタリト非難スレドモ、是レ外國王室皇族ノ實況ヲ知ラザルモノニシテ、實ニ殿下ハ王政復古以來始メテ此ノ新世界ニ教育セラレ、ノ新君ナレバ、其ノ教育ノ異ナルハ敢テ恠シムニ足ラザルガ、聞ク殿下寶齡十五六ニ達シ給ハ、侍講ト俱ニ海外ニ漫遊セラルベキ企テアリト。誠ニ殿下ニシテ數年間外國ニ漫遊シ給ヒ、各國ノ大都ヲ遊覽シ、政體、文物、人情、風俗ヲ視察シ給ハ、殿下將來日本國ヲ統御シ給フ時ニ至リテ強記博聞ノ明君ト成リ給ハンコト期シテ俟ツベキナリ。

(千八百八十九年七月米國出版「セント、ニコラス」雜誌所載「イ、アール、シドモール」女投書)

東宮御教育上ニ關スル意見

伯爵 日野 資 秀

時下愈々御盛昌奉恭賀候。偕小生義 東宮殿下御幼少ノ時ヨリ御附致シ居リ、其後五ヶ年間英へ留學被仰付、昨年歸朝候處、直チニ東宮侍從被仰付候。然ルニ小生少々相考へ候次第有之候ニ付、右侍從ハ御免相願度旨屢々宮内大臣へモ申述候へ共、先々姑ク相勤メ候様被申候ニ付、過日迄相勤メ申來リ候。然ルニ歸朝後、東宮御教育ノ模様不宜ト存候ニ付、度々宮内大臣へモ其改良ノ義ニ付愚見申述、又過日モ別紙職制改正ノ意見書差出シ候處、右ノ内將官ニ對シ不禮ノ言辭アリトテ黒川武官長大ニ立腹、宮内大臣へ申立、遂ニ小生免官ト相成候。乍去現今東宮御殿腐敗ノ原因ハ別紙ニ記載候通り、教育ノ事ヲ知ラザル者東宮御教育ノ任ニ當リ、遂ニ其御教育ノ方法ヲ誤リタルト、又其職制其當ヲ得ズ、部内ノ不和ヲ來セル等ヨリ起レル事ト考定、實ニ慨嘆之至リニ不堪候。

就テハ是非トモ適當ナル改正ヲ要スルコトト確信候間、別紙職制改正ノ鄙見書供御内覽候。國家ノ爲メ又 帝室ノ御爲メ御熟考被成下度奉願候。尙ホ拜顔ノ上詳細ノ狀況申述、且ツ尊慮モ相侘候間、來十九日午前九時參上仕度、若シ同日時御差支等モ被爲在候ヘバ、御都合ノ日時御一報被成下度奉希望候。勿々拜具

明治卅八年十月十七日

伯爵 日野 資 秀

侯爵 伊藤 博文 殿

玉机下

現武官長ノ御教育方針一斑

現武官長ノ御教育方針ト申ス程ノ事ハ嘗テ聞キタルコトナケレドモ、其時々言フ所ヲ聞クニ、

我 帝室ハ尊嚴ニシテ神聖不可犯モノナリ、故ニ皇太子ノ御教育モ其尊嚴神聖ヲ維持スルヲ期セザルベカラズ。而シテ之ヲ維持スル方法如何ト云フニ未ダ明言セザレドモ、其平素ノ談話、其處置等ニ就テ考フルニ、東宮御外出又ハ拜謁等ノ場合ニハ、儀式ヲ莊重ニシ、常侍奉仕ノ人ハ禮讓以テ 皇太子ニ對シ奉ラザルベカラズ云。又殿下ニハ御缺點モアラセラル、コトナレバ、可成之ヲ衆人ニ示サバ爾様注意セザルベカラズ。例ヘバ佛語ノ如キ現今御修學中ナレドモ、可成諸人ノ前ニテ御話シナキヲ望ム。何トナレバ其御不完全ナル點ヲ諸人ニ知ラシムル憂ヒアレバナリト。

上記ノ事ハ現武官長ノ屢々言フ所ナリ。余惟フニ今日ハ 皇太子ノ御資格ニモアラセラル、コトナレバ、御外出又ハ公ケノ拜謁等ノ場合ニ相當ノ儀式ヲ御用ヒニナルコト至當ノコトニシテ、又常侍諸官ノ 皇太子ニ對シ奉リ、君臣ノ禮儀ヲ守ルベキコト亦勿論ノコトニシテ、敢テ今日喋々スルヲ要セザルナリ。此ノ如キ事ハ御教育ノ方針ト言フヨリハ、寧ロ東宮御外出ノ儀式又ハ奉仕者ノ心得ト言フ位ノコトニシテ、抑モ末事ナリ。嘗ニ其末事タルノミナラズ、益々此ノ如キ事ヲ主張スル時ハ諸事虛禮虛飾ニ流レ、其結果御教育ノ點ヨリ申セバ、殿下ヲシテ傲慢ノ御性質ヲ養ハシメ、又帝室論ヨリ申セバ、反テ其尊嚴ヲ冒瀆スルニ至ルノ恐レアリ。又君臣ノ禮讓云々惡シキニ非ザレドモ、今日ハ 皇太子トハ申シ乍ラ御教育ノ肝腎ナル御年齡ナル

ヲ以テ、諸事簡易質素御實益ヲ得サセラル、ヲ主トセザルベカラズ。然ルニ若シ君臣禮讓ノコトヲ主トスル時ハ、諸事窮屈不活潑ニ陥リ、其弊ヤ殿下モ親密ニ御話シ遊バサレ難ク、臣下モ自由ニ御話シ申上グルヲ得ザルコトナリ、遂ニ上下ノ意志貫徹セズ、殿下ヲシテ不愉快ヲ感ゼシメ奉リ、又勇壯快活ナル御精心ヲ挫折スルニ至ル恐れアリ。故ニ苟クモ殿下ノ御威嚴ヲ損セザル限リハ儀式禮讓等ノ末事ニ拘ハラズ、種々ノ人ニモ御接シ被遊、又種々ノ談話ヲモ御聽キ遊バサレテ社會ノ事情ニモ御通曉、且ツ御衛生上愉快ニ御生活被遊コト最モ必要ナリ。皇太子ノ御威嚴トカ又君臣ノ禮讓トカ言フガ如キ枝葉ノ事ハ今日之ヲ喋々セズトモ、御教育ノ方針確定スル以上ハ自然ニ御都合克クナリ行クナリ。又御缺點ヲ御隱クシ申ス云々、佛語ノ例ニ於テモ成程殿下御成人ノ上外國公使等ト御對話ノ際、不完全ナル佛語ヲ御話シ遊バスコトアレバ却テ御話シ不被遊ノ勝レルコトモアランナレドモ、今日ハ御修學中ニテ左程公然ノ場所ニ御臨ミノコトモナキコト故、其御不完全ノ點ヲ可成完全ニスル様御導キ申サネバナラヌコトナリ。然ルニ其御缺點ヲ蔽フト稱シテ、成ルベク御話シ不被遊様ナス時ハ、到底佛語ノ御進歩遊バス時ナク大間違ノ考ヘト存候。

東宮職々制改正之意見

伯爵 日野 資 秀

現今ノ東宮職制即チ武官長制度ハ、獨逸ニ於テ皇太子ノ武事教育補佐者ハ武官ヨリ出ヅルヲ以テ、我國ニ於テモ此例ニ倣ヒタルモノナリト聞ク。然レドモ獨逸ニ於テモ皇太子ノ武事教育補佐官ニ職制上其獎匡輔弼ノ大任ヲ與ヘラレタルヲ聞カズ。又其武事教育補佐官ニ武事以外ノ一般ノ教育（即チ文事教育ヲ云フ）ノ全權ヲ與ヘラレタルヲ聞カザルナリ。然ルニ現今ノ我が職制ハ武官長ニ皇太子ノ獎匡輔弼ノ大任ヲ與ヘ、又武事以外一般ノ御教育ノ責任ヲモ有セシムルコトトナリ居レリ。抑モ歐洲ニ於テハ皇室ノ組織頗ル簡易ニシテ、殊ニ御父子ノ御間柄等ノ事ハ人事ノ常トシテ普通人民ノ家族ト異ナル所ナク、皇太子御丁年前又ハ立妃前ハ、多クハ其父帝母后ト同居セラル、ヲ以テ、其獎匡ノコトノ如キハ父帝母后ノ親ヲ任ゼラル、所ナリ。然

ルニ我國ニ於テハ古來ノ御慣習、歐洲ト同ジカラズ、現ニ東宮職ナルモノアリテ皇太子立妃前ト雖モ其宮殿ヲ別ニセラレ、隨テ兩陛下御自ラ之ヲ御監督遊バサレズ、且ツ東宮殿下未ダ御成年ニ達セラレザルヲ以テ、此ノ如キ大任、即チ獎匡ノ事マデヲモ武官長ニ御委任遊バサレタルコトカト推想シ奉ル。又歐洲特ニ獨露ノ如キ尙武ノ國ニ於テハ、皇太子普通學ヲ卒ハラレタル上ハ、武事ノ教育ヲ主トセラル、ヲ以テ、之ヲ補佐セシメラル、ガタメ適當ナル武官ヲ附セラル、ト聞ク。然レドモ現今ノ我が東宮職制ノ如ク未ダ普通學ヲモ濟マセラレザル前ヨリ、御教育全般ノ責任ヲ武官長ニ委セラル、コトハ未ダ聞カザル所ナリ。

皇太子ハ未來ノ大元帥ナルヲ以テ、武官御教育ノ全權ヲ有セザルベカラズトノ説アリ。然レドモ若シ此論旨ニ從フ時ハ皇太子ハ未來ノ民政ヲ總攬セラル、主權者タルヲ以テ、文官モ亦其御教育ノ全權ヲ有セザルベカラズト言ハザルベカラザルニ至ル。故ニ文武官ニ限ラズ、適當ナル人物ニ其御教育ヲ御委託アリテ可然コトト存候。又武事ノ御精心ヲ涵養スル爲メ、御教育主任者ハ將官タラザルベカラズトノ説アレドモ、是レ亦前述ノ通り一方ニハ未來ノ大元帥、他ノ一方ニハ未來ノ民政ノ主權者タラセラレザルベカラザルコト同一ノ論旨ニ歸シ、之ガ爲メ故ニ御教育ノ主任者ハ將官タラザルベカラズトノ議論不相立ト存候。又此ノ武事ノ御精心御涵養ノタメノミノコトナレバ、將官必ラズシモ御教育ノ主任者タラズトモ、他ニ適當ナル東宮武官

ノアルアレバ、ソレニテ十分ナリト存候。

又假リニ歐洲尙武ノ國ニ於テハ皇太子ノ教育ノ程度如何、又其他ノ事情如何ニ係ハラズ其教育ノ主任者ハ武官ヨリ出ヅルトスルモ、我國ニ於テハ必ラズシモ之ニ模倣スルノ必要ナシト存候。何トナレバ從來我國諸事歐洲ノ制度ヲ採ルト雖モ、其中ニハ我國ニ適スルコトト適セザルコトトコレアリ、即チ其外形ヲ歐洲ノ例ニ倣フト雖モ、其精心大ニ之ニ反スルコトコレアリ。例ヘバ此ノ皇太子附武官ノ如キモ、歐洲ニ在テハ普通教育モアリ、又武官専門ノ教育モアリ、且ツ十分ノ經驗ヲ有スルモノノ中ヨリ帝王ノ特選セラル、モノナリト雖モ、我國武官特ニ將官中ニハ普通學ハ勿論、其本分タル武事ノ教育スラナキ者、明治維新ノ風雲ニ乗ジ、又ハ西南ノ役等ノ功ニ依リ今日ノ地位ヲ占メタル者尠ナシトセズ。此ノ如キ人物ヲ以テ今日御大切ナル皇太子ノ文武ノ御教育ヲ掌ラシム、實ニ危險ナル次第ナラズヤ。是レ我國ノ武官ハ其性質大ニ歐洲ノ武官ト異ナル所アルヲ以テ、強テ歐洲ノ例ニ倣ヒ、武官ヲ以テ皇太子ノ御教育ノ主任者トナス必要ナシトスル所以ナリ。況ンヤ歐洲ニ於テモ皇太子ノ教育ノ程度如何、其他ノ事情如何ニヨリテ武官必ラズシモ其教育ノ主任者タラザルニ於テヤ。

東宮御教育ノ主任者ヲ定メントスルニハ少ナクトモ左ノ二點ヲ考慮セザルベカラザルコトト存候。第一從來我國ノ東宮制度ハ如何、第二現今東宮殿下ノ御教育ノ程度ハ如何、第一、從

來我朝ノ東宮制度ハ東宮坊ナルモノアリテ東宮ノ傳ヲ置カレ、大臣之ヲ兼ヌルノ制ニシテ、皆文官ナリ。コレ朝廷文弱ニ流ルル時ノ制度ナリト雖モ、現今ノ如ク全ク武官ニ限ル制度トハ正反對ナリ。又今日ノ東宮殿下御幼少ノ時ノ御慣例ヨリ觀ルモ、曾我中將ヲ除クノ外ハ皆文官ニシテ、今日ノ武官長制度ハ從來我朝ノ制度ニ激變ヲ來シタルモノト言ハザルベカラズ。第二、現今東宮御教育ノ程度如何ヲ觀ルニ、僅カニ尋常、中學ノ初級ニシテ、即チ普通學ノ初歩ニ被爲在、而シテ其最モ御大切ナル時期ナリ。此他補助學科トシテ乘馬、體操、練兵等ノ御武科アリト雖モ、是レハ東宮武官ノアルアリテ各々其熟練ノ技能ヲ御授ケ申上グレバ十分ナリトス。左レバ現今並ニ今後數年間御教育ノ主要ナルモノハ普通學ニアラセラル、ナリ。此時ニ當リ故_{コトナ}ラニ文事ニ通ゼザル將官ヲ以テ東宮御教育ノ主任者トスルノ必要アリヤ否ヤ、識者ヲ俟タズシテ明カナリ。嘗ニ其必要ナキノミナラズ、單ニ今日御教育ノ程度ノ點ヨリ觀ル時ハ寧口適當ナル文官ノ將官ニ勝レルヲ知ルナリ。

武官長制度設立以來ノ經驗ニ依リ徵スルニ、純粹ノ武官(文事ヲ兼備セザル武官ヲ云フ)御教育ノ主任者タル時ハ三ツノ弊アリ。第一、教育上ノ思想ニ乏シ、現今東宮殿下御教育主任者ノ最モ大切ナル資格ハ何カト申セバ、即チ現今ノ教育上ノ思想ヲ有スルコトコレナリ。假令完全ナル教育上ノ思想ナキモ少ナクトモ十六七歳ノ童兒ヲ教育スルニ足レル近世開化的ノ思想ヲ

有セザルベカラザルコトナリ。サテ此教育上ノ思想トハ何カト申セバ、即チ東宮殿下ノ御性質、御體質、御愛憎ノ傾向、御癖、其他御長所、御短所等ヲ能ク知悉シ、御體力相應ニ御教育ノ方針ヲ定メ、又御癖、御缺點等モ殿下ノ御性質及ビ御愛憎ノ傾ク所ニ從ヒ、徐々ト穩和ニ御匡正申上ゲザルベカラザルコトナリ。是等ノ事ヲナスニハ緻密且ツ深遠ニ思慮ヲ運ラシ、又現今ノ教育學ノ道理ヲモ參照セザルベカラズ。然ルニ此ノ如キ深奥ナル道理ハ教育學及ビ心理學ノ範圍ニ屬スルコトニシテ、普通文事通曉ノ人ニテモ隨分困難ナルコトナレバ、況シテヤ武事一片ノ武官ニ於テハ最モ不長所ナリトス。此故ニ上記ノ完全ナル教育上ノ思想ヲ有スル人ハ望ムベカラズトスルモ、少ナクトモ近世ノ開化的進歩思想ヲ有スル人タラザルベカラズ。然ルニ此ノ如キ人物モ現今ノ老年將官中ニ得易キヤ否ヤ知ルベカラズ。是レ純粹ナル武官ヲ以テ御教育ノ主任者トナス第一ノ弊ナリ。

純粹ナル武官ヲ以テ御教育ノ主任者トナス第二ノ弊ハ、諸事號令的ニ出ヅルニアリ。即チ多年士卒ヲ號令セシ腦髓未ダ脱却セザルヲ以テ、事ヲ處スル兎角規律號令的ニ出デ、部下ノ人之レニ心服セズ、萬事圓滑ニ行ハレザル弊アリ。抑モ東宮殿下中山邸ヨリ明宮御殿ニ御移リ以來、舊來ノ深宮御成長ノ爲ニ倣ハズ、諸事簡易質素ヲ旨トシ、虛禮虛飾ヲ省キ、可成社會ノ事情ニ御通曉、且ツ智、體兩育ノ上ニ御實益ヲ得サセラルルヲ主トセリ。是ヲ以テ明宮御殿ハ猶ホ一

個ノ塾舎ノ如ク、又御教養主任以下近侍ノ諸員各々其官ノ高下責任ノ輕重アリト雖モ、皆師弟ノ如ク、父子ノ如ク、又兄弟ノ如ク、協同一致相互ニ相談シテ諸事ヲ行ヒ、又時々集會ヲ開キテ近侍者一同ノ意見ヲ吐露セシメ、以テ御教養ノ方法ヲ定ムル等ノコトアリテ、上下一致、近侍者一同和氣雍々ノ中ニ奉仕シ來レリ。又立太子後ト雖モ表向ノ場合、即チ御外出又ハ公然拜謁被仰付等ノ場合ノ外、御内廷ニ於テハ苟クモ殿下ノ御威嚴ヲ損セズ、又臣下ノ敬禮ヲ缺カザル限リハ、從前ノ方針ニ從ヒ諸事御簡易ヲ旨トシ奉仕致シ來レリ。是ヲ以テ殿下モ御快活ニ御生活遊バサレ、近侍者モ愉快ニ奉仕シ來レリ。然ルニ武官長御教育ノ主任者トナリシ以來、從來御教養ノ慣習ヲ熟知セズ、殿下ノ御性質、御體質等ヲモ詳查セズ、舊來ノ近侍者トモ事ヲ謀ラズ、唯々是レ迄士卒ヲ號令セシ時、其事ノ善惡是非ニ係ハラズ唯ダ己ノ意志ヲ貫徹セシメタルノ例ヲ以テ諸事ヲ處斷スルヲ以テ、往々前例ト齟齬衝突ヲ來シ、遂ニ諸事圓滑ニ行ハレザルノ風ヲ生ゼリ。抑モ殿下御教育ノ事タル、軍隊ヲ取扱フ規律號令的ノ處置トハ全ク反對ナラザルベカラザルコトニシテ、御殿ノ慣習、殿下ノ御特質、御體質等ヲ詳悉シ、又部下近侍者ノ意見ヲモ能ク聽キタル上、深思熟慮、協同一致以テ其進路ヲ定メザンバ到底施行シ得ベキ事ニ非ザルナリ。然ルニ純粹ノ武官御教育ノ主任者タル時ハ、前述ノ如ク唯ダ士卒號令的一片ノ腦髓ニテ事ヲ處スルヲ以テ、諸事圓滑ニ行ハレザル結果ヲ來シ、遂ニ上下一致協和セザルコトトナ

リ、結局其累ヲ恐レ乍ラ殿下御教育ノ上ニ及ボスコトニ至ル、實ニ嘆息ニタヘズ。是レ純粹ナル武官ヲ以テ御教育ノ主任者トナス第二ノ弊ナリ。

純粹ナル武官ヲ以テ御教育ノ主任者トナス第三ノ弊ハ、宮中ノ事情ニ通ゼザルニアリ。尤モ普通ノ文官ニテモ宮中ノ事情ニ通ズル者尠ナシト雖モ、從來棚外ニアリテ兵卒ヲ號令スルノミノ職ニアリタル武官ハ、最モ宮中ノ事情ニ疎シ。抑モ東宮御教育ノ事タル、上 聖上ノ勅旨ヲ奉ジ、御教育ノ方針ヲ定メ、又時々拜謁、己ノ意見及ビ殿下ノ御模様等ヲ上奏セザルベカラザルモノニシテ、宮中ト密接ノ關係ヲ有スルモノナレバ、宮中ノ御様子ヲモ詳知スルヲ可トス。然ルニ此宮中ノ御様子ヲ詳知セザルモノ御教育ノ主任者タル時ハ、己レ自ラ東宮御教育ノ責任ヲ有シ乍ラ、親シク拜謁上奏スルコトヲモ得ザルコトトナリ、其結果ヤ東宮御殿ノ事情、宮中ニ通ゼズ、御發育ノ施行上ニ於テ非常ナル困難ヲ感ズルニ至ル、是レ純粹ナル武官ヲ以テ御教育ノ主任者トナス第三ノ弊ナリ。

現今ノ東宮職制ニテハ武官長、侍從長ノ兩職アリ。而シテ武官長ハ職制上東宮御教育ノ全權ヲ有スト雖モ、侍從長又侍從ノ長トシテ一ノ要職ナリ。一ハ武官ノ長、他ノ一方ハ侍從ノ長トシ、勢ヒ兩立互角ノ風アリ。若シ相方ノ意見相合ハザル時ハ之ヲ判定スルモノナク、往々衝突齟齬ヲ來シ、結局其累ヲ東宮御教育ノ上ニ及ボスノ弊アリ。故ニ新職制ニテハ兩職ヲ除クヲ可